

東京大学大学院新領域創成科学研究科  
人間環境学専攻

平成28年度  
修士論文

住民協創による中山間地域の維持に向けての  
まちづくりに関する研究

2017年2月3日提出

指導教員 鎌田 実 教授

学生証番号 47-156691

赤城 光春

# 目次

<b>第1章 序論</b> .....	<b>9</b>
1.1 研究背景.....	10
1.1.1. 社会背景.....	10
1.1.2. 中山間地域における住民主体のまちづくりの現状.....	11
1.1.3. 先行研究の整理.....	13
1.2 研究目的.....	14
1.2.1. 研究目的.....	14
1.2.2. 研究の新規性.....	14
1.3 本論文の構成.....	14
<b>第2章 事例調査による中山間地域の維持に向けた問題と解決策の整理</b> .....	<b>15</b>
2.1 はじめに.....	16
2.2 愛知県豊田市旭地区.....	16
2.3 旭地区のまちづくり.....	18
2.4 旭地区のまちづくりの詳細分析.....	20
2.5 旭地区集落ビジョンに関する聞き取り調査.....	31
2.5.1. 調査概要.....	31
2.5.2. 調査結果.....	31
2.5.4. 考察.....	37
2.6 第2章のまとめ.....	39
<b>第3章 対象地域の維持に向けた問題の調査</b> .....	<b>40</b>
3.1 はじめに.....	41
3.2 研究対象地域.....	41
3.2.1. 愛知県豊田市足助地区.....	41
3.2.2. 愛知県豊田市足助地区 H 自治区.....	43
3.3 H 自治区におけるアンケート調査.....	46
3.3.1. アンケート調査概要.....	46
3.3.2. 世帯向け調査の回答結果.....	46
3.3.3. 個人向け調査の回答結果.....	58
3.4 地域懇談会への参加.....	68
3.4.1. 区長を囲む会の概要.....	68
3.4.2. 区長を囲む会の参加結果.....	68
3.4.3. 区長を囲む会のまとめ.....	71
3.5 アンケート調査及び地域懇談会のまとめ.....	72

3.6	聞き取り調査.....	73
3.6.1.	聞き取り調査概要.....	73
3.6.2.	聞き取り調査結果.....	74
3.6.3.	考察.....	80
3.6.4.	聞き取り調査のまとめ.....	80
3.7	第3章のまとめ.....	81
<b>第4章</b>	<b>中山間地域の維持に向けた住民主体のまちづくりの実践.....</b>	<b>83</b>
4.1	はじめに.....	84
4.2	住民のまちづくりへの参加を促す方策の提案.....	84
4.3	愛知県豊田市足助地区H自治区C町.....	85
4.4	住民のまちづくりへの参加を促す方策の実践.....	87
4.4.1.	懇談会の実施.....	87
4.4.2.	懇談会不参加者への対応.....	97
4.5	住民主体のまちづくりの実践方策の結果.....	100
4.6	第4章のまとめ.....	100
<b>第5章</b>	<b>住民主体のまちづくりの実践方策に関する考察.....</b>	<b>101</b>
5.1	はじめに.....	102
5.2	住民主体のまちづくりの実践における問題.....	102
5.3	住民主体のまちづくりの実践方策に関する考察.....	102
5.4	住民主体のまちづくりの実践方策の予備的検討.....	104
5.5	第5章のまとめ.....	106
<b>第6章</b>	<b>結論.....</b>	<b>107</b>
6.1	本論文の結論.....	108
6.2	今後の課題.....	109
<b>引用文献</b>	<b>.....</b>	<b>110</b>
<b>付録A</b>	<b>.....</b>	<b>113</b>
A.1	アンケート調査依頼状.....	114
A.2	世帯向け調査票.....	115
A.3	個人向け調査票.....	119
<b>付録B</b>	<b>.....</b>	<b>122</b>
B.1	第1回区長を囲む会議事録.....	123
B.2	第2回区長を囲む会議事録.....	128
B.3	第3回区長を囲む会議事録.....	131
<b>付録C</b>	<b>.....</b>	<b>134</b>
C.1	第1回懇談会募集資料.....	135
C.2	第3回懇談会募集資料.....	136

C.3	第1回懇談会資料.....	139
C.4	第2回懇談会配布資料.....	153
C.5	第3回懇談会配布資料.....	157
C.6	第4回懇談会配布資料.....	162
<b>付録 D</b>	<b>.....</b>	<b>165</b>
D.1	第1回懇談会議事録.....	166
D.2	第2回懇談会議事録.....	170
D.3	第3回懇談会議事録.....	178
D.4	第4回懇談会議事録.....	184



## 目次

図 1.1	農業地域類別の年齢別人口構成 .....	11
図 1.2	わくわく事業の認知度 .....	12
図 2.1	旭地区の地理（Google マップより作成） .....	16
図 2.2	旭地区の人口・高齢化率の推移 .....	17
図 2.3	旭地区のまちづくり計画 .....	18
図 2.4	旭地区前期集落ビジョン .....	19
図 2.5	旭地区の地域の課題や問題点に関するアンケート結果 .....	20
図 2.6	三阪の環境問題の認知・行動モデル .....	38
図 2.7	本研究で用いる認知・行動モデル .....	38
図 3.1	足助地区の地理（Google マップより作成） .....	42
図 3.2	平成 19 年から平成 25 年の足助地区の人口推移 .....	42
図 3.3	平成 19 年から平成 25 年の豊田市全体の人口推移 .....	43
図 3.4	H 自治区及び各集落の地理 .....	44
図 3.5	平成 19 年から平成 25 年の H 自治区の人口推移 .....	45
図 3.6	H 自治区の 10 年後の人口増減率 .....	48
図 3.7	集落毎の現在と 10 年後の高齢化率 .....	49
図 3.8	高齢者の有無から見た現在と 10 年後の世帯構成の変化 .....	50
図 3.9	持ち家と借家の割合 .....	51
図 3.10	将来の家屋の状態 .....	52
図 3.11	将来の空き家の管理方法 .....	52
図 3.12	農地の所有有無 .....	53
図 3.13	現在及び将来の農地の管理方法 .....	54
図 3.14	管理できない農地の管理方法の希望 .....	54
図 3.15	山林の所有有無 .....	55
図 3.16	現在及び将来の山林の管理方法 .....	56
図 3.17	管理できない山林の管理方法の希望 .....	56
図 3.18	年齢別のアンケート回答者の割合 .....	58
図 3.19	職業別の回答者の割合 .....	59
図 3.20	H 自治区において取り組むべき課題の回答 .....	60
図 3.21	まちづくり活動への参加意欲に関する回答 .....	61
図 3.22	地域別の H 自治区において取り組むべき課題の回答 .....	63
図 3.23	年齢別の H 自治区において取り組むべき課題の回答 .....	64
図 3.24	職業別の H 自治区において取り組むべき課題の回答 .....	66
図 4.1	C 町の住居がある地域の全体図 .....	86

図 4.2	C 町に位置する農村舞台 .....	86
図 4.3	懇談会で作成された C 町の集落ビジョン .....	96
図 5.1	超小型電気自動車 .....	104
図 5.2	貸し出し実験に用いた車両 .....	105

## 表目次

表 1.1	農業統計上の地域類型 .....	10
表 1.2	都市類型別人口の増減 .....	10
表 2.1	旭地区第2期5か年計画の取り組み項目 .....	21
表 2.2	旭地区5か年計画から見る中山間地域の問題の整理 .....	24
表 2.3	後期集落ビジョンの取り組み内容の整理 .....	25
表 2.4	A集落の前期集落ビジョンの実践状況 .....	33
表 2.5	A集落の後期集落ビジョンの実践状況 .....	34
表 2.6	B集落の前期集落ビジョンの実施状況 .....	36
表 2.7	集落ビジョンの実践要因の整理 .....	37
表 3.1	H自治区の各集落の面積及び人口 .....	44
表 3.2	アンケート調査の回収状況 .....	47
表 3.3	世帯向け調査で得られた問題の整理 .....	57
表 3.4	世帯向け調査で得られた集落の特徴 .....	57
表 3.5	アンケート調査の回収状況 .....	58
表 3.6	H自治区において地域住民が考えている取り組むべき課題 .....	67
表 3.7	集落毎の取り組むべき課題の回答の違い .....	67
表 3.8	区長を囲む会の概要 .....	68
表 3.9	区長を囲む会における発言のカテゴリー分類 .....	68
表 3.10	区長を囲む会で得られたH自治区の問題 .....	71
表 3.11	区長を囲む会で得られた取り組みへの住民参加に関する問題 .....	71
表 3.12	アンケート調査及び区長を囲む会で得られたH自治区の問題のまとめ .....	72
表 3.13	アンケート調査及び区長を囲む会で得られた住民参加の問題のまとめ .....	72
表 3.14	アンケート調査及び区長を囲む会で得られた集落毎の特徴と課題 .....	73
表 3.15	聞き取り調査で得られた発言の分野別のカテゴリー分類 .....	74
表 3.16	聞き取り調査で得られた発言の住民参加に関するカテゴリー分類 .....	74
表 3.17	各カテゴリーの言及割合 .....	78
表 3.18	カテゴリー間の共起確率 .....	79
表 3.19	聞き取り調査で得られたH自治区の問題 .....	80
表 3.20	聞き取り調査で得られた住民参加に関する問題 .....	80
表 3.21	H自治区の現状と問題のまとめ .....	81
表 3.22	H自治区の課題と各集落の特徴のまとめ .....	82
表 3.23	地域問題への取り組みにおける住民参加の問題のまとめ .....	82
表 4.1	住民のまちづくりへの参加を促す方策のまとめ .....	85
表 4.2	懇談会の概要 .....	88

表 4.3	懇談会の内容.....	88
表 4.4	第 1 回懇談会で得られた C 町の問題点に関する発言.....	89
表 4.5	第 2 回懇談会で得られた C 町の問題点 .....	91
表 4.6	第 2 回懇談会で得られた地域の将来の希望に関する発言 .....	92
表 4.7	第 3 回懇談会で得られた将来の希望の実現方策に関する発言.....	94
表 4.8	第 4 回懇談会で得られた C 町の集落ビジョンに関する発言.....	95
表 4.9	懇談会不参加者への聞き取りのカテゴリー分類.....	97
表 5.1	C 町の年齢別の人口 .....	103
表 5.2	貸出車両の諸元 .....	105

## 第1章 序論

## 1.1 研究背景

### 1.1.1. 社会背景

日本の国土の内、約7割が平野の外縁部から山間地に当たる、中山間地域である [1]。中山間地域は、表 1.1 に示す中間農業地域及び山間農業地域に該当する地域と定義される [1]。中山間地域には、表 1.2 に示すように、日本の全人口の約1割の人が生活しているが、平成12年から平成22年の間に人口が約9%減少しており、他の地域と比較して、過疎化の傾向が著しい [2] [3] [4]。また、図 1.1 に示すように、中山間地域では平成22年度においても、全人口に対して65歳以上の人が占める割合が3割を超えており、他の地域と比較して高齢化も進行している [2] [3] [4]。こうした過疎化、高齢化の傾向に伴い、これまで行われてきた集落機能の継続が困難になり、地域消滅といった事態が生じている [5]。

そこで、中山間地域の維持を目指したまちづくりが求められる。これまで、まちづくりは行政が主体となって行われる取り組みが主であった。しかし近年、行政だけでなく多様な民間主体を地域づくりの担い手として位置づけ、地域住民自らが地域における課題を認識して、まちづくりに取り組むことが求められている [6]。

表 1.1 農業統計上の地域類型

農業地域類型	基準指標
都市的地域	人口密度が 500 人/km <sup>2</sup> 以上、DID 面積が可住地 5% 以上を占める等都市的な集積が進んでいる市町村
平地農業地域	耕地率 20%以上、林野率が 50%未満又は 50%以上であるが平坦な耕地が中心の市町村
中間農業地域	平地農業地域と山間農業地域との中間的な地域であり、林野率は主に 50%~80%で、耕地は傾斜地が多い市町村
山間農業地域	林野率が 80%以上、耕地率が 10%未満の市町村

表 1.2 都市類型別人口の増減

(単位：万人，%)

	平成 12 年	平成 22 年	増減率
都市的地域	9, 759	10, 077	3. 3
平地農業地域	1, 306	1, 260	▲ 3. 5
中間農業地域	1, 177	1, 086	▲ 7. 7
山間農業地域	451	384	▲ 14. 9
計	12, 693	12, 806	0. 9

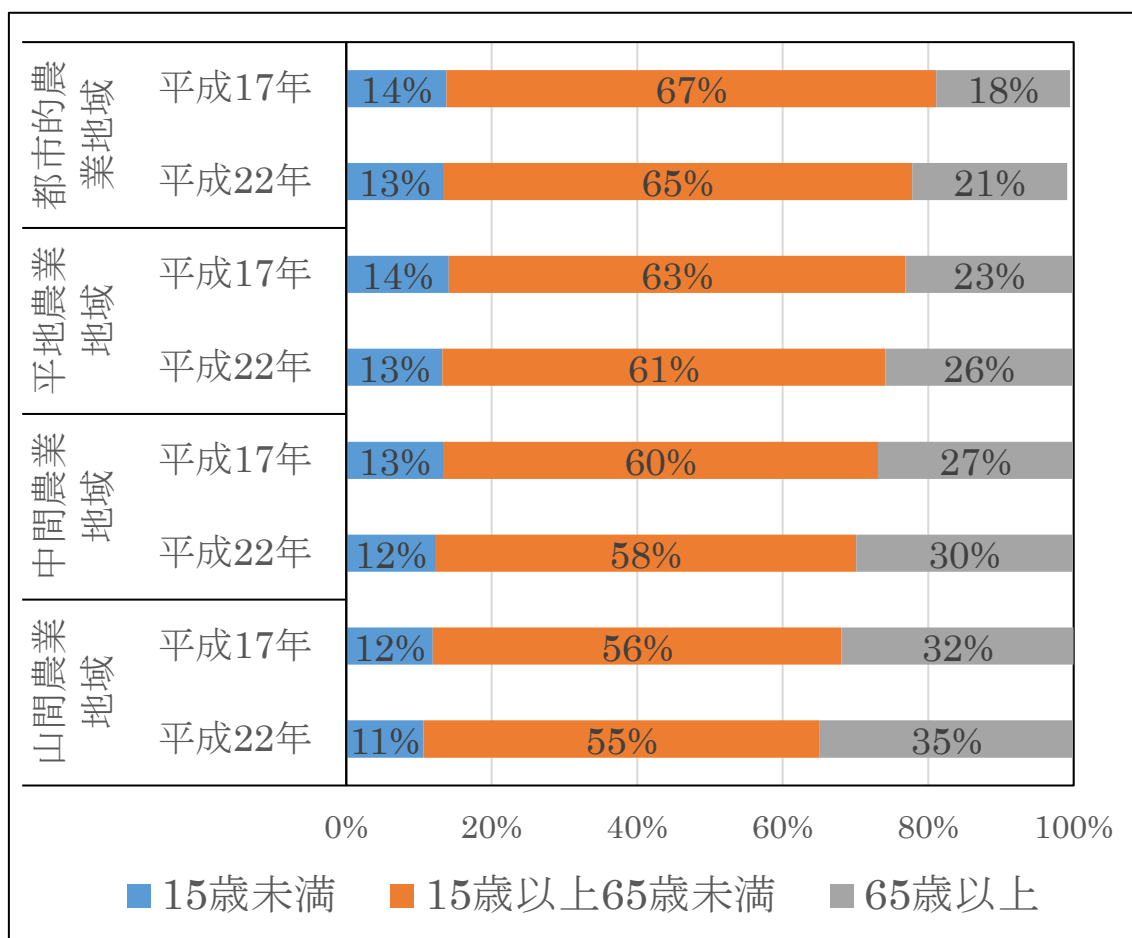


図 1.1 農業地域類別の年齢別人口構成

### 1.1.2. 中山間地域における住民主体のまちづくりの現状

中山間地域における住民主体のまちづくりには、住民自身が課題を認識して起動する、住民発意型のまちづくりと、行政などの外部機関を主導として始まり、ある段階から住民主体に移行していくまちづくりが存在する。

前者の住民発意型のまちづくりについて紹介する。こうした、地域の人や団体が発案した個別の取り組みに対する、行政の支援事業が存在する。ここでは、愛知県豊田市の支援事業である、わくわく事業の支援を受けた住民発意型のまちづくりの状況と、問題点について説明する。市によると、わくわく事業は、「地域の人たち」が「地域の課題解決」に取り組む「事業」に対して「補助金」として活動を助成する仕組みであり、事業の主体は地域の5人以上で活動する自主的なグループや市民活動団体である。また、事業の目的は、まちづくりの担い手が育つことと、地域が活性化することとしている [7]。

現在、愛知県豊田市全体では、274 の事業が行われている。また、豊田市の中山間地域である足助地区においても、健康体操を通じて地域住民の健康増進を図るとともに、コミュニケーションの場づくりを行う事業や、歴史・伝統・慣習の伝承を目的とした「足助の聞き書

き集」の発行を行う事業など、10 の事業がわくわく事業の補助金を受けて取り組まれている。しかし、図 1.2 は愛知県豊田市全体と、豊田市に含まれる中山間地域である足助地区における、わくわく事業の認知度に関するアンケート結果であるが、事業の存在を具体的に把握している人は、豊田市全体で 1 割程度、中山間地域である足助地区においても、約 2 割しかいないことが分かる [8]。このように、こうした個別の取り組みは、中山間地域においても、一部の住民だけで取り組まれている場合がある。

後者の、行政などの外部機関から地域住民へ呼びかけて、自治区や集落を単位として、住民が主体となって取り組むことを決めるまちづくりについて紹介する。ここでは、愛知県豊田市の中山間地域の一つである旭地区における、旭地区まちづくり計画の一部である、旭集落ビジョンについて説明する。旭集落ビジョンは、旭地区を構成する 35 集落がそれぞれ、2011 年から 2015 年の 5 年間の地域づくりの方針と具体的な取り組みを計画したものになる [9]。

集落ビジョンの計画の策定は、各集落で 3 回を目途に懇談会が行われた。懇談会には、集落を構成する世帯が 10 程度の小さな集落では、既存の定例会などの集落全戸が集まる機会に合わせて行われるため、ほぼ全ての世帯が参加する。一方で、世帯数が多い大きな集落では、全戸が集まる機会がないため、いずれの懇談会にも参加しない住民が一部存在する [10]。このように、計画策定段階で、話し合いに参加できない住民が一定数存在することが分かる。また、集落ビジョンに掲げられたが、現実には様々な障害から取り組まれないままになっていることも存在する。

ここまで述べたように、住民主体のまちづくりには、初動期から住民発意で行われるものと、行政などの外部機関を主導として始まるものが存在する。しかし、いずれの方法にも、まちづくりへの関心の低い、不参加者の存在がある。また、外部の主導で始まる場合、地域住民主体の活動へと移行しない場合があるという問題が存在する。

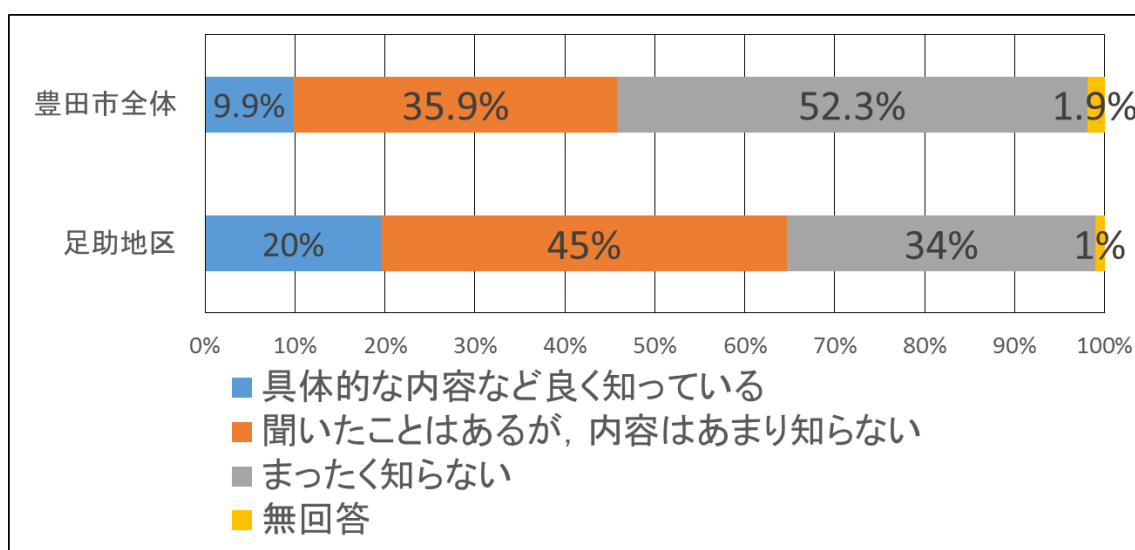


図 1.2 わくわく事業の認知度



### 1.1.3. 先行研究の整理

本項では、中山間地域の住民主体のまちづくりを対象とした研究を紹介する。まず、前項でも述べた住民発意型のまちづくりに関する研究として、劉らの研究がある [11]。劉らは、住民主導型の集落づくりが行われている地域において、聞き取り調査とアンケート調査から、住民主導のまちづくりの起動要因を考察した。ここで、劉らは、住民主導型の集落づくりの起動には、住民間の団結心、地域への愛着、地域リーダーの存在、適切な課題が必要である事を述べている。また、山下らは、京都府舞鶴市杉山集落を対象として、地域活性化に成功した要因を分析して、地域を牽引するリーダーの重要性と、地域住民が取り組みを進めていく際の適切な外部支援の重要性を述べている [12]。このように、住民発意型のまちづくりでは、住民側に課題を認識して、中心となる存在や、外部からの適切な支援等の条件が重なり実現していることが分かる。そのため、前項でも述べたように、住民発意型のまちづくりが行われている地域は限定的と言える。

そこで、外部主導で始まり、住民主体のまちづくりへと移行する取り組みに着目する。そうしたまちづくりに関する研究では、星野の研究がある。星野は、神戸市北区に位置する集落を対象として、神戸市の指導で行われた住民による集落計画づくりについて、アンケート調査を実施し、その調査データを用いて、計画づくりをめぐる住民の意識構造を解析した [13]。星野は、計画づくりの過程で住民の意欲をどれだけ啓発できるかが重要であること、集落計画づくりへの意欲には、地域志向性が大きく影響していることを述べた。また、住民の取り組みへの主体性を高める方策を提案した研究として、照本の研究がある [14]。照本は、地震発生後の孤立対策の検討ワークショップによる、ワークショップの参加者の意識変化を分析し、参加者の意識を高めることに対するワークショップの有効性を述べている。このように、外部主導のまちづくり活動の中で、住民の主体性の形成過程や、向上策を提案した研究が存在する。

また、外部主導でまちづくり活動を実践して、住民のまちづくりへの主体性の形成過程を明らかにした研究として、吉村の研究がある。吉村の研究では、岩手県一関市本寺地区を対象として、対象地域で行われている地域づくり活動を、参与観察の手法を用いて、住民のまちづくりへの主体性が形成されるプロセスを明らかにした [15]。地域づくりにおける主体性の形成プロセスには、「動機付け段階」と「実践段階」がある事を述べた。吉村の研究では、地区で実際に活動が行われているが、活動は市と大学が設定した枠組みの中で行ったものである。以上のように、住民のまちづくりへの関心や主体性が高まる要因を明らかにした研究や、それを向上させる方策を明らかにした研究は存在する。しかし、中山間地域の維持に向けてのまちづくりへの関心の低い住民に着目し、そうした住民がまちづくりへ取り組まない要因を明らかにして、実践に向けて促す方策を明らかにした研究はない。

## 1.2 研究目的

### 1.2.1. 研究目的

本研究の目的を「中山間地域の維持に向けて、住民主体のまちづくりの実践方策を明らかにすること」とする。

### 1.2.2. 研究の新規性

これまでの研究では、既に何らかの活動が行われている地域を対象とするか、予め枠組みが決まっている計画を地域へ当てはめることが多かった。本研究では、過疎化や高齢化といった問題を抱えているにもかかわらず、住民によるまちづくりが行われていない地域を対象として、住民自らが地域維持に向けた取り組みを行わない要因を明らかにして、住民のまちづくりへの参加を促す方策を提案する。

## 1.3 本論文の構成

- 第1章 序論

中山間地域の現状と、先行研究や取り組みについて述べ、本研究の目的を示した。

- 第2章 事例調査による中山間地域の維持に向けた問題とその解決策の整理

住民主体のまちづくりが行われている地域の取り組みを調査することで、中山間地域の維持に向けた問題と、その解決策の整理を行う。

- 第3章 対象地域の維持に向けた問題把握

第2章で整理した問題とその解決策が本研究の対象地域に当てはまるかを確認するため、アンケート調査及び、地域懇談会への参加を行う。そこで得られた情報を検証するため、対象地域住民に対して聞き取り調査を実施する。

- 第4章 中山間地域の維持に向けた住民主体のまちづくりの実践

第3章の結果をもとに、住民のまちづくりへの参加を促す方策を提案し、提案した方策を対象地域の一部の集落で実践することで、提案した方策の有効性を検証する。

- 第5章 住民主体のまちづくりの実践方策に関する考察

本論文で実践してきた結果より、今後の中山間地域における住民主体のまちづくりの問題とその解決策について考察する。

- 第6章 結論

本論文の結論と今後の課題を述べる。

## 第2章 事例調査による中山間地域の維持に 向けた問題と解決策の整理

## 2.1 はじめに

第 2 章では、住民のまちづくりへの参加要件の抽出を行うため、愛知県豊田市旭地区で行われている住民主体のまちづくりを調査する。そこで、中山間地域の維持に向けた問題と、その解決に必要な取り組みへの住民参加に必要な要件を明らかにする。

## 2.2 愛知県豊田市旭地区

住民主体のまちづくりが行われている地域である、愛知県豊田市旭地区のまちづくりの調査を行う。図 2.1 にあるように、旭地区は本研究で主な対象地域である足助地区の北に位置しており、足助地区以上に豊田市の都市部から離れている。図 2.2 にあるように、旭地区は過疎化、高齢化が進行しており、平成 27 年 4 月の時点で、人口 2,881 人、高齢化率 43.1%である [16]。



図 2.1 旭地区の地理 (Google マップより作成)

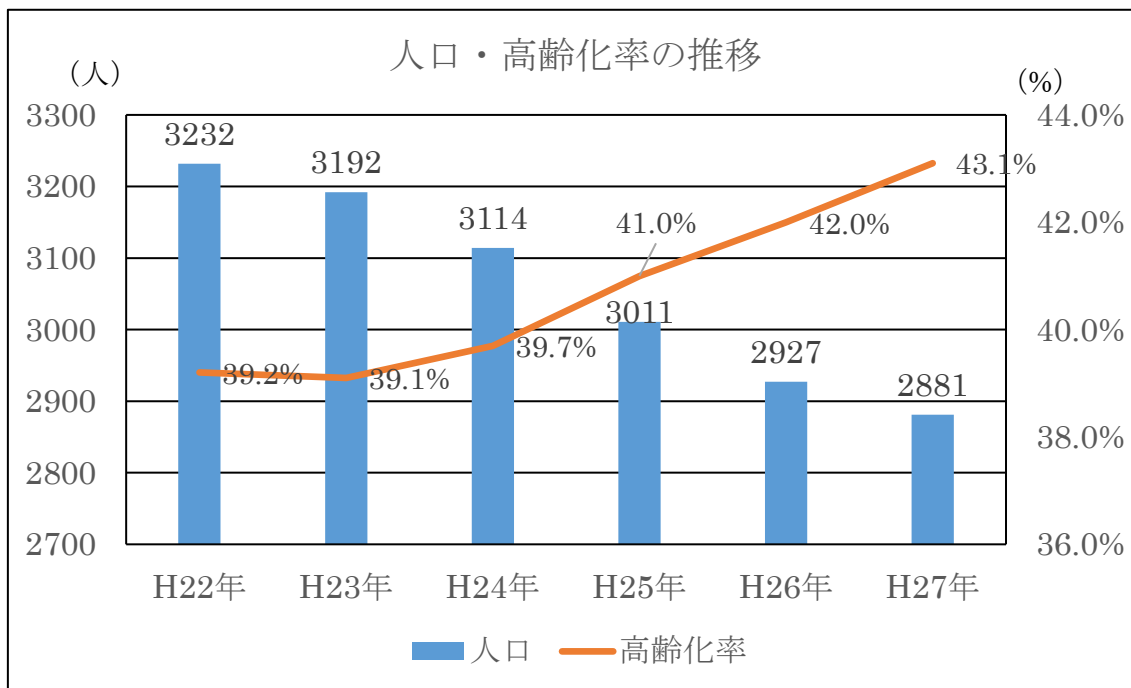


図 2.2 旭地区の人口・高齢化率の推移

## 2.3 旭地区のまちづくり

旭地区では、図 2.3 にあるように、旭地区のまちづくりの基本理念や目標将来像を示した 2011 年から 2020 年の 10 年間の計画「将来まちづくり構想旭ビジョン」とその実現に向けて旭地区全体または各町内会組織として取り組む具体的な内容をまとめた前期・後期の 5 年ごとの計画「5 か年計画」, 「集落ビジョン」で構成されている [17].

2016 年から 2020 年の第 2 期 5 か年計画では、目標将来像の実現に向けて旭地区全体で取り組む具体的な内容が作成された。取り組みの実践に向けては、住民や集落、事業所など地域と支所との役割分担のもと、わくわく事業や地域予算提案事業等、既存の仕組みや各種支援制度が活用されている。

旭集落ビジョンは、旭地区を構成する 35 の集落がそれぞれ、2011 年から 2015 年の 5 年間に前期、2016 年から 2020 年の 5 年間に後期として、集落単位で地域づくりの方針と具体的な取り組みを計画したものになる [9]. 図 2.4 にあるように、集落の強みと弱みの分析から、集落の目標が作られた。そして、それを達成するための取り組み活動と年度目標が作成されている。

前期集落ビジョンの計画の策定は、旭地区の 35 の各集落で 3 回を目途に懇談会が行われた。後期集落ビジョンの作成に当たり中間見直しが行われた。後期集落ビジョンは、各集落により策定の手法が異なり、懇談会、複数回のワークショップ、聞き取り調査・調整のいずれかの方法で策定された [18].

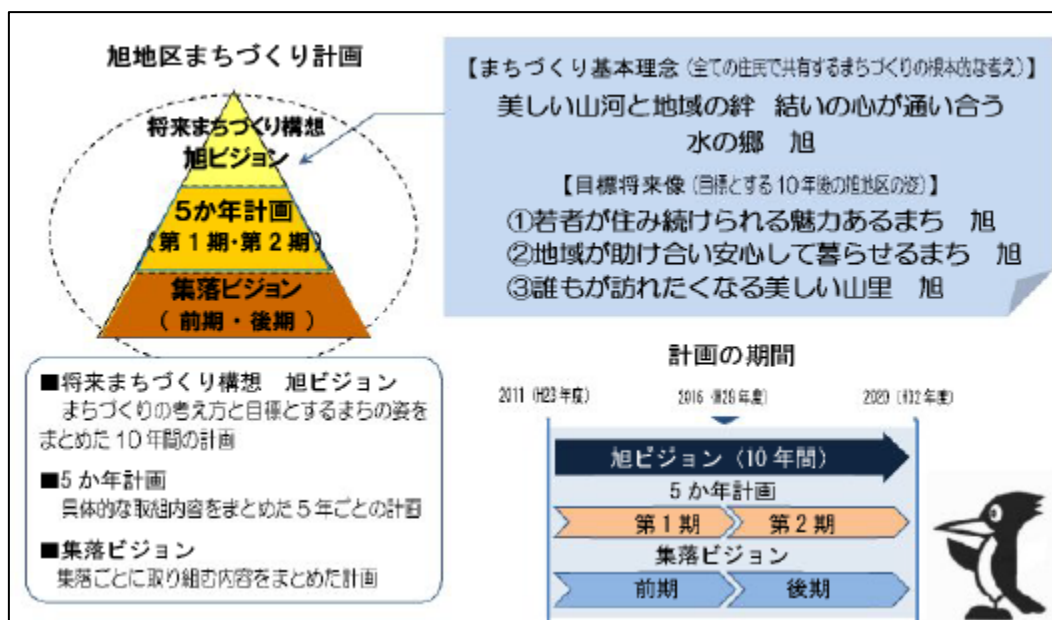


図 2.3 旭地区のまちづくり計画



## 一色組 集落ビジョン2011~2015

### 桜と緑とやさしさの里 一色

- ① 桜街道を整備し、伝統行事を守って訪れてみたいくなる地域をつります。
- ② 高齢者が、安心して生活できる地域をつります。
- ③ 都市で生活する後継者との絆を強くし、Uターンしやすい環境を整えます。

#### 強み

- ① 地域の絆が極めて強い。
  - ・「がんどうち」（雛祭りの子どもの行事）には、親密別居の孫が帰省してくる。
  - ・年2回、お汁粉祭りを開催している。
  - ・奉仕作業には、世帯数以上の参加がある。
  - ・集落の全世帯が「伊藤」姓である。
- ② 昔から優良な珪砂（陶土）が採れる。
- ③ 桜街道がある。

#### 弱み

- ① 高齢化に伴い、空き家の増加が懸念される。
- ② 水田が未整備のため、狭小かつ形状が悪く、耕作が難儀である。
- ③ 中山間地域直接支払制度に取組んでいない。
- ④ 移動に、ほとんど車を使用するため、近所とのふれあいが少なくなっている。

		取組活動と目的					実施主体	支援
① 景観・地域づくり		<b>&lt;花街道づくり&gt;</b> 浅谷町から一色町へかけての桜並木で、所々枯れて途切れている箇所を補植する。また、市道旭一色上切線沿線にシダレモモを植栽する。					組	自治区 公園緑地協会
		<b>【目的】</b> 故伊藤 登氏の遺志を継いで桜街道を整備する。また、四季をとおして景観を楽しむため、イロハモミジ、サルスベリを植栽するとともに、浅野地域を「桃杏の里」とするため、シダレモモの植栽にも協力する。						
	目標	H23	H24	H25	H26	H27	サクラ・イロハモミジ・サルスベリ・シダレモモの植栽 観桜会・草刈り等管理作業	
	実績							
【活用できる市の制度・補助など】・緑化推進事業								
② 高齢者対策		<b>&lt;緊急医療情報カードの設置&gt;</b> ひとり暮らし高齢者宅等（屋間を含む。）の冷蔵庫に、緊急時に備えて緊急医療情報カードを設置する。					自治区	民生委員 消防署
		<b>【目的】</b> ひとり暮らし高齢者宅等へ救急車が出動した場合、初期処置等に必要な情報が即時に取得できる体制を整え、高齢者の安心・安全を確保する。						
	目標	H23	H24	H25	H26	H27	消防署と情報の内容調整・カード作成・設置 カードの更新（随時） 民生委員による訪問指導（随時）	
	実績							
【活用できる市の制度・補助など】								

図 2.4 旭地区前期集落ビジョン

## 2.4 旭地区のまちづくりの詳細分析

旭地区の2016年から2020年の第2期5か年計画及び、後期集落ビジョンの取り組み項目を分析することで、中山間地域の維持に向けて必要な要素を明らかにする。旭地区で行われた、地域の課題や問題点に関するアンケート結果を図2.5に示す。また、旭地区の第2期5か年の取り組み項目と、その項目に関わる地域の現状と課題を以下の表2.1に示す。

アンケート結果から分かるように、住民の考えている課題としては、鳥獣害対策や耕作放棄地の対策、豊かな自然環境の保全、農業・農地の保全などの環境対策。また、若年層の定住促進策や空き家対策、近所での働き口の創出などの過疎対策。また、医療の充実や公共交通機関の充実などの高齢者福祉。また、生活道路の改善や子育て支援の充実などの地域での生活利便性の拡充がある。こうした課題に対して、8つの取り組み分野と17の取り組み項目が第2期5か年計画として設定された。

表2.1の旭地区第2期5か年計画の取り組み項目における、現状と課題から、旭地区特有の問題を除き、整理したものを表2.2にまとめる。また、表2.3に旭地区後期集落ビジョンにおける、集落毎の取り組み内容を分野毎に整理する。

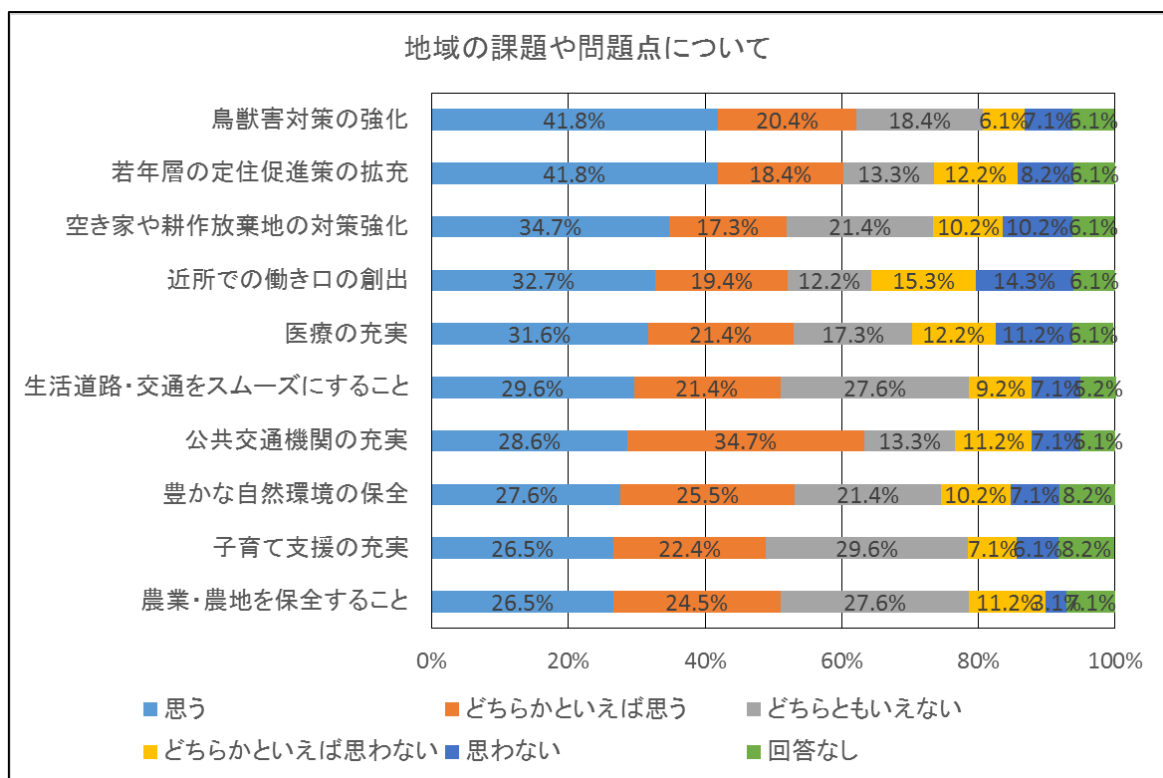


図 2.5 旭地区の地域の課題や問題点に関するアンケート結果



表 2.1 旭地区第2期5か年計画の取り組み項目

取り組み分野	取り組み項目	現状と課題
定住・生活	定住促進と住居の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・UターンとIターンでは，取り組みの視点が異なっている．</li> <li>・空き家は多いが，所有者は空き家の提供に消極的である．</li> <li>・土砂災害防止法の指定により住める場所が限られている</li> <li>・定住を支援する人材が不足している</li> <li>・あさひ若者会の発足により，若者世代による活気あるまちの雰囲気が高まりつつある．</li> <li>・生活する中で，中高生の送迎の負担や子育てと仕事の両立を不安視する人も多い．</li> </ul>
	仕事探しへの支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・U, I ターン者が，小仕事を探している場面がある</li> <li>・人づてでしか入手できない大小様々な旭地区内の仕事の求人情報がある</li> </ul> <p>※小仕事：短期のパートやアルバイトの他，季節的又は短期間の仕事</p>
	旭ファン交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市と農山村の交流は，既存の自主グループによる積極的な交流活動が進められている．</li> <li>・交流を通じて，旭地区を知るきっかけ作りにつながっている．</li> </ul>
	生活環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モリ券の普及により，多少ではあるが地元経済が循環している．</li> <li>・地元の人でも，どこの店が何を取り扱っているのか分からない状況があり，商店に入りづらい</li> <li>・既存のコッキーカードは，貯まったポイントが分かりづらい．</li> <li>・地元の人が地元の商店を利用していない状況が見受けられる．</li> </ul> <p>※モリ券：旭木の駅プロジェクト実行委員会が発行する地域通貨          ※コッキーカード：登録店舗を利用した際にポイントが付与される旭地区独自の仕組み</p>
道路・交通	幹線道路・生活道路の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小原地区への接続道路が悪く観光振興の面でも改善したい</li> <li>・小渡周辺へのアクセスは，道路事情から足が遠のいている．</li> </ul>
	バスの利便性向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基幹バスは，通勤・通学時間などの混雑する時間帯がある．</li> <li>・予約方法が分からないお年寄りも多い．</li> <li>・小中学生の利用促進も図る必要がある．</li> <li>・インフラとして確保する必要があるが，利用率も低く市の負担も大きい．</li> </ul>

取り組み分野	取り組み項目	現状と課題
地域力	住民相互と連帯感の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域づくりに積極的に参加する人が増えているが、人口減少に伴い、地域の担い手が不足している</li> </ul>
防災・防犯	防災体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地で頻発するゲリラ豪雨災害や東南海地震の発生が懸念される中で、地域住民の有事に備えた常日頃の防災意識が低い。</li> <li>・危険箇所マップは整備されたが活用がされていない</li> <li>・矢作ダムが決壊した場合を不安視する声がある</li> </ul>
	防犯意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『地域の目』の安心感があるが、近年では犯罪の発生が増えつつある</li> <li>・一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が多く振り込め詐欺等の危険が潜んでいる</li> <li>・地域の子供が少なく、安心して外で遊ばせることが出来ない状況である</li> </ul>
健康・福祉	健康増進の推進と福祉の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座の積極的な活用による健康づくりの推進派、個人の意識に差がある</li> <li>・高齢者にとっては、声をかけることが重要である。</li> <li>・高齢者の見守り環境は、集落毎に状況が異なり、統一した取り組みは困難である。</li> </ul>
	子育て環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供の人口が減少し、同年代との遊びや触れ合う機会が少ない。</li> <li>・親同士が集まる場が限られ、子育ての悩みを分かち合う機会が少ない。</li> <li>・不慣れな環境に嫁いで来た女性にスポットを当て、孤立しない環境を作る必要がある。</li> </ul>
学習環境	生涯学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・趣味や娯楽活動への参加は、個人の意欲や意思による。</li> <li>・交流館利用者の年齢層や地域性が固定化している。</li> <li>・棒の手や太鼓を始め郷土芸能や郷土料理などの伝統文化は、既に継承していく風土ができつつある。</li> </ul>
	子供たちの教育環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能力を持った人はいるが、学校の授業で生かされる機会が少ない</li> <li>・有間竹林愛護会では、小学校や子供園に参加を呼びかけ、竹の子堀りの体験を行っている。</li> </ul>

取り組み分野	取り組み項目	現状と課題
産業・観光	地域資源を活用した産業の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特産品はあるが、旭地区内で食べられる場所が無い。</li> <li>・後継者育成が進んでいない。</li> <li>・販路の確保が課題であり、特産品の開発が進んでいない。</li> <li>・旭地区では特産品開発の為に資機材や設備が乏しい。</li> </ul>
	観光拠点の整備と情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客は年々、増加傾向にある。</li> <li>・一方で、様々な世代が季節に応じて楽しめる周遊ルートがない。</li> <li>・一日を通じて滞在が出来るような、観光施設が整っていない。また、連携が図れていない。</li> </ul>
農地・森林	営農体制の整備と獣害対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耕作放棄地が増加しており、かつ、不在地主も多く農地が管理されていない。</li> <li>・農地バンク制度に登録しているが、利用者が見つからない現状がある。</li> <li>・獣害被害が多いほか、捕獲後の獣肉の活用が進んでいない。</li> </ul>
	森林再生と森林資源の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旭木の駅プロジェクトにより森林に価値が生まれたほか、あさひ森の健康診断実行委員会や民間事業者などにより森林保全の活動が広がりつつある。</li> <li>・一方で、荒廃した森林が多くを占めている。</li> </ul>

表 2.2 旭地区 5 か年計画から見る中山間地域の問題の整理

分野	問題
定住・生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家は多いが、所有者は空き家の提供に消極的である。</li> <li>・土砂災害防止法の指定により住める場所が限られている</li> </ul>
地域力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域づくりに積極的に参加する人が増えているが、人口減少に伴い、地域の担い手が不足している</li> </ul>
防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地で頻発するゲリラ豪雨災害や東南海地震の発生が懸念される中で、地域住民の有事に備えた常日頃の防災意識が低い。</li> <li>・一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が多く振り込め詐欺等の危険が潜んでいる。</li> <li>・地域の子供が少なく、安心して外で遊ばせることが出来ない状況である。</li> </ul>
健康・福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の見守り環境は、集落毎に状況が異なり、統一した取り組みは困難である。</li> <li>・子供の人口が減少し、同年代との遊びや触れ合う機会が少ない。</li> <li>・親同士が集まる場が限られ、子育ての悩みを分かち合う機会が少ない。</li> </ul>
学習環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若年層の減少により、伝統文化の継承が困難になる</li> </ul>
農地・森林	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耕作放棄地が増加しており、かつ、不在地主も多く農地が管理されていない。</li> <li>・獣害被害が多いほか、捕獲後の獣肉の活用が進んでいない。</li> <li>・荒廃した森林が多くを占めている。</li> </ul>

表 2.3 後期集落ビジョンの取り組み内容の整理

分野	取り組みのまとめ	取り組みの詳細
定住・生活	地域出身者に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域出身者との交流</li> <li>・ 祭りや草刈り等の機会を活用した縁故者や都市部との交流の実施</li> <li>・ 集落内行事について、縁故者に対する声かけ</li> <li>・ 出身者への呼びかけの実施</li> </ul>
	地域外住民に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 豊森なりわい塾生との交流</li> <li>・ 企業や地域外住民との交流方法の検討</li> <li>・ 地域を支えてくれる都市住民との交流</li> <li>・ 交流や移住を受け入れる機会・場所作り</li> <li>・ 交流，移住希望者への農地や森林等の活動の場の提供</li> <li>・ 空き家の情報収集と所有者への調整，交渉</li> <li>・ 外部との交流の継続</li> <li>・ 定住促進に向けた研修会の実施</li> </ul>
	地域の魅力づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域内交流会の実施</li> </ul>

分野	取り組みのまとめ	取り組みの詳細
地域力	既存の地域行事の継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定例会の継続実施</li> <li>・ 親睦旅行や忘年会の継続</li> <li>・ 花壇の手入れの継続</li> <li>・ 地域の活動や行事などの年間計画の作成</li> <li>・ 地区毎の親睦行事の開催</li> <li>・ 境内の樹木の間伐などの周辺整備</li> <li>・ 熊野神社、神明社の祭礼などの継続</li> <li>・ 御九日祭などの祭礼の継続</li> <li>・ 対馬神社の祭礼などの継続</li> <li>・ 弘法さんの祭礼などの継続</li> <li>・ 八幡社の移転と祭事の効率化による祭りの実施</li> <li>・ 稲作部会、山芋部会、加工産品部会の活動の継続</li> <li>・ しだれ桃祭りや、紅葉祭りなどの親睦行事の継続</li> <li>・ ふれあいサロンの継続的な開催</li> </ul>
	地域住民が交流できる場づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域カフェの開催</li> <li>・ 花見会や食事会の開催</li> <li>・ ふれあいサロンの開催</li> <li>・ 親睦会の開催</li> <li>・ 雑談会の実施</li> <li>・ 公園及び組ごとへの間伐ベンチの設置</li> <li>・ 季節毎に楽しめる花木の植樹と管理・育成</li> <li>・ 歩行困難者などの車での送迎の実施</li> <li>・ みんなの参加による門松立て</li> <li>・ 豊富な地域資源を活用した景観整備の実施</li> <li>・ 整備した場所の楽しい使い方の検討</li> </ul>
	地域出身者との交流機会の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集落出身者に対して、親睦行事や環境美化活動への参加の呼びかけ</li> <li>・ がんどうち、出身者への参加呼びかけ</li> <li>・ 観桜会、お汁粉祭り等出身者への呼びかけ</li> <li>・ 秋祭りへの参加の呼びかけ</li> <li>・ 親近者や出身者への行事などの案内</li> <li>・ 集落住民や親密別居者などへの年間行事予定表の配布と公会堂での掲示</li> <li>・ 景観整備作業への参加の呼びかけの実施</li> </ul>

分野	取り組みのまとめ	取り組みの詳細
防災・防犯	防災訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練時における避難行動要支援者（独居高齢者など）への声かけ</li> <li>・災害時避難行動マニュアルを活用した避難訓練の実施</li> <li>・整理した安否確認方法の確認</li> <li>・消防団の協力を得た避難訓練の実施</li> <li>・自主避難所の確保、避難経路の確認</li> <li>・各家の意識向上のための防災講座の実施</li> <li>・災害時避難行動マニュアルの整備・周知</li> <li>・災害時要援護者の情報と災害時行動マニュアルの確認</li> </ul>
	緊急時連絡網の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カード記載内容の更新方法のルール検討</li> <li>・新たにあさひ緊急時連絡先情報カードが必要になった世帯へのカード配布</li> <li>・緊急時連絡網の活用についての検討と安否の確認方法の確立</li> </ul>
	防災マップの作成・活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災マップ情報の更新</li> <li>・各世帯における防災マップの掲示と確認の推奨</li> <li>・防災マップと災害時避難行動マニュアルを活用した避難訓練の実施</li> </ul>
	地域内での相互支援体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の新聞受けの確認によるお年寄りの元気確認</li> <li>・おぶくさんや観音堂での自然発生的な「お茶会」の機会を通じた元気や安否の確認</li> <li>・単身高齢者世帯や昼間独居高齢者に対する支援体制の確認</li> <li>・災害時における相互支援体制づくり</li> <li>・防犯パトロールの継続</li> <li>・大坪明日の会やシルバーボランティアによる子供の見守りの実施</li> </ul>
	災害が起きそうな場所の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落の孤立化に備えた電源確保などの対応の検討</li> <li>・防犯灯の見直し、再整備</li> <li>・通学路の整備、点検の継続</li> <li>・保護者や大坪明日の会による通学路などの定期点検、整備の拡充</li> <li>・防犯カメラと表示看板の設置</li> </ul>

分野	取り組みのまとめ	取り組みの詳細
健康・福祉	ふれあいサロンなどの交流の場づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあいサロンの開催</li> <li>・子供の遊び場の整備</li> <li>・福蔵寺のお茶会の開催</li> <li>・しゃべらまい会の開催</li> <li>・さかきのサロンの実施</li> <li>・大坪サロン、なかよし会の継続</li> <li>・ささゆりサポーターの活動の継続</li> <li>・いきいき広場の開催</li> <li>・ふれあいサロン、ゲートボールなどの開催</li> <li>・食事会、茶和会の開催</li> <li>・近所同士の誘い合い</li> <li>・お年寄りなどのサロンや直売所への参加の声かけ</li> <li>・親睦会の開催</li> <li>・各行事や作業前のラジオ体操の実施</li> <li>・介護予防教室「はつらつクラブ」の継続</li> <li>・移動店舗メグリア便にあわせた公会堂での談笑の機会の継続</li> <li>・寄合の継続（隔月実施）</li> <li>・健康づくりと仲間づくりの推進</li> <li>・「健康づくりの日」の実施とにこにこクラブの活動の継続</li> <li>・ひまわりサロンなどへの誘い合い</li> </ul>
	日常的な見守り体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上納帳の配布時などの様子の確認</li> <li>・お年寄りへの積極的な声掛け</li> <li>・ご近所同士の声かけによる、お互いの元気確認</li> <li>・日常的な見守り、災害時の声かけの実施</li> <li>・高齢者子供の声かけ、見守り活動の実施</li> <li>・見守り、ゴミ出し、買物等の支援の仕組みの検討</li> </ul>
	高齢者が生活しやすい環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お年寄りが住みやすい自宅の環境整備の実施</li> <li>・農産物直売所の運営</li> <li>・無人販売所の運営</li> <li>・座敷用椅子の整備</li> <li>・販売する農産物の充実</li> </ul>



分野	取り組みのまとめ	取り組みの詳細
学習 環境	地域文化の保存・ 継承の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火きり神事の継承</li> <li>・棒の手、打ち囃子の伝承・保存方策の検討</li> <li>・地域の子供への棒の手の伝承活動の継続</li> <li>・町外のイベントでの棒の手、打ち囃子の披露</li> <li>・棒の手保存会への勧誘、子供を中心とした参加の呼びかけ</li> <li>・火縄銃の打ち手の育成</li> <li>・花車の引き回しの復活</li> </ul>
	地域出身者等を巻き込んだ地域行事の継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神明神社の御鋤祭、例祭などの神事の継続</li> <li>・町内会への案内文書の配布や出身者などへの参加の呼びかけ</li> <li>・郷社八幡神社大祭の持続に向けた検討</li> </ul>

分野	取り組みのまとめ	取り組みの詳細
農地・森林	草刈りや清掃作業等の景観保全活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 植栽場所の草刈りなどの管理の実施・通行支障木の伐採</li> <li>・ 竹林整備をはじめとした景観づくりの継続</li> <li>・ セイゴ湖畔林の整備</li> <li>・ 段戸川周辺の維持管理とわくわく広場の活用</li> <li>・ 土地改良事業による水路などの農業施設の整備促進</li> <li>・ 阿摺川及び加塩川の草刈りと廃棄物の除去</li> <li>・ 加塩川の護岸改修の要請</li> <li>・ 花木の植栽及び管理、自宅周辺の美化活動</li> <li>・ 合併処理浄化槽の設置推進</li> <li>・ しだれ桃などの植栽と手入れ</li> <li>・ 日常的なお堂やお宮さんの清掃活動の継続</li> <li>・ ツクバネやカタクリの自生地保全</li> <li>・ ツクバネやカタクリの解説看板などの設置</li> </ul>
	間伐作業の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木の駅プロジェクトへの参加・参加者の拡大</li> <li>・ 森づくり会議による間伐の実施</li> </ul>
	地域外組織との共同作業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森林ボランティアによる間伐の実施</li> <li>・ 地域外のやる気のある人への農地の貸出</li> <li>・ 外部団体などとの連携による休耕田の活用</li> <li>・ 草刈りやしだれ桃の管理の継続と集落活動応援隊制度の活用検討</li> </ul>
	自力耕作の継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自力耕作の継続と協力体制の構築</li> <li>・ 各家の自力耕作による既存農地の保全</li> </ul>
	獣害対策の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緩衝帯整備など獣害対策の実施</li> <li>・ 電気柵、ワイヤーメッシュ柵の新設及び修繕の実施</li> <li>・ 集落ぐるみによる獣害対策の推進</li> <li>・ 具体的な獣害対策の検討、補助申請、実施</li> </ul>
	集落営農の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中山間地域等直接支払い制度等を活用した集落営農の検討</li> <li>・ 共助を基本とした集落全体の耕作</li> <li>・ オペレーターの後継者の育成</li> <li>・ 機械化組合を基本とした集落営農体制の検討</li> <li>・ 農業技術を習得する農業塾の開催</li> </ul>

## 2.5 旭地区集落ビジョンに関する聞き取り調査

旭地区集落ビジョンの取り組み状況の詳細を把握するため行った、聞き取り調査について述べる。

### 2.5.1. 調査概要

旭地区集落ビジョンに関して、旭地区住民に対して聞き取り調査を行った。調査は、旭地区の異なる集落で生活する住民2名に対して行った。対象集落をそれぞれA集落、B集落とする。A集落は人口34人、世帯数は14戸、高齢化率61.8%の集落である。またB集落は、人口81人、世帯数は29戸、高齢化率50.6%の集落である。調査内容は、以下になる。

- ・集落ビジョン作成経緯
- ・集落ビジョンの取り組み状況

### 2.5.2. 調査結果

集落毎の集落ビジョンの作成過程と集落ビジョンの取り組み状況について述べる。

#### 集落ビジョンの作成過程

旭地区の集落ビジョンの作成は、各自治区の区長らに対して説明が行われた後、自治区の区長から各集落の自治会長らに伝達され、各集落で作成の取り組みが行われた。

前期集落ビジョン作成の際に行われた懇談会では、A集落は世帯数が少ないこともあり、月1回の定例会にあわせて、動ける人がいる全ての世帯から代表者が集まり、懇談会が計3回行われた。B集落では、計3回の懇談会には、参加可能な人が集まり議論が行われた。また、懇談会とは別に、B集落の全ての人に参加する総会の場で、懇談会で話し合われた集落ビジョンの実行者や実行体制が決定された。

また、後期集落ビジョン作成の際には、A集落ではワークショップが2回行われ、内容の見直しが行われた。B集落では、後期集落ビジョンの決定の際の話し合いは行われなかった。これは、前期集落ビジョンが十分に組み立てられていたため、変更の必要が生じなかったためである。

#### A集落の集落ビジョンの取り組み状況

A集落の前期集落ビジョンの実践状況を、以下の表2.4にまとめる。また、後期集落ビジョンの実践状況を、以下の表2.5にまとめる。

A集落の前期集落ビジョンでは、5つのテーマに対して、8つの取り組み項目がビジョンとして設けられたが、実際に取り組まれた項目は、8つの項目の内、3つに過ぎない。実際に取り組まれたものと、取り組まれなかったもの、それぞれの取り組みに関して、聞き取りの詳細を示す。

前期集落ビジョンにおいて、取り組みが行われた項目について、聞き取りの詳細を示す。山野草自生地の拡大・保全については、集落ビジョンの作成以前より、神社での行事にあわせて整備が行われていた。また、一部の植物に関しては、個人の私有地内にあるため、一部の住民が個人で整備を行っている。

過疎化対策として、空き家・宅地の調査及び、新住民の受け入れに関しては、今後、空き家になりそうな住居の世帯に対して、空き家バンクへの登録などの市の空き家活用に関する情報提供が行われている。その後の空き家の活用に関しては、家主の裁量に一任されている。新住民の受け入れのための、空き家紹介などの集落全体での取り組みは行われていない。集落出身者への年間行事予定・案内状の発送に関しては、年間行事予定は作成されていないが、大きな行事などの際に集落の取り組みとして、集落出身者がいる世帯は集落出身者へ呼びかけるようにしている。

前期集落ビジョンにおいて、取り組みが行われなかった項目について、聞き取りの詳細を示す。「楽しみを見つける会」の開催・テーマの決定は、会の企画を担う人物が集落内にいなかったため、実施されていない。集落内の人口が少なく、他の集落行事や仕事があるため、十分な時間を確保できる人材がいなかったことが要因としてあげられた。また、山野草の鑑賞会の実施、月1回のふれあいサロン・健康体操実施についても、中心的な役割を担う人がいないため、実施されていない。

A集落の神社の大祭の持続を検討する組織の立ち上げ・検討に関しては、この大祭がA集落単体の行事ではないため、他の集落とも連携を取る必要があり、その困難さが組織設立の妨げとなっている。また、大祭を担う役割の人達が、自分達に十分体力があり中心的な役割を担うことができる間は、現状を維持したまま実施したいと考えているため、新たな持続方法の検討へと移行できないことが伺えた。

後期集落ビジョンにおいて、取り組みが行われた項目について、聞き取りの詳細を示す。月に1度行われる定例会の継続実施と、ご近所同士の声かけに関しては、集落ビジョンの作成以前から行われており、現在も実施が困難になる状況にはない。

集落活動応援隊や豊森メンバーとの共同作業や交流に関しては、集落での草刈りの際などに、集落活動応援隊に来てもらい協力を得ている。

中山間地域等直接支払制度等を活用した集落営農の検討に関しては、農地を持つ一部の住民間で制度を活用した集落営農が行われている。

森づくり会議による山林保全の継続に関しては、森林組合が主体となって行っている、山林整備に集落としての要望を出して、保全活動を継続している。

後期集落ビジョンにおいて、取り組みが行われなかった項目について、聞き取りの詳細を示す。各行事や作業前のラジオ体操の実施に関しては、実施が行われる予定であったが、住民がラジオ体操のテープを持参せず、実施されないままになっている。

山野草の解説看板等の設置に関しては、解説看板を設置することにより、地域外の人による植物の伐採を危惧する声も聞かれ、住民間で設置に対して十分な合意を取れていない

め、取り組まれていない状況である。

表 2.4 A 集落の前期集落ビジョンの実践状況

取り組みテーマ	取り組み項目	実施状況	実施状況の詳細
①生きがづくり	「楽しみを見つける会」の開催・テーマの決定	×	会の企画を行う人がおらず、一度も行われていない
②地域天然資源の活用	山野草自生地拡大・保全	○	一部の植物は個人で整備、また、神社での行事にあわせて整備している
	山野草の鑑賞会の実施	×	実施されていない
③過疎化の歯止め対策	空き家・宅地の調査及び、新住民の受け入れ	○	空き家が出そうな住民に対して、空き家バンクなどの市の情報提供を行っている
	集落出身者への年間行事予定・案内状の発送	○	行事の際に各世帯から、出身者へ手紙を発送している
④ふれあいの場・健康づくり	月1回のふれあいサロン・健康体操実施	×	会の企画を行う人がいないため、集落単体では実施されていない
⑤地域文化の継承	A 集落の神社の大祭の持続を検討する組織の立ち上げ・検討	×	集落だけの行事ではないことと、役職者が、動ける間は続けたいという意向から進められていない
	打開策の実施	×	組織ができていないため、実施されていない

※実施状況は、○が実施している、×が実施されていないとする。

表 2.5 A 集落の後期集落ビジョンの実践状況

取り組みテーマ	取り組み項目	実施状況	実施状況の詳細
①住民同士のつながりづくりと生きがづくり	定例会の継続実施	○	現状継続して実施されている
	各行事や作業前のラジオ体操の実施	×	ラジオ体操に必要な道具を持ってこなかったため、行われていない
	ご近所同士の声かけ	○	日常的に会った際に、挨拶を行う
②A 集落出身者や応援者との共働の集落づくり	親近者や出身者への行事などの案内	○	行事の際に各世帯から、出身者へ手紙を発送するようになった
	集落活動応援隊や豊森メンバーとの共同作業や交流	○	草刈りの際など、集落活動応援隊に来てもらい協力してもらっている
	空き家などの提供に向けた親近者や出身者への協力依頼	○	空き家が出そうな住民に対して、空き家バンクなど市の情報提供を行っている
③貴重な天然資源や農地・山林の保全と地域文化の伝承	山野草の自生地保全	○	一部の植物は個人で整備、また神社での行事の際に集落で整備を行う
	山野草の解説看板等の設置	×	解説看板を設置することに、住民の間で十分合意が取れていない
	A 集落の神社の大祭の持続に向けた検討	×	集落だけの行事ではないことと、役職者の人が、動ける間は続けたいという意向から進められていない
	中山間地域等直接支払制度等を活用した集落営農の検討	○	直接支払制度を活用して集落営農が行われている 全ての農地ではなく、各農地により管理方法に違いはある
	森づくり会議による山林保全の継続	○	地域から森林組合へ要望を出して、保全活動を実施している

※実施状況は、○が実施している、×が実施されていないとする。

## B 集落の集落ビジョンの取り組み状況

以下の表 2.6 は、B 集落の前期集落ビジョンの実践状況になる。B 集落では、集落ビジョンの取り組みが継続して実施されている。そのため、後期集落ビジョンの内容と、前期集落ビジョンの内容は同様のものになる。そこで、B 集落においては、前期集落ビジョンの内容を中心に取り組み状況を説明する。

B 集落の前期集落ビジョンでは、4つのテーマに対して、17個の取り組み項目が設けられた。1つの項目を除き、全ての項目で実際に取り組みが行われている。そこで、集落ビジョンが取り組まれている要因に関して、集落ビジョンの実施状況に関する聞き取りの詳細を示す。

まず、B 集落では、集落ビジョンの実践にあたり、テーマ毎に取り組みの中心となる班長を設けた。また、集落ビジョンの取り組み状況を確認する総班長を設けている。そして、集落全員がいずれかのテーマの委員になるような取り組み体制が設けられている。委員となるテーマは、住民個々人に関連のある内容になる。地域資源を生かした魅力作りと、交流活動・移住受入は、全ての住民に関わりのあるテーマであるが、自然環境の保全のテーマであれば、農地を所有する住民が中心になる。また、高齢者支援では、高齢者自身を中心とした組織運営がなされている。

集落ビジョンの実践においては、集落でできることは、集落で取り組まれているが、集落の負担が大きい取り組みにおいては、外部の組織の力を活用している。例えば、お須原山の整備では、企業と連携して、整備に取り組んでいる。また、高齢者支援のサロンでは、月に1回、外部の看護師に参加してもらっている。

この様にして、集落ビジョンのほとんどの項目は実践されている。農機のオペレーターの養成に関しては、担い手になる人材がないため、現状取り組みが行われていない。集落ビジョンの実施状況は、集落内のみならず、自治区の監視機関に報告を行い、実施状況に応じた指導がなされる仕組みが作られている。

表 2.6 B集落の前期集落ビジョンの実施状況

取り組みテーマ	取り組み項目	実施状況	実施状況の詳細
①地域資源を生かした魅力づくり	お須原山整備	○	企業と共同で定期的な整備が実施されている
	眺望看板の作成	○	眺望看板の作成・設置が行われた
	パワースポットのご利益を生かしたグッズの開発・販売	○	グッズの開発が行われている
	笹戸温泉・自治区等との連携も含めた体験型周遊観光の検討・実施	○	観光客向けの周遊ルートに含まれている
	お蔵展の開催・充実・開催継続	○	お蔵展が開催されている
	工芸体験イベントの検討・開催	○	地域の工芸屋が中心にイベントが開催された
	薬師堂周辺の整備計画・実施	○	登坂の改修や樹木の手入れが行われた
②交流活動・移住受入活動	組全体での交流や移住を受け入れる機会・場所づくり	○	空き家ツアーなど町外の人と交流機会を設ける
	企業をはじめとした外部との交流・拡大	○	外部組織との共同作業を設けている
	交流・移住希望者へ農地や森林等活動場所の提供	○	町外住民への農地や、森林の提供が行われている
③自然環境の保全	集落営農の検討・実施	○	共同で農作業などが行われる
	農機のオペレーターの養成	×	まだ実施されていない
	獣害対策の強化	○	網の設置が行われた
	森づくり団地化・間伐の推進・作業道の整備	○	森林の間伐作業が進められた
	木の駅プロジェクトへの参加・参加者の拡大	○	木の駅プロジェクトへ参加して、参加者数を増やしている
④高齢者支援	「ささゆりサポーター」の活動、「いきいき広場」の継続	○	月1回のサロンを実施している
	緊急時個人情報整備・避難支援体制の確立	○	緊急時に備え、住民の連絡先を確認できる仕組みを確立した



## 2.5.4. 考察

集落において、住民主体のまちづくりを実施するための要件について考察する。A 集落、B 集落において、取り組みが行われている要因と行われていない要因について、以下の表 2.7 のように、住民の要因と取り組む課題の要因に分類する。

まず、取り組みが行われている住民側の要因として、B 集落においては、集落ビジョンの実践にあたり、集落内で意欲のある人が各テーマの班長を担っている。また、集落全員がそれぞれに関わりのあるテーマの何らかの委員になる仕組みが設けられている。

一方、取り組みが行われていない住民側の要因として、A 集落、B 集落ともに、取り組みの担い手になる人材がいなかったことがあげられる。A 集落では、「楽しみを見つける会」の開催では、会を企画して行うだけの時間や意欲のある人がおらず、B 集落の農機のオペレーターの養成においても、今後農機を活用して農業を行っていく人材がおらず、実践されていない。

また、取り組みが行われている取り組む課題の要因としては、A 集落において実施されている項目は、定例会の継続や山野草の整備など以前から実施されていたものや、市から提供された空き家バンクの情報伝達や集落活動応援隊と共同の草刈りなどこれまで実施されていたことの延長にある内容になる。

一方、取り組みが行われていない課題側の要因として、A 集落における神社の大祭の持続に向けた検討において、集落外部との連携が取れなかったことが要因としてあげられる。

表 2.7 集落ビジョンの実践要因の整理

	住民の要因	取り組む課題の要因
取り組みが行われている要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集落内で意欲のある人が各テーマの班長を担うこと</li> <li>・ 集落全員が各々に関わりのあるテーマの委員を担うこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集落でこれまで継続してきたことやその延長にあること</li> </ul>
取り組みが行われていない要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取り組みの担い手がいなかったこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集落外部との連携がとれなかったこと</li> </ul>

以上から、取り組みを実践するに当たり、取り組みの担い手となる人物を確保する必要があることがわかる。担い手として取り組むには、それぞれの意欲や生活の中で時間をどれだけ確保できるかによって、取り組む程度や項目を決める必要がある。また、集落で取り組む課題は、そうした集落内の担い手の状況、住民の意欲や時間的制約にあわせて集落で実践できる内容であることが求められる。

ここで、まちづくりの担い手の確保について、まちづくりへの参加モデルから考察する。三阪の環境問題の認知・行動モデルを援用する [19]。図 2.6 は、三阪の環境行動の認知・

行動モデルであるが、意思決定プロセスを、認知、知識、関心、動機、行動意図、行動の6段階で説明したものである。動機とは、対象に対してなんらかの関わりを持ちたいと考える段階であり、漠然とした目的意識は有しているが、明確な行動のイメージはない状態と定義される。知識とは、対象について知っている段階であり、関心は、対象に対して関心や興味を示している段階と定義される。動機や関心を規定する要因として、危機感、有効感、責任感、欲求がある。危機感とは、問題があることを認知していること、有効感とは、問題を対処することで問題が解決すると認知していること、責任感とは、問題に対して責任を負うと認知していることと定義される。また、行動意図を規定する要因として、実行可能性の評価、便益費用の評価、社会規範の評価がある。実行可能性の評価は、自身が行動を行うために必要な能力を有しているかの評価である。費用便益の評価は、行動をとることによってどのような便益や費用が生じるかといった評価である。社会規範の評価は、他者が、自分が行動をとることを期待しているのかといった評価である。

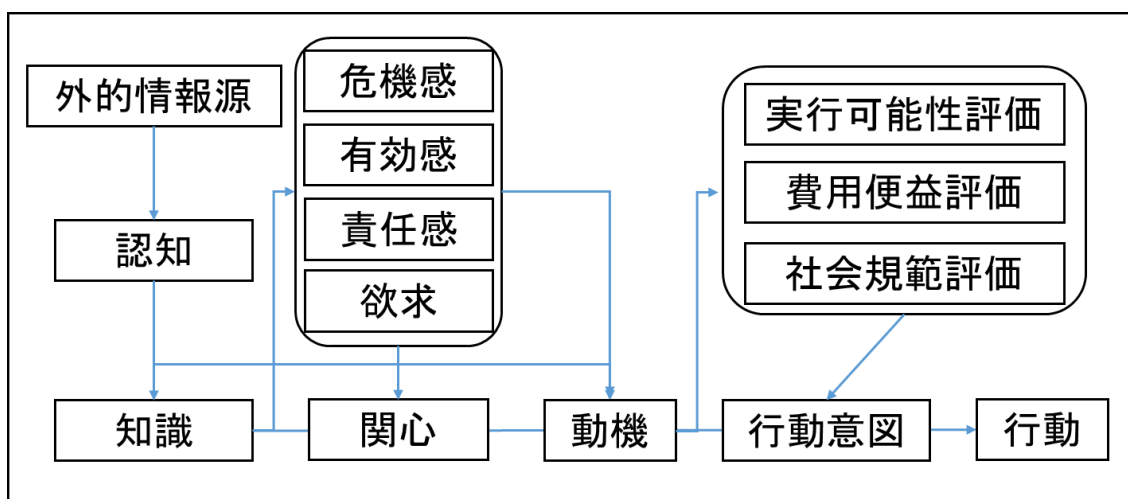


図 2.6 三阪の環境問題の認知・行動モデル

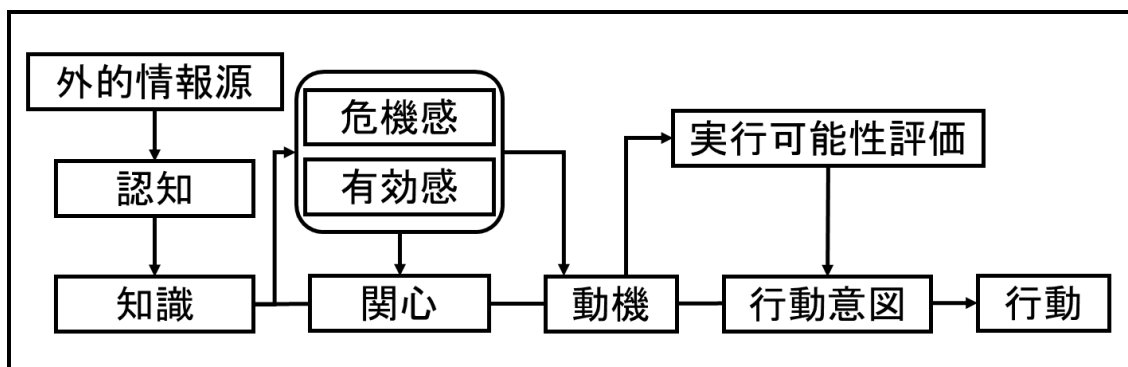


図 2.7 本研究で用いる認知・行動モデル

本研究では、三阪のモデルについて、責任感、欲求を除き、行動意図の形成における社会規範評価と費用便益評価は実行可能性評価に統一したモデルで整理を行う。

聞き取りでは、担い手がいないことに対する発言として、A 集落における前期集落ビジョンで、楽しみを見つける会が実施されなかったことについて、「人数が少なくてやれる人がいない」、「動ける人は仕事や家の周りのこととかで忙しくて」と言った発言から、まちづくりに対する実行可能性を有する人材がいないことが伺える。また、A 集落の神社の大祭が行われなかったことについては、「役の人達が、動けている間は考えられない」と言った発言から、役割を担う人の危機感の欠如が伺える。以上から、旭地区の集落ビジョンの取り組みにおいて、担い手が存在しない場合の要因として、住民の危機感の不足、取り組みを実行できる住民がいないという実行可能性の不足が考えられた。

## 2.6 第 2 章のまとめ

本章では、愛知県豊田市旭地区のまちづくり事例を分析し、中山間地域の維持に向けた問題とその解決のための取り組みを整理した。また、聞き取り調査から、集落による取り組みなど、住民主体で地域維持に向けた取り組みを行うに当たり必要な要件を抽出した。

次章では、研究対象地域である愛知県豊田市足助地区 H 自治区において、本章で整理した問題が当てはまるかを対象地域における調査から明らかにする。

### 第3章 対象地域の維持に向けた問題の調査

## 3.1 はじめに

本章では、前章で得られた中山間地域の問題と解決に向けた取り組み方法が、本研究の対象地域においても当てはまるかを明らかにする。まず、アンケート調査及び、地域懇談会への参加により、対象地域の問題と地域属性について明らかにする。その後、聞き取り調査により、それまでに得られた情報の確認を行う。

## 3.2 研究対象地域

本研究では、愛知県豊田市足助地区 H 自治区を対象とする。

### 3.2.1. 愛知県豊田市足助地区

豊田市と足助地区の地図を、図 3.1 に示す。図 3.1 にあるように、足助地区は、豊田市のほぼ中央に位置する。足助地区の面積は、19,312ha であり、そのうちの 84%が森林で構成されている中山間地域である [16]。

図 3.2, 図 3.3 に示すように、豊田市全体の人口は横ばいであるのに対して、足助地区の人口は減少が続き、過疎化が進行している [16]。人口のピークは、昭和 30 年頃で、今のおよそ 2 倍の 15,704 人が足助地区に存在したが、平成 25 年度には、8,626 人まで減少している [16]。また、高齢化率は 37%と、全国平均である 26.7%を大きく上回る高齢化地域でもある [16] [20]。

また、足助地区は中山間地域であるため、平地が少なく、山あいには多くの集落があるため、人口密度は 45 人/km<sup>2</sup>と、豊田市全体の 459 人/km<sup>2</sup>と比較して低いことが分かる [16]。足助地区の多くは山林に囲まれ、山あいに集落が存在するが、中心市街地は、比較的住居が密集しており、食料品店や病院などの、生活施設が存在する。中心市街地は、約半径 1km の範囲に食料品店や病院が存在するため、徒歩での生活が可能である。しかし、それ以外の集落は、中心市街地から 3km から 10km 程度あるため、ほとんどの地域で自動車を必要とする。公共交通機関は、近隣地区間を結ぶ路線バスが、1 時間に 1 本または、2 時間に 1 本程度の頻度で運行している。また、地区内を運行するコミュニティバスが、各地域に週 1 本の頻度で運行している。

足助地区は、平成 17 年に豊田市に合併され、それ以前は足助町という町であった。その際に、足助町まちづくり委員会と呼ばれる、足助町民と役場の職員らで構成される組織により、町全体の将来計画として「足助町振興計画」が作成された [21]。計画では、地域の 5 つの目標やその達成に向けた具体的な行動例などがまとめられた。しかし、豊田市との合併に従い、その計画が実践されることはなく、現在まで、第 1 章で述べた、わくわく事業などの制度を活用した取り組みが行われているが、地域全体としてのまちづくり計画は存在せず、各集落でまちづくりに取り組まれているとは言えない状況である。



図 3.1 足助地区の地理 (Google マップより作成)

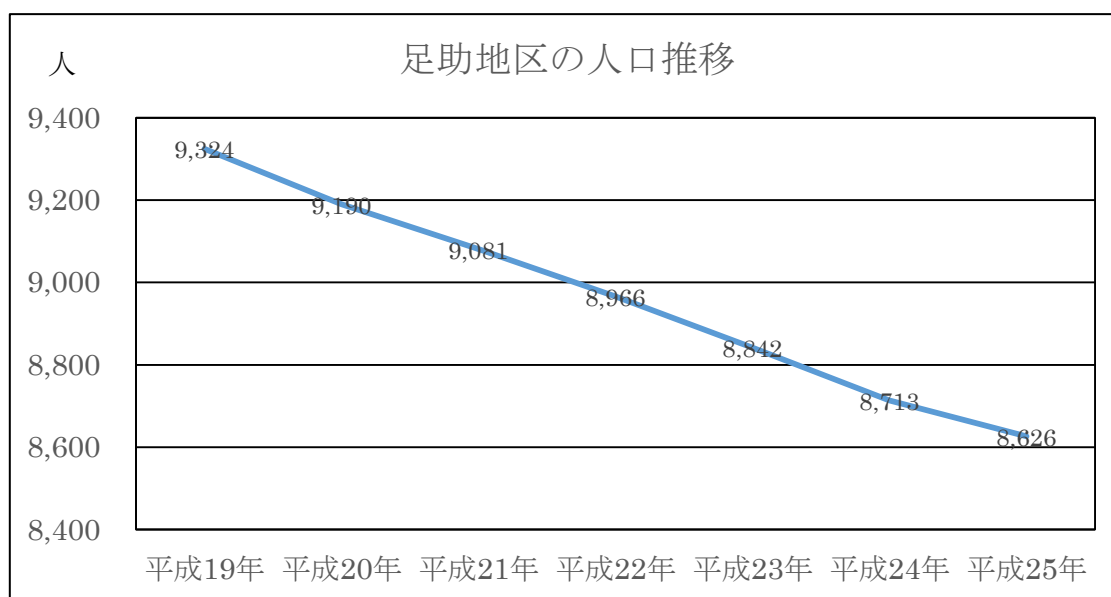


図 3.2 平成 19 年から平成 25 年の足助地区の人口推移

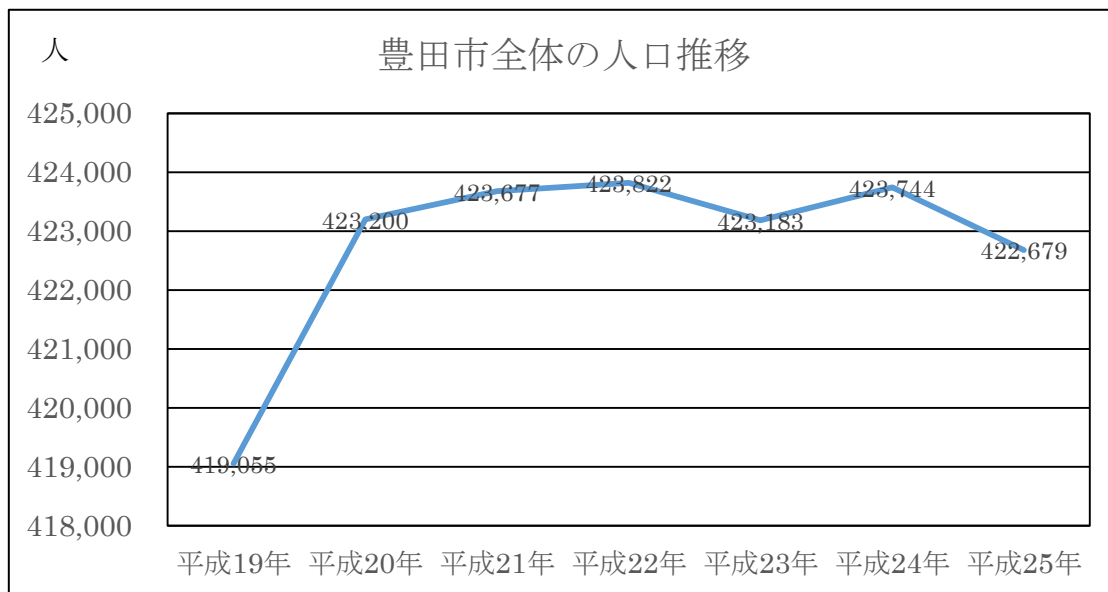


図 3.3 平成 19 年から平成 25 年の豊田市全体の人口推移

### 3.2.2. 愛知県豊田市足助地区 H 自治区

図 3.4 にあるように、H 自治区は足助地区の中心市街地から東に 3km から 10km の間に位置する。H 自治区は 7 つの集落により構成され、表 3.1 に示すように、人口や年齢構成には、集落毎に違いがあり、最も大きい集落では、人口 282 人、高齢化率が 26%であるが、小さな集落では、人口 37 人、高齢化率が 59%の集落も存在する [16]。

H 自治区全体では、図 3.5 にあるように、過疎化傾向が続いており、平成 28 年の人口は 704 人、高齢化率は 37%である。公共交通機関は、近隣地区間を結ぶ路線バスは、H 自治区を運行していないため、足助地区内を運行するコミュニティバスが、週 1 便の頻度で運行している。

H 自治区のまちづくり状況としては、第 1 章で述べたわくわく事業などの制度を活用して、取り組みは行われていない。また、自治区全体としてのまちづくり計画は存在せず、各集落でまちづくりに取り組まれているとは言えない状況である。



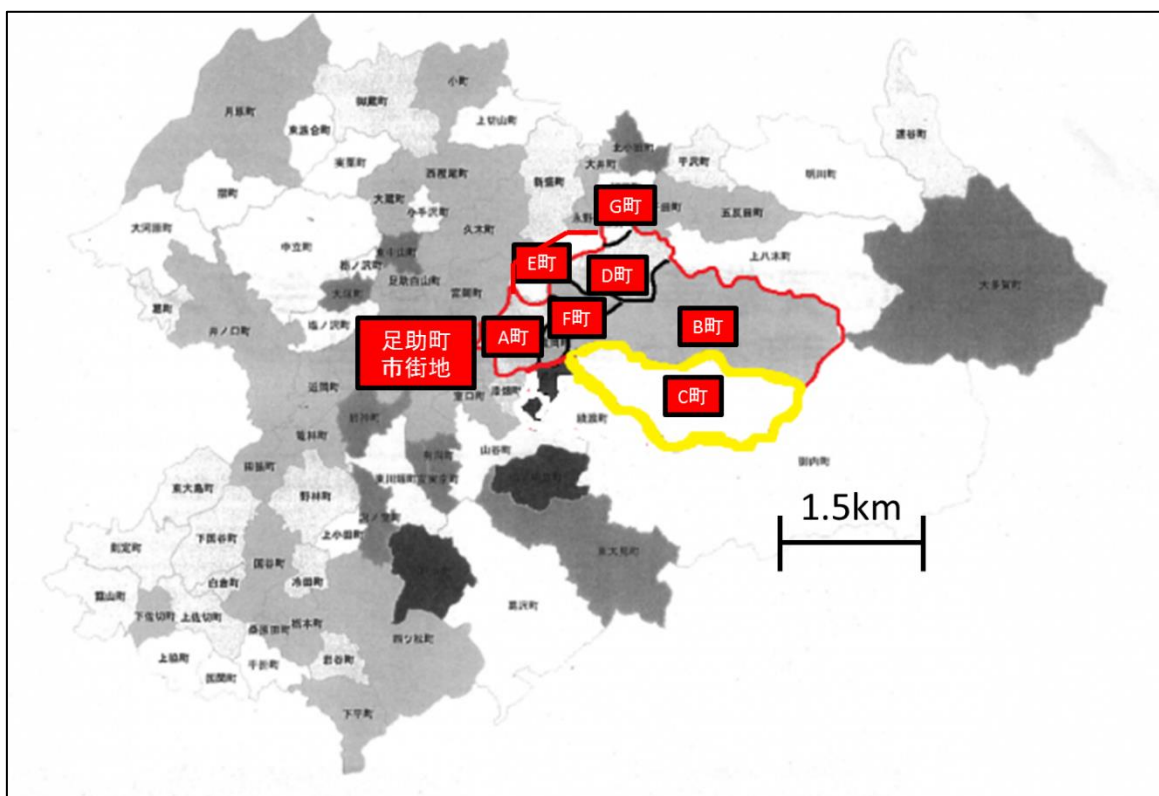


図 3.4 H 自治区及び各集落の地理

表 3.1 H 自治区の各集落の面積及び人口

町名	面積 (ha)	人口 (人)			世帯 数 (戸)	年齢階級別人口						人口 密度 (人 /ha)
		計	男	女		0~ 14歳	割 合	15~ 64歳	割 合	65 歳 以上	割 合	
A 町	217	282	135	147	102	37	13%	173	61%	72	26%	1.30
B 町	439	121	56	65	46	4	3%	63	52%	54	45%	0.28
C 町	1,144	37	20	17	13	1	3%	14	38%	22	59%	0.03
D 町	248	93	49	44	31	7	8%	55	59%	31	33%	0.38
E 町	134	69	32	37	27	6	9%	29	42%	34	49%	0.51
F 町	84	54	26	28	22	6	11%	23	43%	25	46%	0.64
G 町	47	48	28	20	13	1	2%	26	54%	21	44%	1.02
合計	2,313	704	346	358	254	62	9%	383	54%	259	37%	0.30



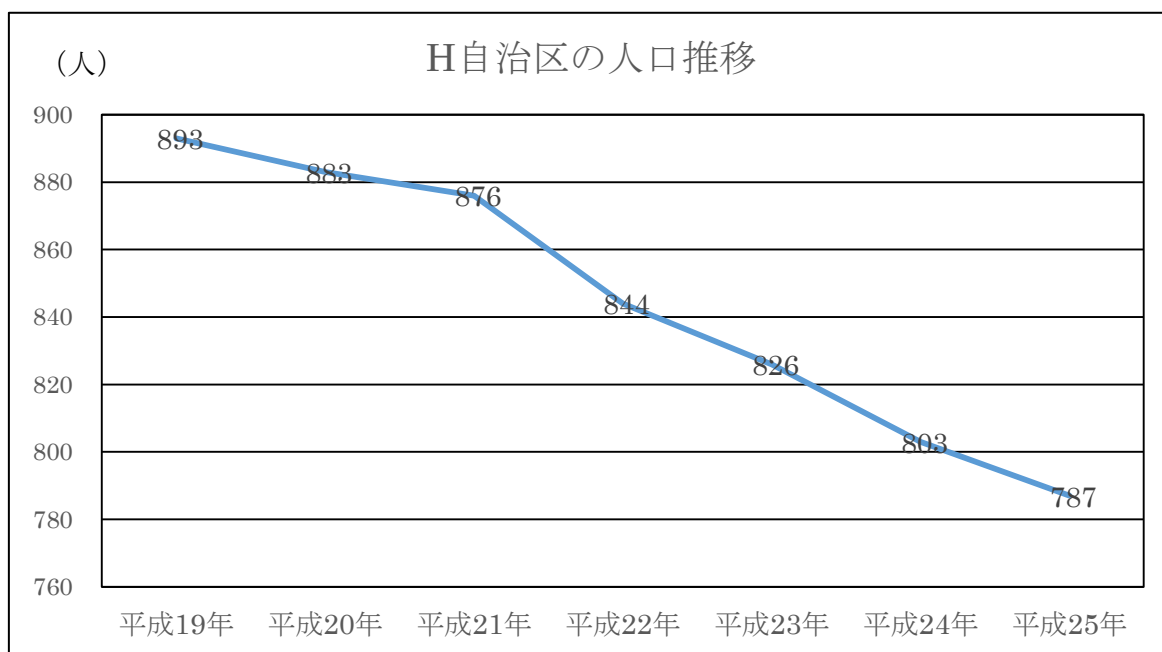


図 3.5 平成 19 年から平成 25 年の H 自治区の人口推移

### 3.3 H 自治区におけるアンケート調査

H 自治区の現状についてより詳しく把握するため、アンケート調査を実施した。以下では、その概要と結果について述べる。

#### 3.3.1. アンケート調査概要

アンケート調査は、H 自治区全世帯に対して配布した。配布は、それぞれの集落の自治会長を通じて行い、回収は郵送により行った。調査票は、世帯の代表者が記入する世帯調査票と、世帯の構成員全てが記入する個人調査票の 2 種類がある。調査期間は、平成 28 年 9 月 20 日から 10 月 16 日までである。アンケート用紙は付録に掲載する。主な調査の内容は、世帯調査票では、

- ・ 現在と将来の世帯構成の変化に関する質問
- ・ 現在と将来の家の状況に関する質問
- ・ 現在と将来の農地の状況に関する質問

など、世帯の人、家、土地の現在と将来の問題に関わることを聞いた。

個人調査票では、

- ・ 地域の課題に関する質問
- ・ 地域の課題への取り組み意欲に関する質問

など、住民それぞれが地域の課題と考えていることと、その課題への取り組みの意欲について聞いた。

#### 3.3.2. 世帯向け調査の回答結果

まず、世帯向け調査票の回答結果について述べる。

##### 回答者の属性

アンケート調査の回収状況を、表 3.2 に示す。回収率は 46.5%で、およそ半数の世帯から回答があった。H 自治区の 7 つの集落を A~G 町と記す。

表 3.2 アンケート調査の回収状況

地区	配布世帯数	有効回収数	有効回収率
A町	102	36	35.3%
B町	46	27	58.7%
C町	13	10	76.9%
D町	31	15	48.4%
E町	27	14	51.9%
F町	22	8	36.4%
G町	13	8	61.5%
<b>全体</b>	<b>254</b>	<b>118</b>	<b>46.5%</b>

#### アンケート調査結果

アンケートにおける、H 自治区全体の人口、高齢化率、世帯の変化について、図 3.6、図 3.7、図 3.8 に示す。これらは、アンケートにおける、10 年後に同居しているかと、10 年後に新しく増える家族に関する回答結果から算出している。そのため、地域外から、現在 H 自治区に住んでいる人らと全く関係がない住民が移住してくる場合等は含まれていない。

図 3.6 に示すように、H 自治区の人口は 10 年間で 18.2%の減少が予想される。減少幅に差はあるものの、全ての集落で減少が予想される。特に、若者や高齢者の減少と、出生数の低さが減少の要因と考えられる。

図 3.7 に示すように、H 自治区の高齢化率は、全体で 13%増加することが予想される。

図 3.8 に示すように、10 年後には高齢者のいる世帯は減少するが、高齢者夫婦世帯や高齢者のみの世帯が増加することが予想される。また、10 年後には 24%の世帯が消滅することが予想される。

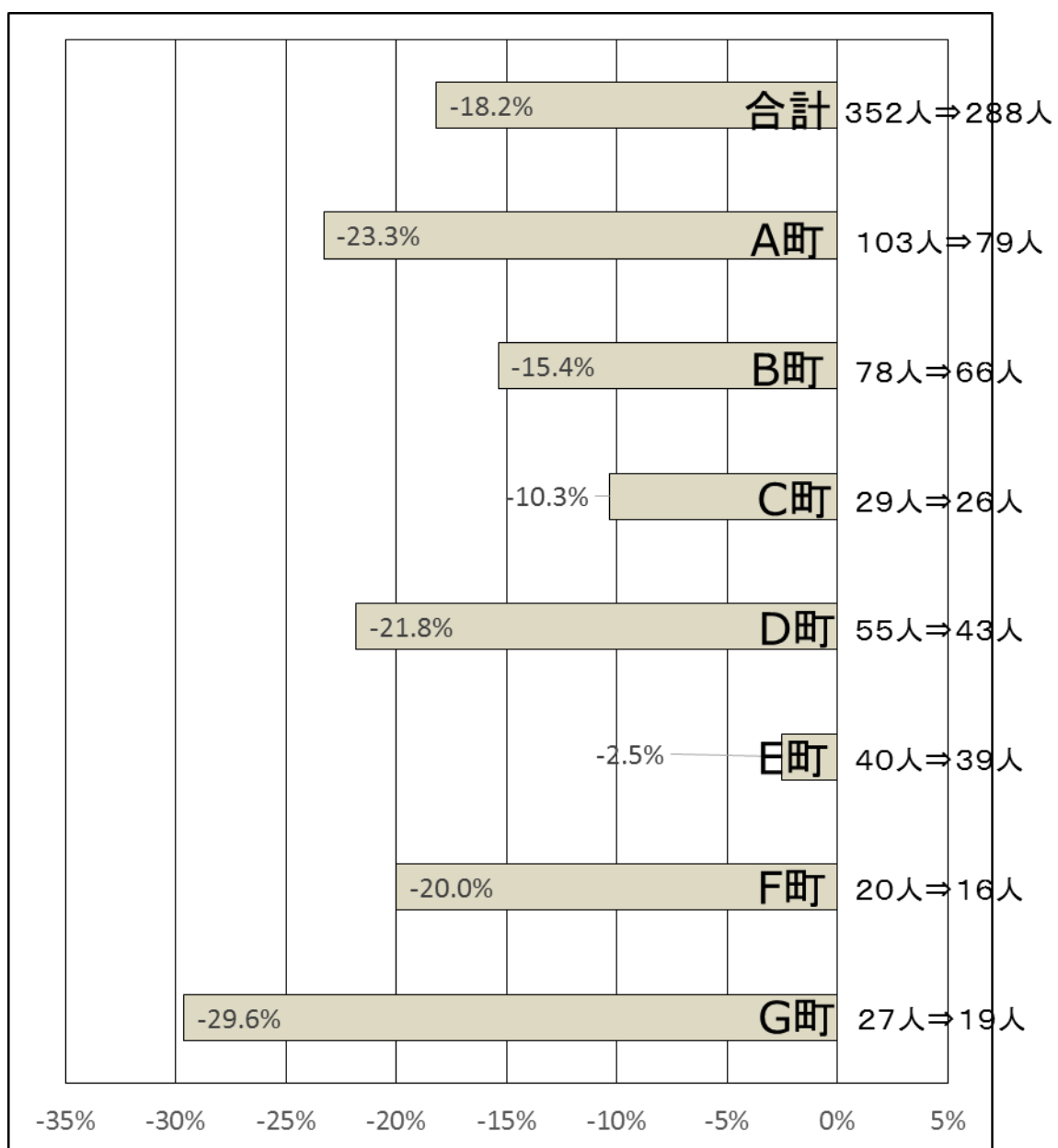


図 3.6 H 自治区の 10 年後の人口増減率

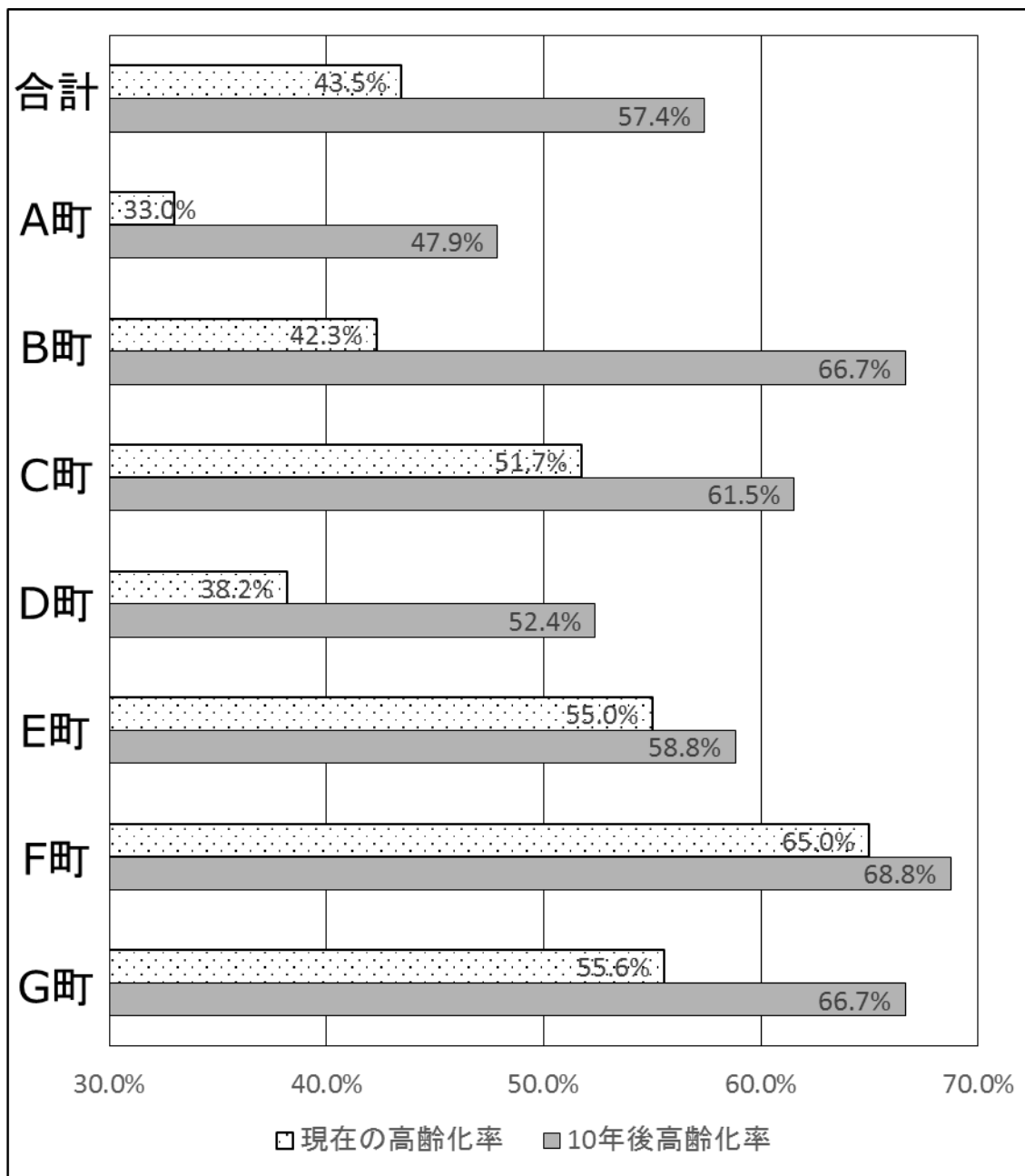


図 3.7 集落毎の現在と10年後の高齢化率

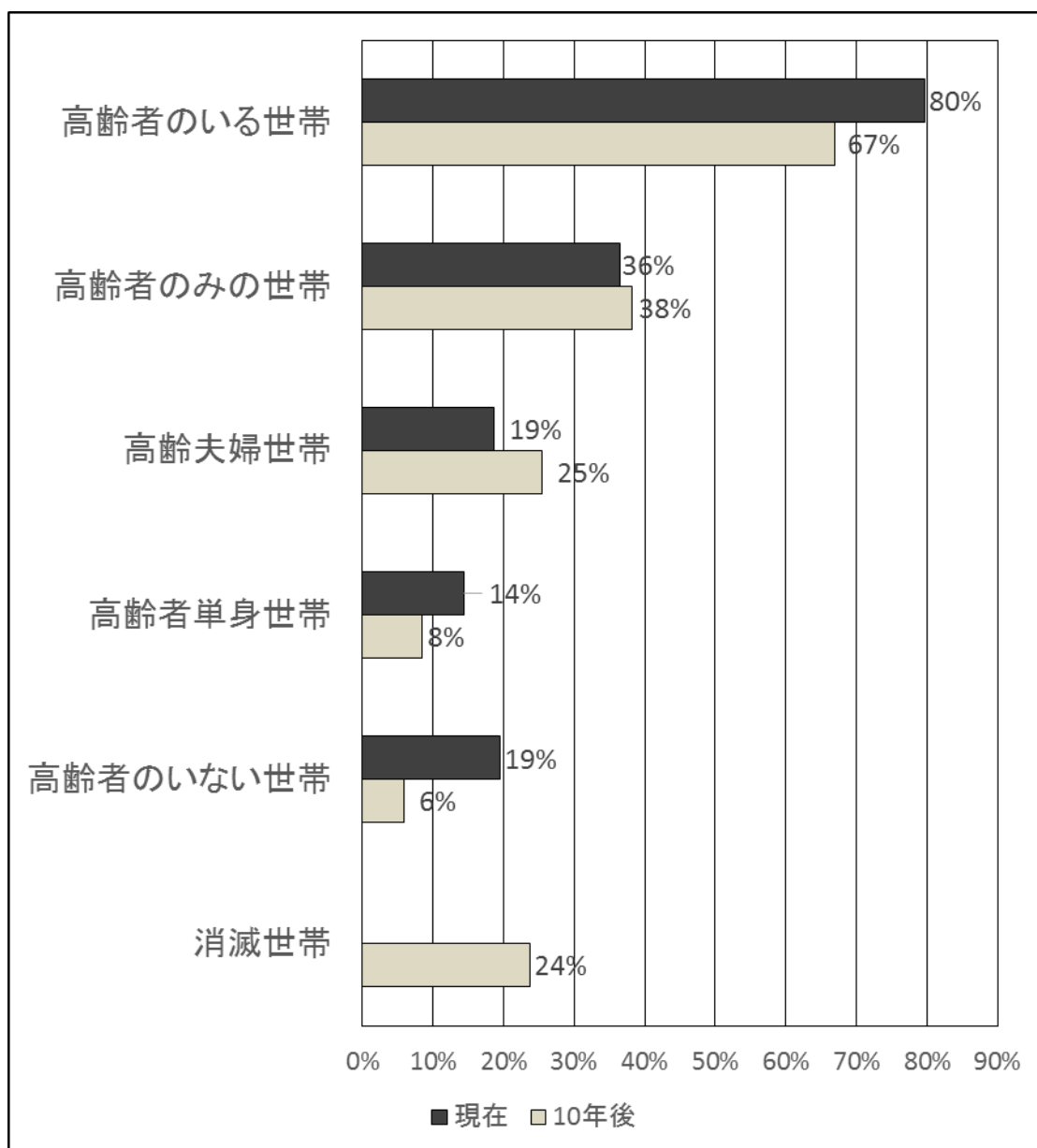


図 3.8 高齢者の有無から見た現在と 10 年後の世帯構成の変化

図 3.9 にあるように、回答者の約 9 割が持ち家である。借家の人は、A 町のみであった。

図 3.10 は、10 年後の持ち家の状態に関する質問の回答になる。H 自治区全体で、3 割近くの家屋が空き家になる可能性が懸念されている。全ての集落で空き家になることが懸念される家が存在する。

また、図 3.11 は、空き家が予想される家屋の将来の管理方法に関する回答であるが、空き家のままにしておくとした人が 68.4%であり、他人に貸す又は売ってもよいとした人は、18.4%である。このことから、空き家が増加しても、空き家の活用が進まないことが予想される。

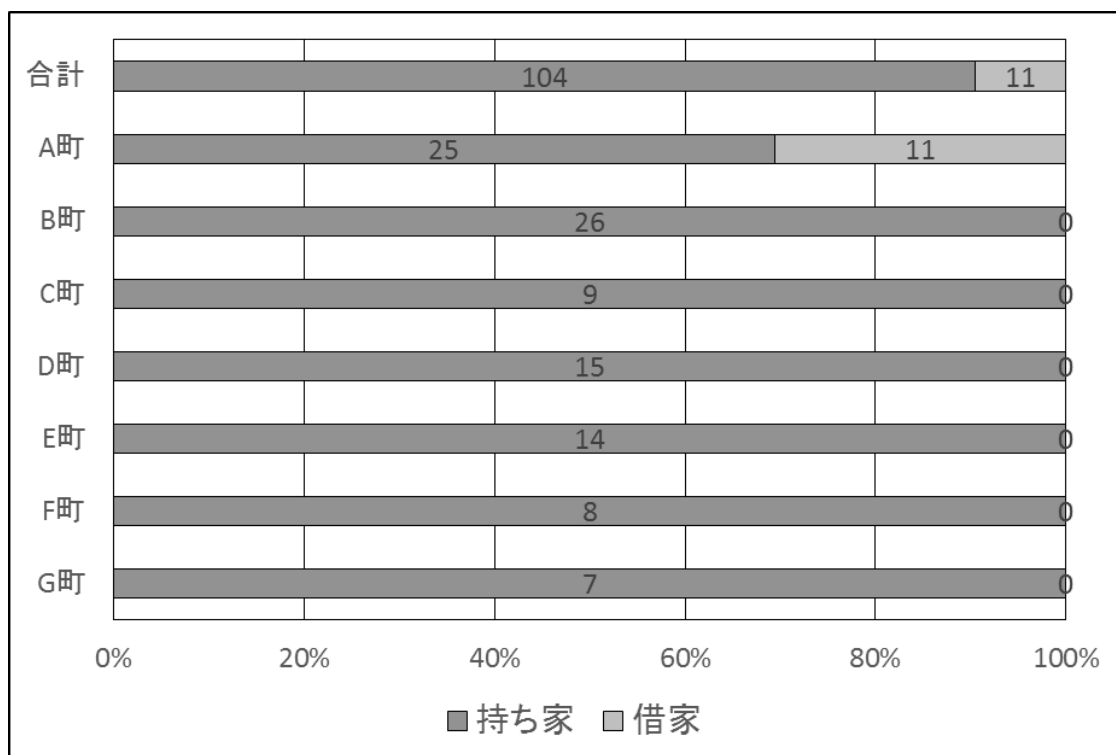


図 3.9 持ち家と借家の割合

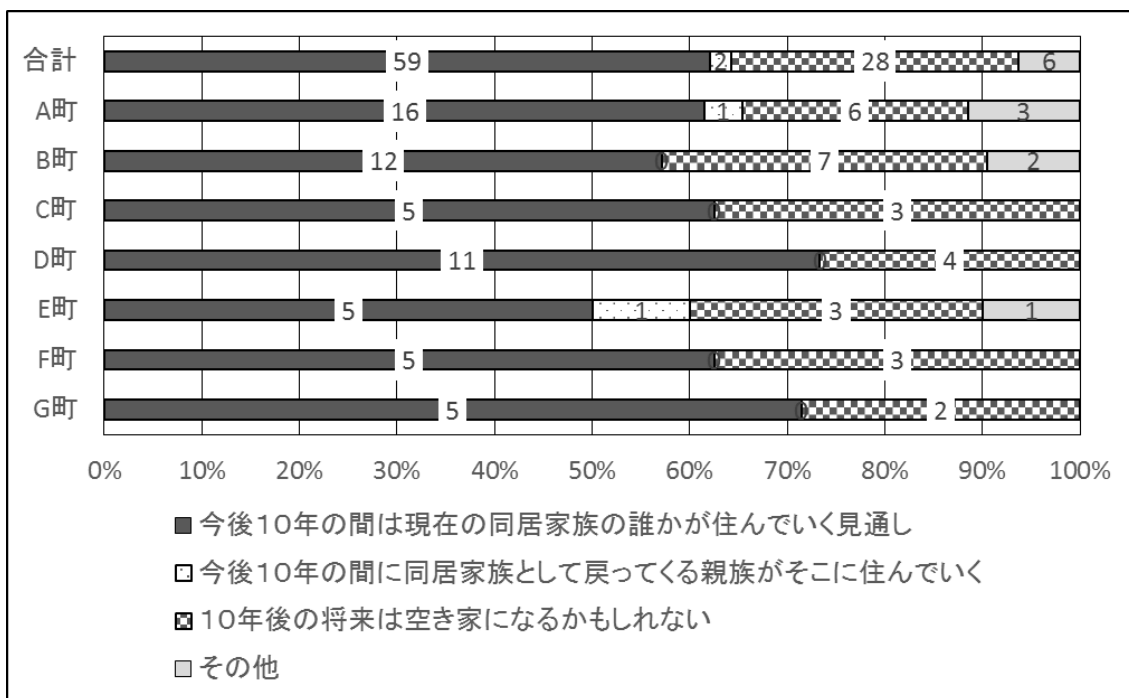


図 3.10 将来の家屋の状態

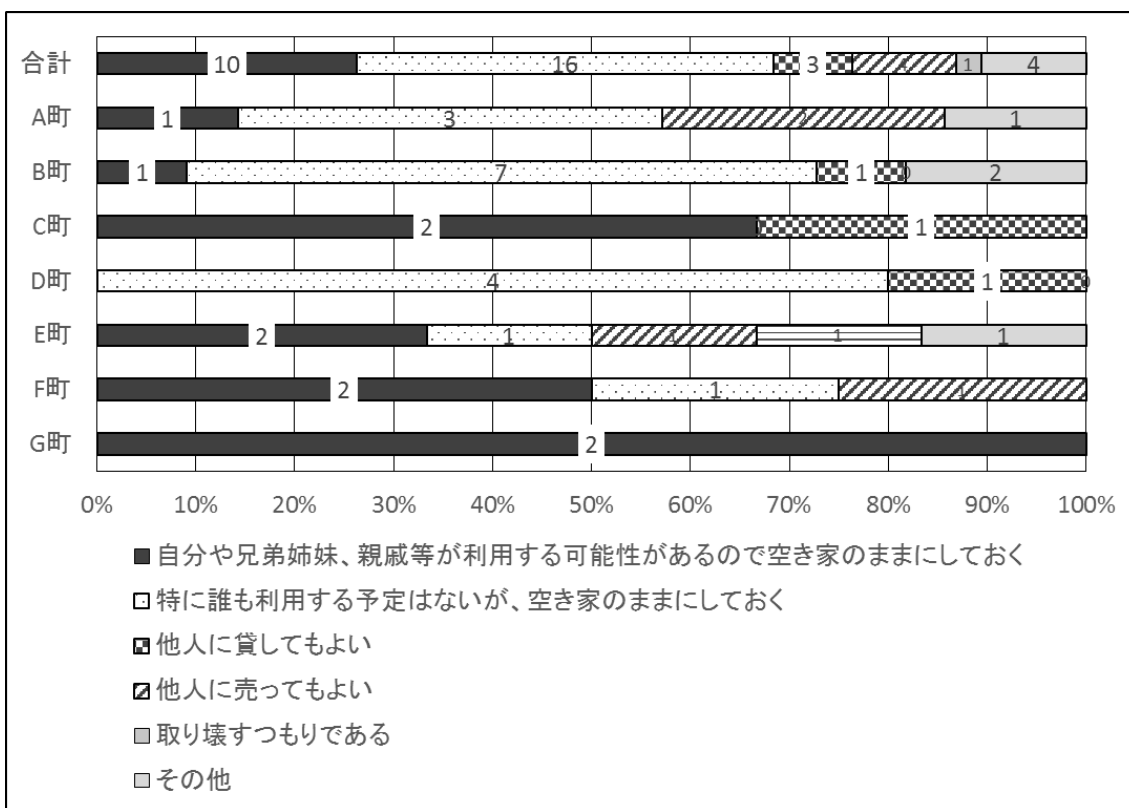


図 3.11 将来の空き家の管理方法



図 3.12 にあるように、H 自治区の約 7 割の人が農地を所有者している。集落毎に所有率に違いがあるが、A 町は他の集落に比べて農地の所有者が大きく少ないことが分かる。

図 3.13 にあるように、現在遊休農地となり、既に管理ができていない農地が H 自治区全体で 37%あり、今後 10 年間で更に倍の農地が、管理できなくなることが予想されている。これは、全ての集落で同様の傾向が見られている。

また、図 3.14 にあるように、管理ができない農地の将来の管理方法として、半数が管理しないままと回答したが、何らかの方法で保全したいとした人が 44%存在するため、空き家以上に活用が進むことが期待される。特に C 町では、親戚や集落の身近な人に貸す又は、農地を売却したいと全ての人が回答しており、積極的に活用が期待される。

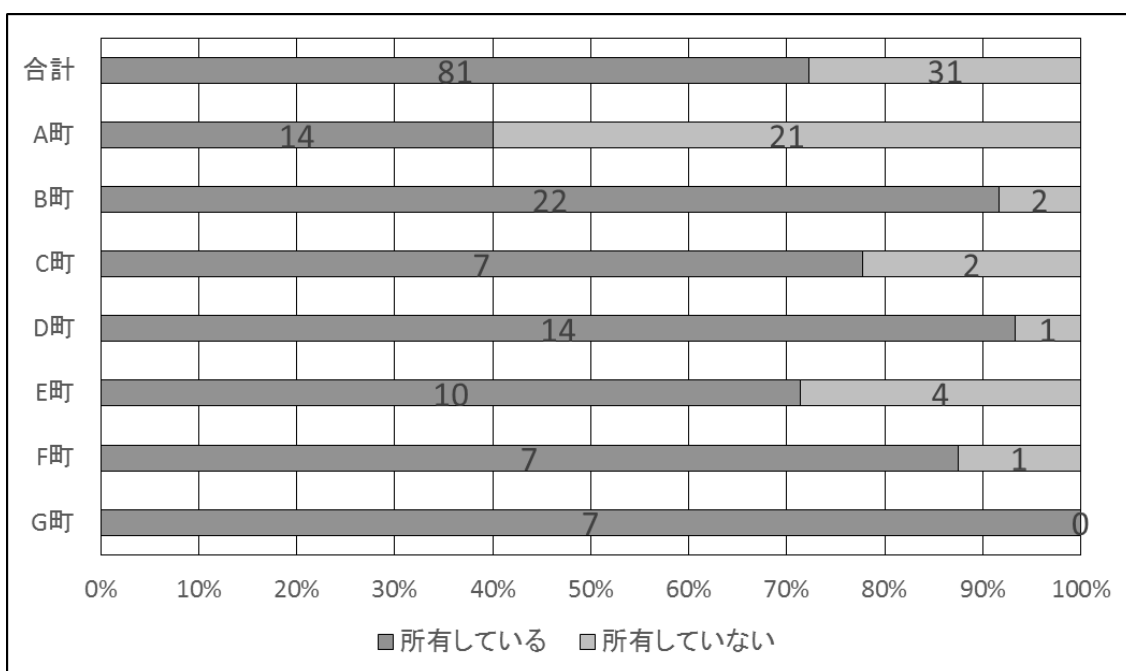


図 3.12 農地の所有有無

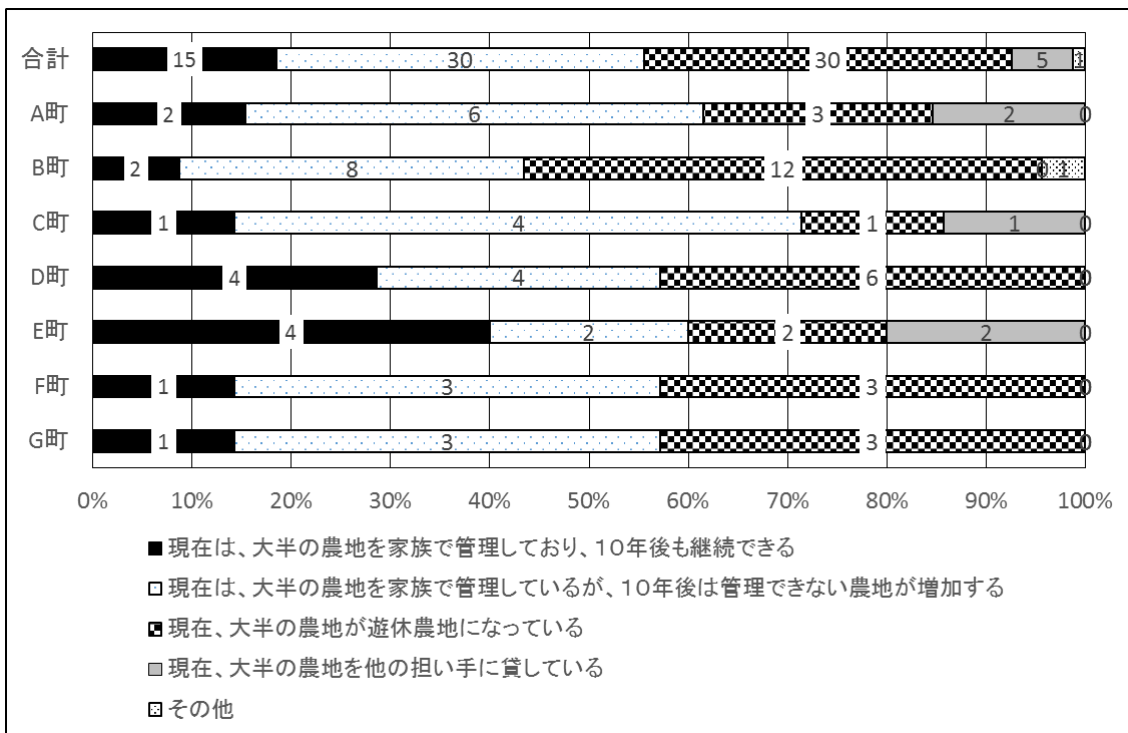


図 3.13 現在及び将来の農地の管理方法

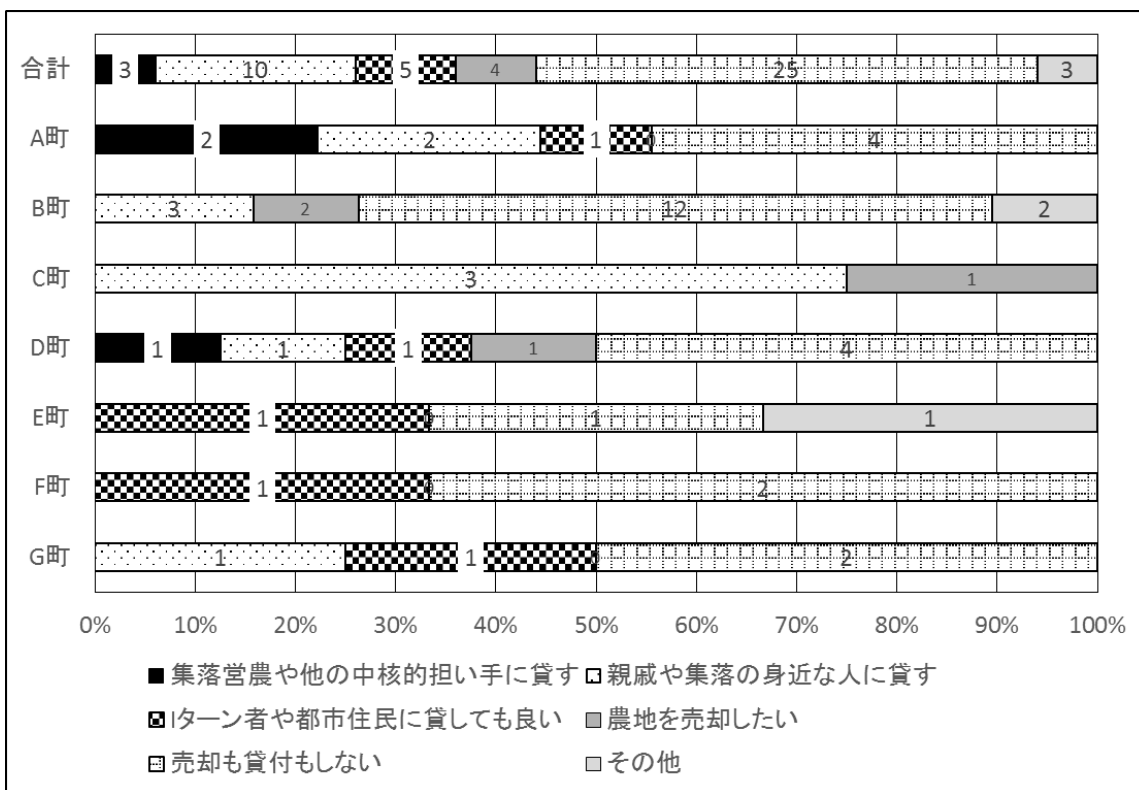


図 3.14 管理できない農地の管理方法の希望

図 3.15 にあるように、H 自治区全体で約 7 割の世帯が山林を所有している。集落毎に所有率に違いはあるが、A 町が特に他の集落に比べて山林の所有率が低いことが分かる。

図 3.16 にあるように、農地と同じく、山林においても、半数近くの世帯が管理を行っておらず、今後 10 年で更に倍の山林が管理されなくなる可能性があることが分かる。

また、図 3.17 にあるように、管理できない山林の将来の管理方法として、管理しないまま保有したいとした世帯が半数近くある一方で、何らかの方法で管理した意図した世帯も約 4 割存在した。

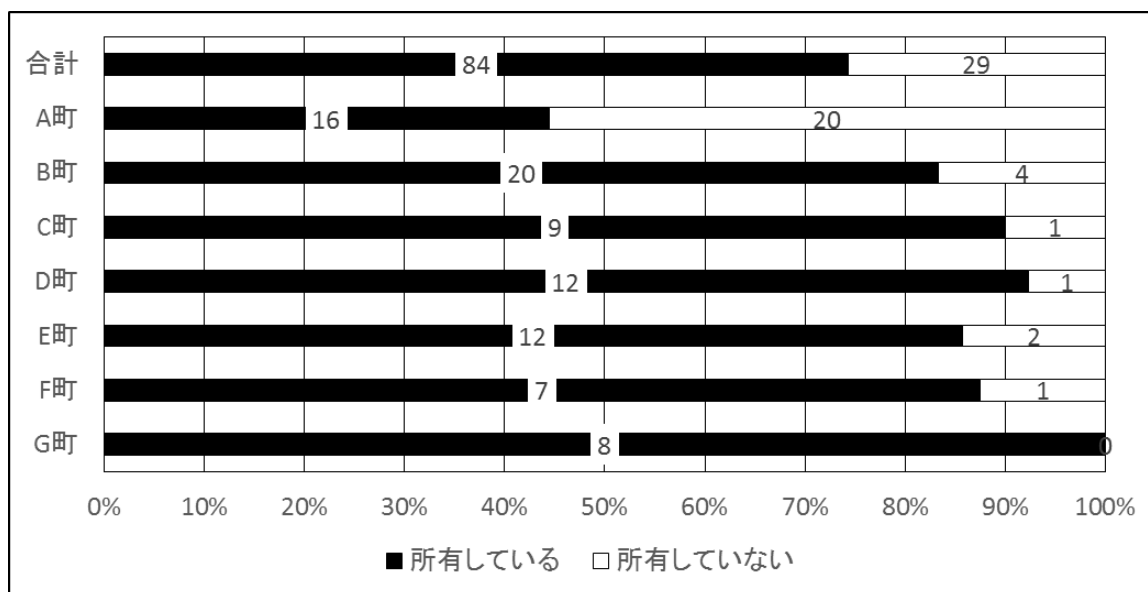


図 3.15 山林の所有有無

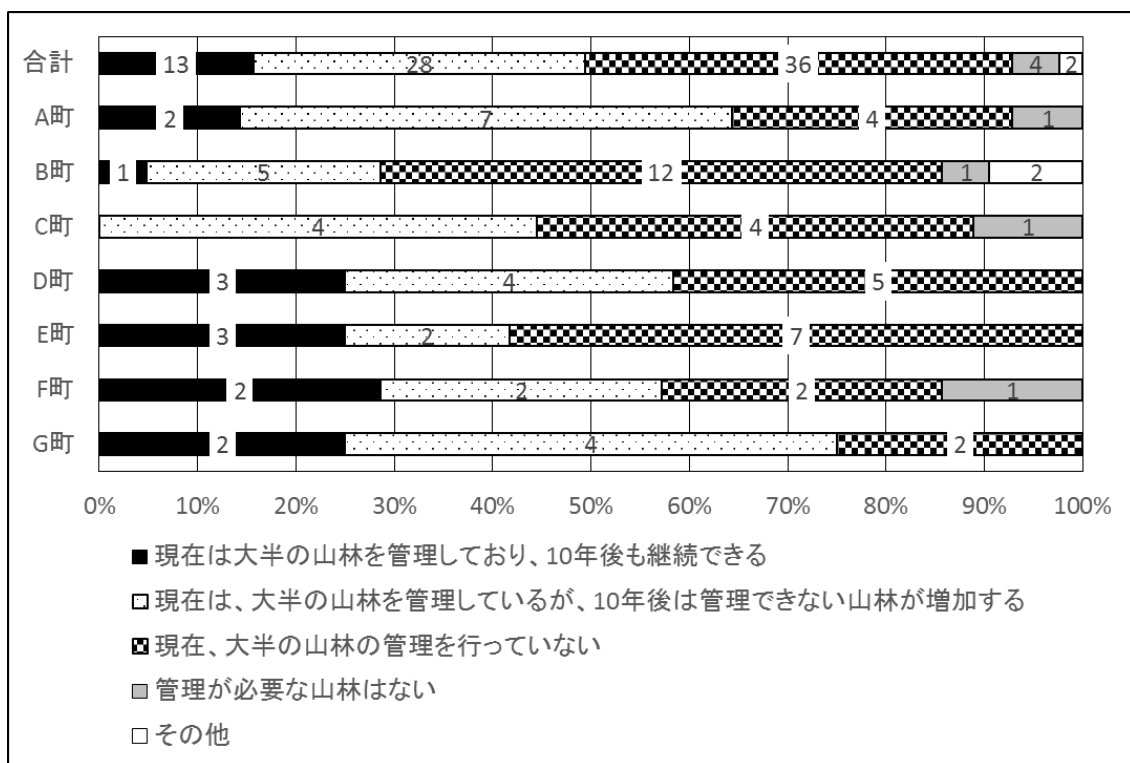


図 3.16 現在及び将来の山林の管理方法

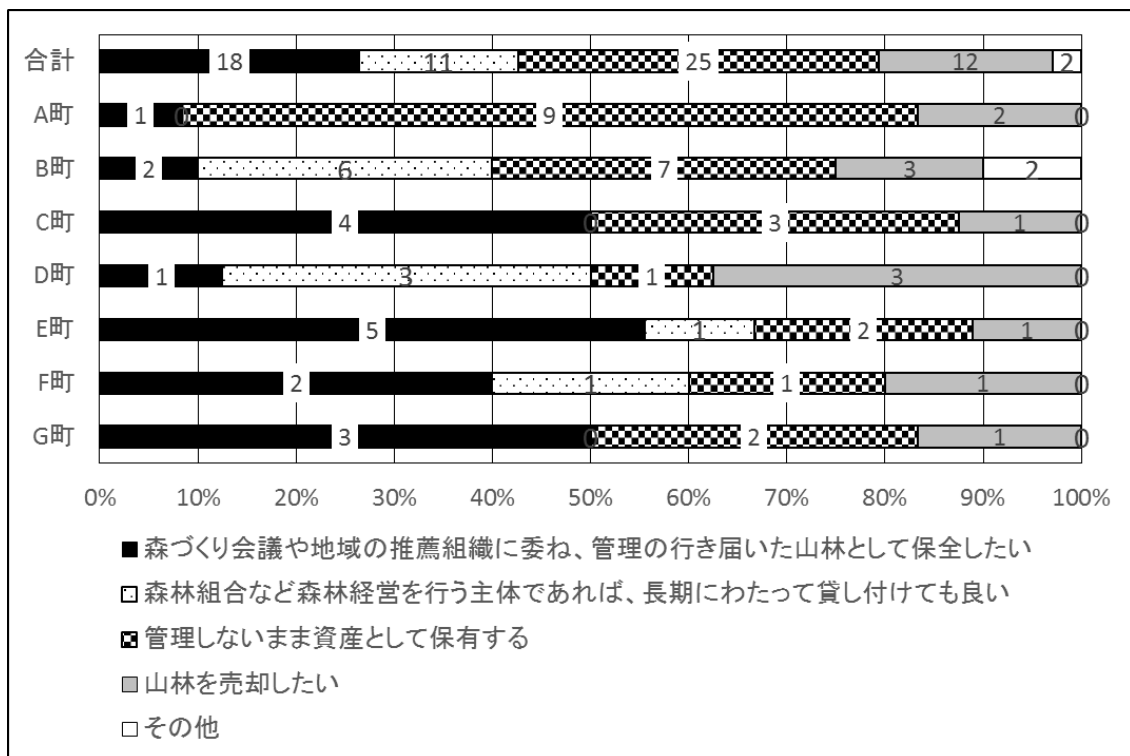


図 3.17 管理できない山林の管理方法の希望

### 世帯向け調査のまとめ

世帯向け調査で得られた問題を以下の表 3.3 のように、第 2 章で整理した中山間地域の問題にあわせて整理を行う。また、ここまでに得られた集落毎の特徴を以下の表 3.4 に示す。

表 3.3 世帯向け調査で得られた問題の整理

分野	問題
定住・生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後 10 年間で更なる人口減少が予想される。</li> <li>・今後 10 年間で空き家の増加が懸念されるが、所有者は空き家の提供に消極的である。</li> </ul>
健康・福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後 10 年間で更なる高齢化が予想される。</li> </ul>
農地・森林	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在も耕作放棄地が約 4 割存在しており、今後 10 年間で更に倍の農地が耕作放棄地となることが予想される</li> <li>・管理がされていない山林が約 4 割存在しており、今後 10 年間で更に倍の山林が管理できなくなることが予想される。</li> </ul>

表 3.4 世帯向け調査で得られた集落の特徴

集落	特徴
A 町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持ち家だけでなく、借り家の世帯が存在する</li> <li>・農地や山林を所有していない世帯が多く存在する</li> </ul>
B～G 町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての世帯が持ち家である</li> <li>・8 割以上と多くの世帯が農地や山林を所有している</li> </ul>

### 3.3.3. 個人向け調査の回答結果

次に、個人向け調査票の回答結果について述べる。

#### 回答者の属性

アンケート調査の回収状況を、表 3.5 に示す。回収率は 55.7% で、およそ半数の住民から回答があった。回答者の属性を、図 3.18、図 3.19 に示す。回答者の男女比は 1:1 であった。

表 3.5 アンケート調査の回収状況

地区	配布数	有効回収数	有効回収率
A町	282	103	36.5%
B町	121	78	64.5%
C町	37	29	78.4%
D町	93	55	59.1%
E町	69	40	58.0%
F町	54	20	37.0%
G町	48	27	56.3%
<b>全体</b>	<b>704</b>	<b>352</b>	<b>55.7%</b>

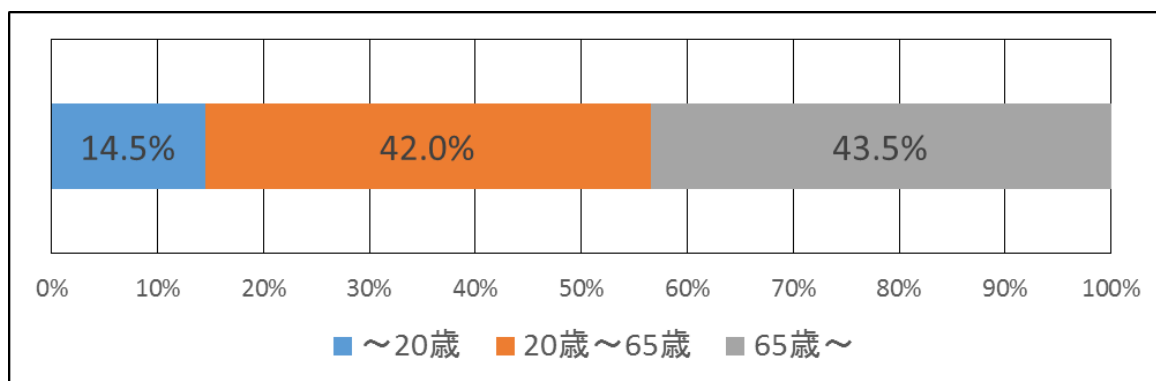


図 3.18 年齢別のアンケート回答者の割合

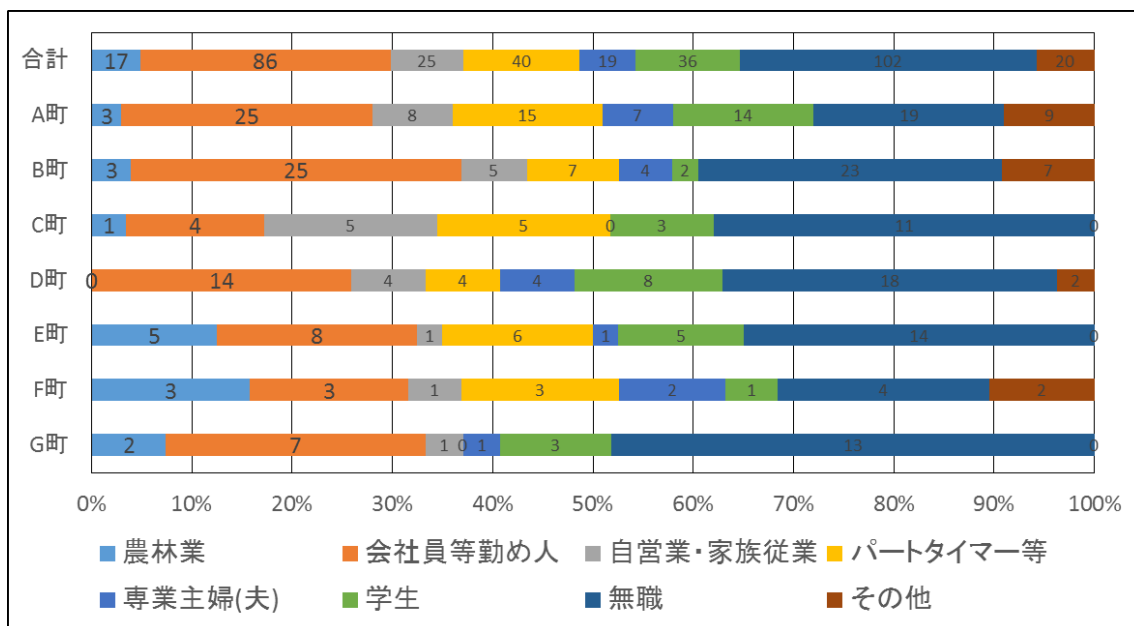


図 3.19 職業別の回答者の割合

#### アンケート調査結果

図 3.20 は、H 自治区において取り組むべき課題に関して、H 自治区全体の集計結果になる。過疎対策・定住促進への取り組みが最も多く、ついで、一人暮らし高齢者の支援など福祉問題への取り組み、防犯・防災活動など安全安心への取り組み、農地や山林の荒廃、獣害対策への取り組み、地域活動の活性化や声かけなど地域のつながりを高める取り組みが続く。

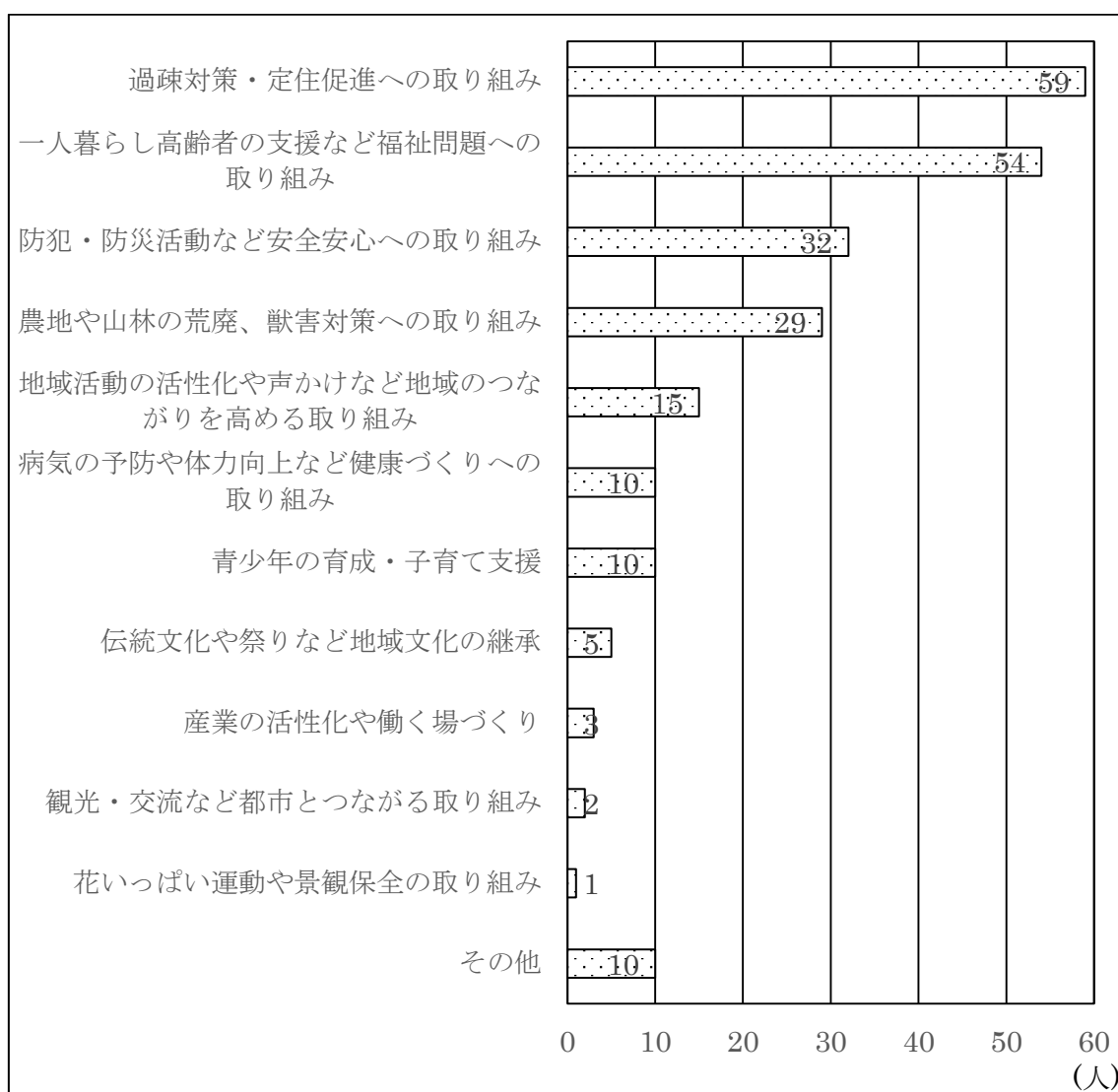


図 3.20 H 自治区において取り組むべき課題の回答



図 3.21 は、まちづくり活動への参加意欲に関する質問の、H 自治区全体の回答結果になる。H 自治区において取り組むべき課題で回答した項目について、自治区の状況についての知識、回答した課題に関する関心、自治区で取り組むことへの有効感、自治区が取り組まない場合の危機感、自治区での取り組みへの動機に関して 4 段階で聞いた、

$\chi^2$ 検定の結果、 $p$  値= $2.13 \times 10^{-32} < 0.05$  より有意差があり、課題に関する自治区の現状の知識は、「どちらかといえばない」、「ない」と回答した人が多く、「ある」、「どちらかといえばある」と回答した人が少なかった。また、課題の取り組みに対する関心では、「どちらかといえばある」と回答した人が多く、「どちらかといえばない」と回答した人が少なかった。課題の取り組みに対する有効感では、「ある」、「どちらかといえばある」と回答した人が多く、「ない」、「どちらかといえばない」と回答した人が少なかった。課題に取り組まないことへの危機感では、「ある」と回答した人が多く、「どちらかといえばない」と回答した人が少なかった。課題の取り組みへの参加意欲では「ある」と回答した人が少なく、「ない」と回答した人が多かった。

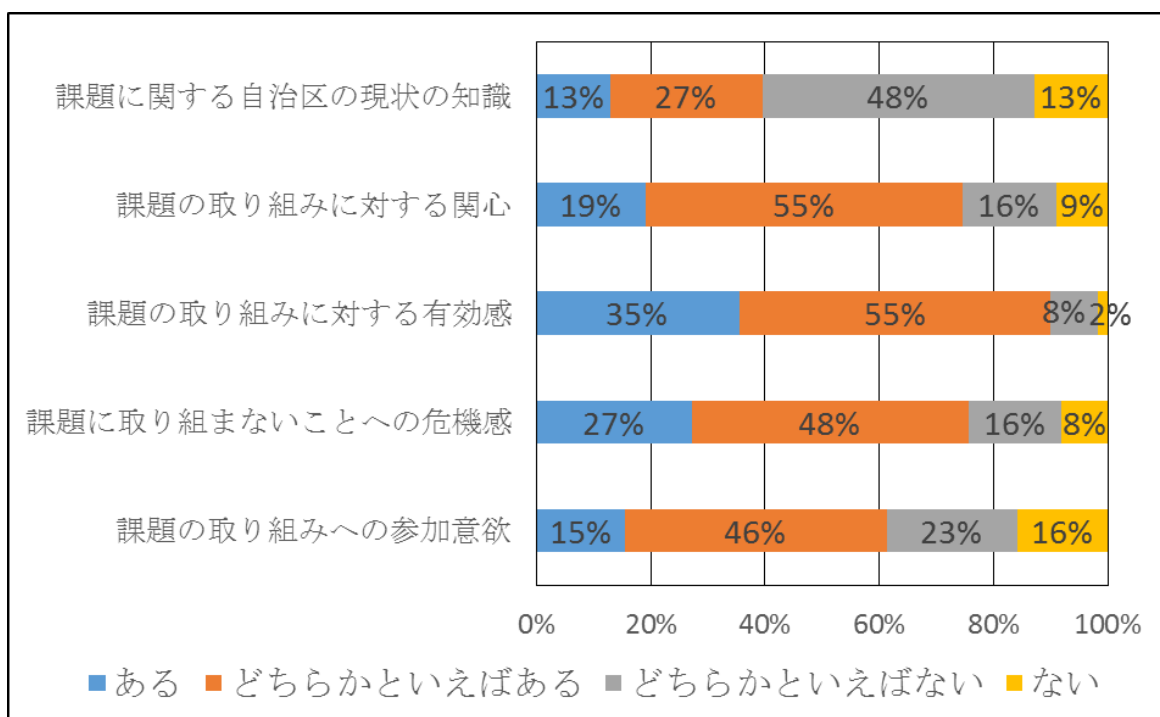


図 3.21 まちづくり活動への参加意欲に関する回答

図 3.22 は、地域別の H 自治区において取り組むべき課題に関する回答である。  $\chi^2$  検定の結果、  $p$  値=0.0246<0.05 より有意差が見られた。 A 町では、「伝統文化や祭りなど地域文化の継承」を選択した人が多かった。 C 町では、「防犯・防災活動など安全安心への取り組み」を選択した人が多く、 D 町では少なかった。 E 町では、「観光・交流など都市とつながる取り組み」を選択した人が多かった。 F 町では、「青少年の育成・子育て支援」、「花いっぱい運動や景観保全の取り組み」を選択した人が多かった。

また、まちづくり活動への参加意欲に関する質問では、  $\chi^2$  検定の結果、地域課題に対する知識、関心、有効感、危機感、動機のいずれも有意差は見られなかった。

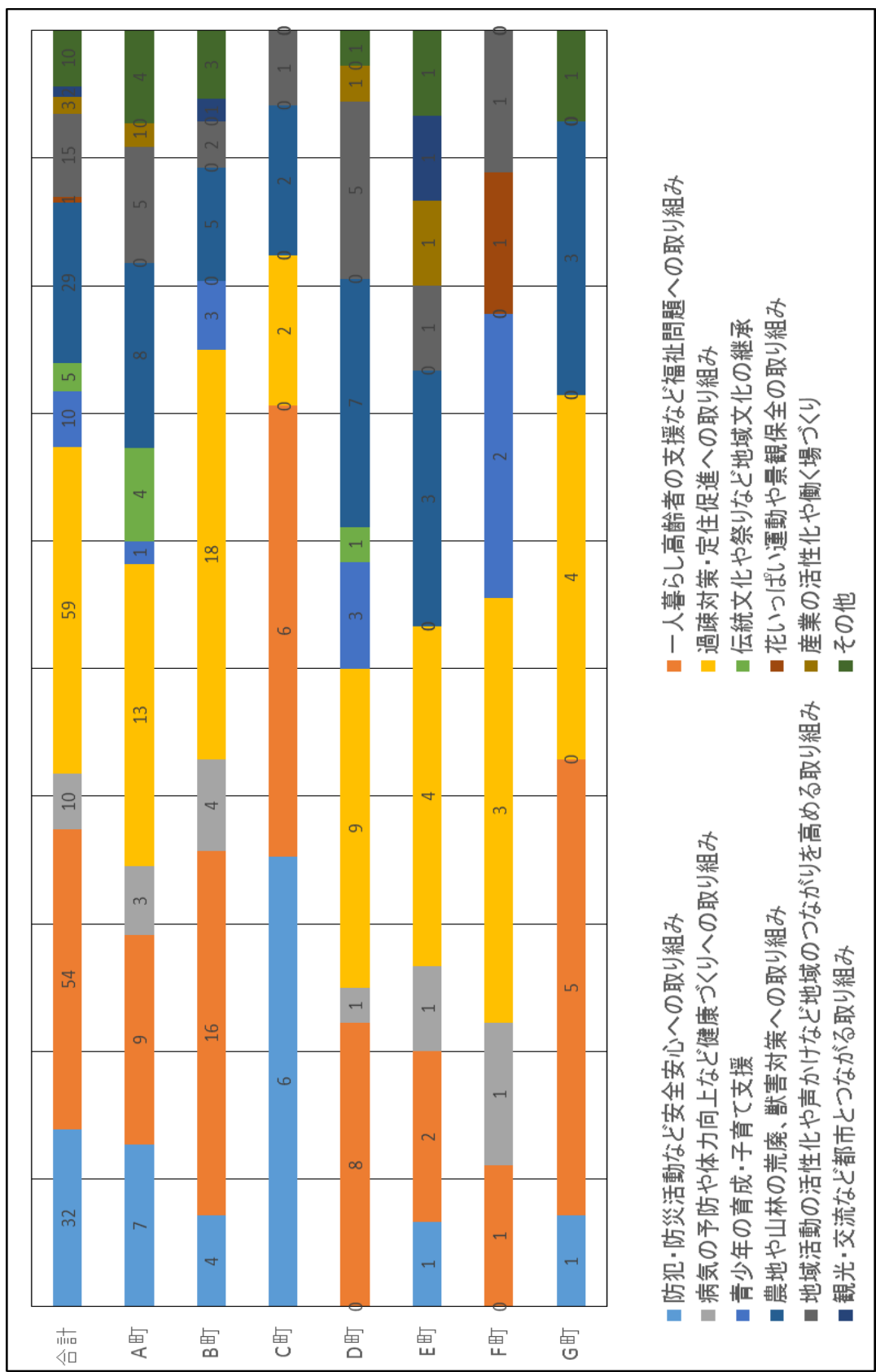


図 3.22 地域別の H 自治区において取り組むべき課題の回答

図 3.23 は、回答者の年齢別の H 自治区において取り組むべき課題に関する回答である。 $\chi^2$  検定の結果、 $p$  値=0.0028<0.05 より、有意差が見られた。高齢者は、「農地や山林の荒廃、獣害対策への取り組み」を多く選択した。また、非高齢者は「過疎対策、定住促進への取り組み」を多く選択した。

また、まちづくり活動への参加意欲に関する質問では、 $\chi^2$  検定の結果、知識、関心、動機の 3 つの質問において、有意差が見られた。それぞれ、 $p$  値=0.0281, 0.0297, 0.00269 であった。いずれの項目も、高齢者の方が「ある」、「どちらかといえばある」を回答した人が多かった。

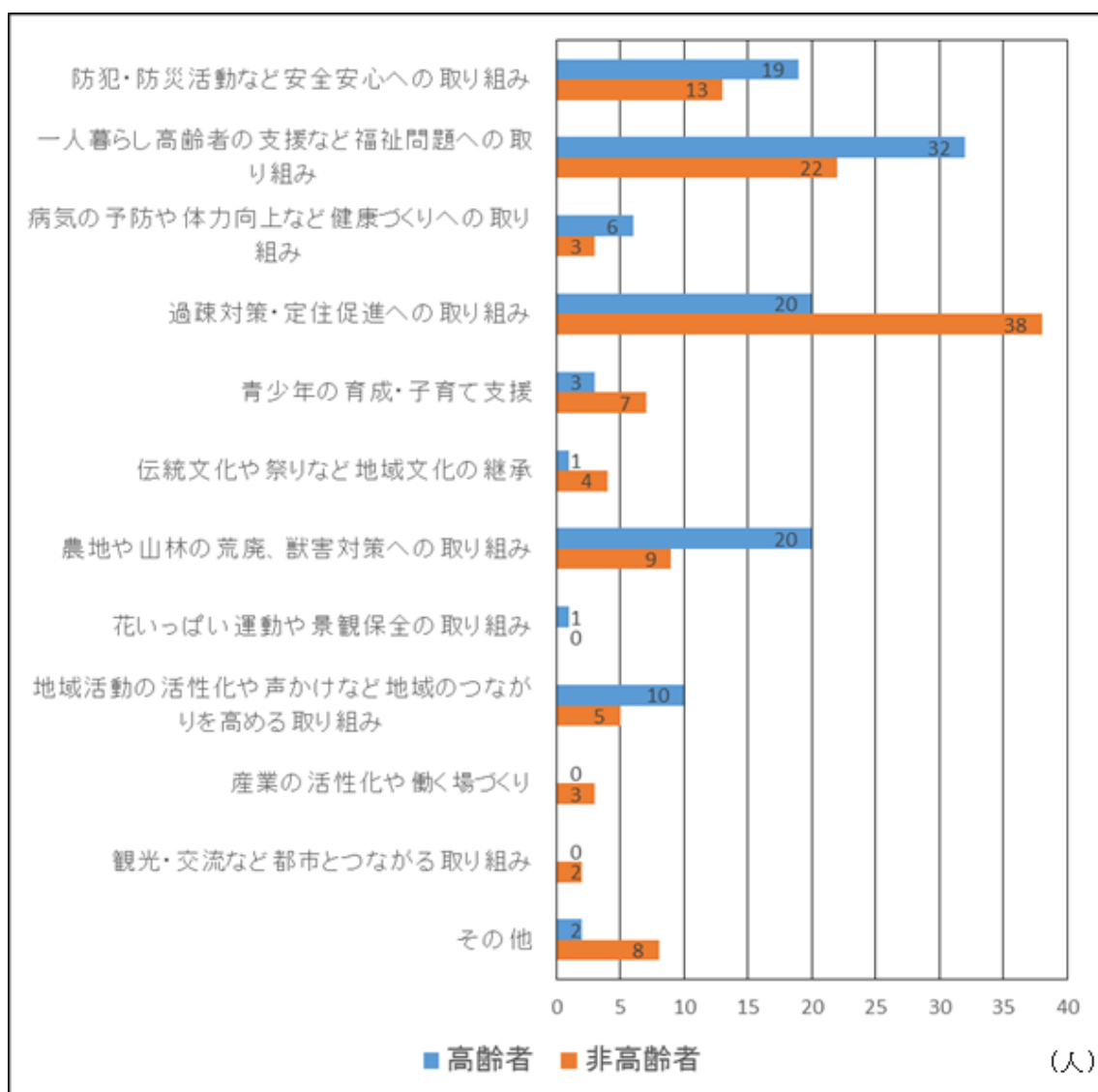


図 3.23 年齢別の H 自治区において取り組むべき課題の回答

図 3.24 は、回答者の職業別の H 自治区において取り組むべき課題に関する回答である。 $\chi^2$  検定の結果、 $p$  値=0.00666<0.05 より、有意差が見られた。職業が農林業の人は、「花いっぱい運動や景観保全の取り組み」を選択した人が多かった。会社員等勤め人は、「観光・交流など都市とつながる取り組み」を回答した人が多かった。パートタイマー等の職業の人は、「農地や山林の荒廃、獣害対策の取り組み」を回答した人が少なかった。学生は、「伝統文化や祭りなど地域文化の継承」を選択した人が多かった。無職の人は、「1 人暮らし高齢者の支援など福祉問題の取り組み」を選択した人が多く、「過疎対策・定住促進への取り組み」、「青少年の育成・子育て支援の取り組み」を選択した人が少なかった。

また、まちづくり活動への参加意欲に関する質問では、 $\chi^2$  検定の結果、知識、動機の 2 つの質問において、有意差が見られた。それぞれ、 $p$  値=0.0251, 0.000482 であった。課題に関する自治区の現状の知識では、農林業または、自営業・家族従業を職業とした人は、「ある」を回答した人が多く、「どちらかといえばない」と回答した人は少なかった。課題の取り組みへの参加意欲では、自営業・家族従業の人は、「参加したい」と回答した人が多かった。専業主婦(夫)の人は「どちらかといえば参加したい」と回答した人が多かった。学生は「参加したくない」と回答した人が多かった。無職の人は、「どちらかといえば参加したい」と回答した人が多く、「どちらかといえば参加したくない」と回答した人が少なかった。

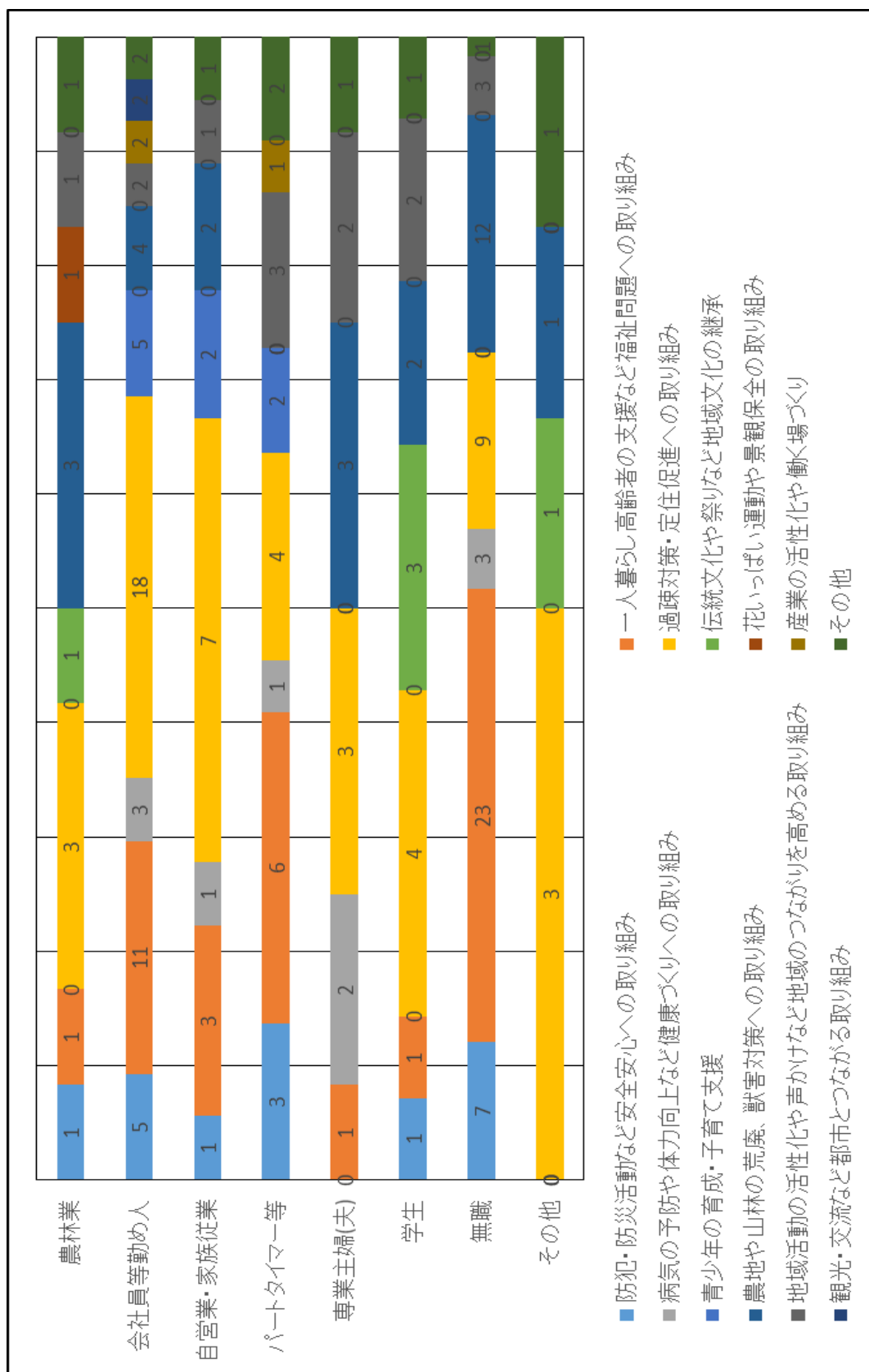


図 3.24 職業別の H 自治区において取り組むべき課題の回答

### 個人向け調査のまとめ

個人向け調査で得られた地域住民が取り組むべきと考えている課題は以下の表 3.6 のように、第 2 章で整理した中山間地域の問題に対応することが分かる。旭地区に比べて、過疎対策や、一人暮らし高齢者の支援など、定住・生活、健康・福祉の分野が求められており、防災・防犯や農地・森林の分野は優先度が低かった。また、H 自治区全体で共通して得られた課題の他に、集落毎の特徴を以下の表 3.7 に示す。

また、課題への取り組みに対する参加意欲に関する質問では、自治区全体の状況に対する知識が不足していることが分かった。また、他の項目との比較では、取り組みの有効感が高く、参加意欲が低かった。

表 3.6 H 自治区において地域住民が考えている取り組むべき課題

分野	取り組むべき課題
定住・生活	・過疎対策・定住促進への取り組み
地域力	・地域活動の活性化や声かけなど地域のつながりを高める取り組み
防災・防犯	・防犯・防災活動など安全安心への取り組み
健康・福祉	・一人暮らし高齢者の支援など福祉問題への取り組み
農地・森林	・農地や山林の荒廃、獣害対策への取り組み

表 3.7 集落毎の取り組むべき課題の回答の違い

集落	多かった回答
A 町	「伝統文化や祭りなど地域文化の継承」
C 町	「防犯・防災活動など安全安心への取り組み」
F 町	「青少年の育成・子育て支援」, 「花いっぱい運動や景観保全の取り組み」

### 3.4 地域懇談会への参加

#### 3.4.1. 区長を囲む会の概要

アンケートで得られた地域の問題を、地域住民による地域の課題に関する懇談会へ参加することで質的に把握する。区長を囲む会は、H 自治区の自治区長が開催した、地域住民が地域の問題点に関して意見交換を行う懇談会である。それぞれの会では、共通した属性の住民が参加した。各会の概要を表 3.8 にのせる。会は、区長からの挨拶、参加者各々からの意見出し、参加者間で意見交換といった流れで行われた。

表 3.8 区長を囲む会の概要

回数	開催日	場所	参加者	参加者数
第1回	2016年7月27日(火) 10時から12時	H 自治区 小学校	H 自治区の小学校教員	9人
第2回	2016年8月1日(月) 19時から19時30分	H 自治区 小学校	小学校のPTA 会員	9人
第3回	2016年10月18日(火) 13時30分から15時30分	百年草	区長等お役経験者	8人

#### 3.4.2. 区長を囲む会の参加結果

各会の具体的な発言録については、付録に掲載する。以下では、区長を囲む会での参加者の発言の分析結果を述べる。懇談会の発言を分析するにあたり、分析方法について述べる。質的データの分析に当たり、佐々木は、大谷の提案した SCAT という手法と、工藤らのテキスト分析を組み合わせた手法を用いた [21]。本研究では、佐々木の手法を活用した。「テキスト」を抽出した後、「テキスト内の注目すべき語句」を抜き出し、それを「サブカテゴリー」、「カテゴリー」と抽象化していく方法を取った。「サブカテゴリー」から「カテゴリー」に分類する際は、KJ 法を用いた。以下では、カテゴリーを《 》で、サブカテゴリーを〈 〉で表す。

表 3.9 区長を囲む会における発言のカテゴリー分類

分野	関係するカテゴリー
定住・生活	《過疎化対策への意欲》, 《過疎化対策の障害》, 《若年者の流出》, 《地域の魅力》
地域力	《昔と比較した地域機能の衰退》, 《地域の取り組みへの有効感の不足》
健康・福祉	《高齢者の生活の困難さ》, 《高齢者の福祉の不足》



以下では、それぞれのカテゴリーについて説明し、具体的な発言の例を示す。

・カテゴリー《過疎化対策への意欲》

人口減少を認識して、それに対する対策を行う意欲があるという発言。

・具体的な発言

「昔は、H 自治区の小学校は足助で 2 番目の学校だった。それが数年後は 21 人。それを何とかしなければいけない。若者を入れる」〈小学校の入学人数減少に伴う過疎化対策への意欲〉

「3 月まで定住対策委員会、地域会議の代表をしていた。そこで、2 戸 2 戸作戦で、田んぼを提供してくれないか、と言われて使っていないからいいよと提供した。若い、子供が作れる人に入ってもらって一人でも増やしたい。」〈過疎化対策への意欲〉

・カテゴリー《過疎化対策の障害》

過疎化対策に取り組むに当たって、地域性により受け入れが難しいという発言。

・具体的な発言

「場所が無ければやっていけない。空き家があれば入れる状態。住む所が無ければ、その後大変だなと感じている。」〈外部住民の住む家の不足〉

「人が少ないから、不安があると思う。遊び相手や話し相手がいるか。」〈子育て世代の少なさによる不安〉

・カテゴリー《若年者の流出》

若い世代を中心に都市部へ転出するという発言。

・具体的な発言

「E 町でも、結婚してから 20 年ぶりに子供が出来た夫婦がいるが、子育てには嫌だと言って、出て行ってしまう」〈子育て環境の不利による若年者の流出〉

「(子供たちは) 足助に残りたいかというのと、自分のやりたいことをするためには、都市に出て行きたいと思う。自己実現を考えると足助を出て行ってしまう。そこを残れ、残れというのと難しいと思う。」〈自己実現のための若年者の流出〉

・カテゴリー《地域の魅力》

教育や、地域文化などにおいて地域に魅力があるという発言。

・具体的な発言

「自然の中で、町にも近い。歴史的にもいろいろなものがありますし、学ぶには良い環境だと思う。」〈自然と町の間にある地域の魅力〉

「他の学校には無い歌舞伎も H 自治区の小学校の誇りを持ってるところだと思う。」〈地域独自の文化の魅力〉

- ・ カテゴリー 《昔と比較した地域機能の衰退》

人口減少や高齢化に伴い、地域機能が衰退していることについての発言。

- ・ 具体的な発言

「敬老会をやめたのは残念。これから年寄りばかりだから、20人でも続けて欲しい。」〈地域機能の衰退に関する悲観〉

「歌舞伎についても人数が減ってきている問題はどうしようもない現実で、続けていくためには保存会が必要かと思う。」〈地域文化の継続の難しさ〉

「H 自治区はパワーがあった。特に B 町は子供が増えていた。子供たちだけでバレー大会が出来た。学校づくりで地区からお金が何千万とお金が入った。」〈人口減少に伴う地域規模の縮小〉

- ・ カテゴリー 《独居高齢者の生活の困難さ》

独居高齢者が H 自治区で単独で生活をするものの困難さに関する発言。

- ・ 具体的な発言

「公共交通手段がない。それが一番ネックかと思う。公共交通手段で日常の脚として使えるのも必要かと思う」〈公共交通の不足による高齢者の生活不安〉

「一番思うことは、年をとって同居している人はいいが、そうではない人は買い物や病院に行くことはどうしたらいいのか、本当に切実な問題だと思う。将来健康を守って生活していきたい。」〈移動手段の不足による独居高齢者の生活不安〉

- ・ カテゴリー 《高齢者の福祉の不足》

H 自治区に高齢者に対する福祉機能が不足していることに関する発言。

- ・ 具体的な発言

「H 自治区では老人会も解散して、子供だけでなく年寄りもまとまりがない。敬老会は 75 歳以上が参加できるが、参加者が少ない。」〈高齢者の集まる機会の不足〉

「子供の話だけでなく、高齢者の問題を考えていく。区長をやった人は分かると思うが、H 自治区はまとまりがない。」〈高齢者のための取り組みの必要性〉

- ・ カテゴリー 《地域の取り組みへの有効感の不足》

地域住民による H 自治区のための取り組みに対する有効感が欠如している発言。

- ・ 具体的な発言

「昔は色々な役が連携していた。しかし、今、年寄りだらけなところで、自分たちでやれと言われてもできない。」〈高齢化による取り組みの困難さ〉

「子供が増える施策をしなければならぬ。抜本的な改革をしないと、いくら町の人（地域の人）が何をやってもだめ」〈地域住民による取り組みへの有効感の不足〉

「B 町も年寄りばかりになって、その衆は昔からの慣習で住めばいいが、新しく人が入るの

は考えられない。」〈地域の将来に対する諦め〉

### 3.4.3. 区長を囲む会のまとめ

カテゴリー内の具体的な発言から、H 自治区の維持に向けた問題と、住民参加に関わる問題を表 3.10、表 3.11 にまとめる。

表 3.10 区長を囲む会で得られた H 自治区の問題

分野	H 自治区の問題
定住・生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校の入学人数の減少に伴う複式化</li> <li>・ 子供の人数が少ないため、子育てへの不安により地域外へ流出</li> <li>・ 地域出身者の自己実現のための地域外への流出</li> <li>・ 地域外住民が入れる空き家がない状況</li> </ul>
地域力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歌舞伎などの地域文化の継承の困難</li> <li>・ バレー大会の消滅など人口減少に伴う地域機能の衰退</li> </ul>
健康・福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 敬老会の中止など高齢者の集まる機会の不足</li> <li>・ 独居高齢者の増加と公共交通の利便性の低さに伴う地域での生活の難しさ</li> </ul>

表 3.11 区長を囲む会で得られた取り組みへの住民参加に関する問題

カテゴリー	住民参加の問題
《地域の取り組みへの有効感の低さ》	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者の増加による取り組みへの有効感の低さ</li> <li>・ 地域の将来に対する諦め</li> <li>・ 地域住民単独での取り組みへの有効感の低さ</li> </ul>

### 3.5 アンケート調査及び地域懇談会のまとめ

アンケート調査及び、地域懇談会への参加から、対象地域の問題と、住民が考えている課題を明らかにした。また、そうした課題に対する取り組みへの住民参加に関する問題を抽出した。

表 3.12 アンケート調査及び区長を囲む会で得られた H 自治区の問題のまとめ

分野	H 自治区の現状と問題
定住・生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後 10 年間で更なる人口減少が予想される</li> <li>・今後 10 年間で空き家の増加が懸念されるが、所有者は空き家の提供に消極的である</li> <li>・小学校の入学者数の減少に伴い複式化する</li> <li>・子供の人数が少ないため、子育てへの不安により地域外へ流出する</li> <li>・地域出身者の自己実現のための地域外へ流出する</li> <li>・地域外住民が入れる空き家がない状況である</li> </ul>
地域力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌舞伎などの地域文化の継承の困難である</li> <li>・バレー大会の消滅など人口減少に伴う地域機能の衰退している</li> </ul>
健康・福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後 10 年間で更なる高齢化が予想される</li> <li>・敬老会の中止など高齢者の集まる機会が不足している</li> <li>・独居高齢者の増加と公共交通の利便性の低さに伴い、地域での生活が難しい</li> </ul>
農地・森林	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在も耕作放棄地が約 4 割存在しており、今後 10 年間で更に倍の農地が耕作放棄地となることが予想される</li> <li>・管理がされていない山林が約 4 割存在しており、今後 10 年間で更に倍の山林が管理できなくなることが予想される</li> </ul>

表 3.13 アンケート調査及び区長を囲む会で得られた住民参加の問題のまとめ

地域問題への参加要素	住民参加の問題
知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に関する自治区の現状に対する知識の不足している</li> </ul>
有効感	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の増加による取り組みへの有効感が低い</li> <li>・地域の将来に対して諦めている</li> <li>・地域住民単独での取り組みへの有効感が低い</li> </ul>

表 3.14 アンケート調査及び区長を囲む会で得られた集落毎の特徴と課題

集落	特徴	固有の課題	共通した課題
A 町	・持ち家だけでなく、借り家の世帯が存在する ・農地や山林を所有していない世帯が多く存在する	「伝統文化や祭りなど地域文化の継承」	「過疎対策・定住促進への取り組み」 「地域活動の活性化や声かけなど地域のつながりを高める取り組み」
B 町	・全ての世帯が持ち家である ・8割以上と多くの世帯が農地や山林を所有している		「防犯・防災活動など安全安心への取り組み」 「一人暮らし高齢者の支援など福祉問題への取り組み」 「農地や山林の荒廃，獣害対策への取り組み」
C 町		「防犯・防災活動など安全安心への取り組み」	
D 町			
E 町			
F 町		「青少年の育成・子育て支援」，「花いっぱい運動や景観保全の取り組み」	
G 町			

### 3.6 聞き取り調査

アンケート調査及び地域懇談会への参加で得られた対象地域の問題について検証を行うため実施した聞き取り調査について述べる。

#### 3.6.1. 聞き取り調査概要

聞き取り調査は，H 自治区在住の住民 10 名に対して行った。被験者は H 自治区の 7 つの集落それぞれから 1 名以上となるようにした。聞き取りは，被験者の自由な発言から地域に対する考えを抽出することを目的に，半構造化インタビューの形式で行った。1 回の聞き取りは，それぞれ説明を含めて 45 分程度であった。聞き取り内容はボイスレコーダーでの録音を行った。

聞き取り内容は，以下の項目になる。

- ・対象者の年齢や職業など基本的な情報
- ・対象者の H 自治区での経歴
- ・地域に対する良い点と悪い点
- ・地域の将来に向けた取り組みに対する考え

### 3.6.2. 聞き取り調査結果

#### カテゴリーと分類の結果

聞き取り調査の分析においては、第3章の区長を囲む会と同様に、カテゴリー分類を行った。まちづくりに関する発言を195個抽出し、163個のサブカテゴリー、12個のカテゴリーに分類した。表3.15、表3.16がカテゴリーの分類になる。分野別にまちづくりに関する発言を分類した。また、第3章で扱った地域問題への住民参加のモデルに従い、住民の取り組みへの参加に関する考えを、知識、危機感、有効感、関心、行動意図の5つに分類した。それぞれ、肯定的なカテゴリーと否定的なカテゴリーに分類した。以下では、カテゴリーを《 》で、サブカテゴリーを〈 〉で表す。

表 3.15 聞き取り調査で得られた発言の分野別のカテゴリー分類

分野	関係するカテゴリー
定住・生活	《過疎化対策の必要性》, 《過疎化対策の障害》, 《過疎化対策の方法》, 《地域資源を活用したまちづくり》
地域力	《人口減少・高齢化による地域機能の衰退》, 《地域への諦め》
健康・福祉	《高齢化に対する危機感》

表 3.16 聞き取り調査で得られた発言の住民参加に関するカテゴリー分類

地域問題への参加要素	肯定的なカテゴリー	否定的なカテゴリー
知識	《人口減少・高齢化による地域機能の衰退》	
危機感	《高齢化に対する危機感》	
有効感		《まちづくり活動への疑問》 《地域への諦め》 《過疎化対策の障害》
関心	《地域の将来を考えることの意義》 《過疎化対策の必要性》	
実行可能性		《新しいことへ反発する人の存在》 《年代による考え方の違い》 《住民のまちづくりへの関心不足》

以下では、それぞれのカテゴリーについて説明し、具体的な発言の例を示す。

- ・カテゴリー《人口減少・高齢化による地域機能の衰退》

地域の人口が減少していることや高齢化が進むことにより、地域機能が衰退している現状に関する発言。

- ・具体的な発言

「要するに若いのがいないから、いろんな意味で、たとえば一緒にやる行事が先細りだわな。」〈少子化、人口減少による地域機能の衰退〉

「段々年寄りが多くなって来る、いろんなことが寂れてくる。」〈高齢化に伴う地域機能の衰退〉

「お祭りとかも昔みたいになぎやかさはないね。」〈子供が少なくなったことによる行事の寂しさ〉

「役のほうが多すぎて、やる人がいないもんで」〈人口減少に伴う役の負担の増大〉

- ・カテゴリー《地域の将来を考えることの意義》

衰退している地域の現状に対して、将来の対策を考えることに意義があるという発言。

- ・具体的な発言

「(これまでの行事などを) 将来を見据えて、縮小したり、廃止する必要があると思う。」〈地域の将来に適した地域運営の方法〉

「(地域の計画を) 見直しして地域が良くなるのであれば、ぜひやらなければならない。」〈まちづくりの必要性の認識〉

- ・カテゴリー《高齢化に対する危機感》

地域が高齢化していくことに対して危機感を感じているという発言。

- ・具体的な発言

「移動販売が、あれをもう少し充実させないと困るわね。」〈運転ができない高齢者の支援の必要〉

「でもみんな高齢で色々えらいもんで。」〈高齢化に伴う活動の衰退〉

- ・カテゴリー《過疎化対策の必要性》

地域の人口減少に対して対策が必要であるという発言。

- ・具体的な発言

「何とか過疎化を食い止めようとか思っている」〈過疎化対策の重要性〉

「人を増やすって言うことがまず先決」〈過疎化対策の重要性〉

- ・カテゴリー《まちづくり活動への疑問》

まちづくり活動の効果に対して疑問を持つという発言。

- ・具体的な発言

「構想とか色々考えても、どんだけ変わるんだろうな。」〈まちづくりの有効性への疑問〉

「ないじゃん具体策なんて」〈地域を良くする具体策の欠如〉

「(何か新しいことは) もういいよ、無理だと思う。若い人はいないし、入ってこないし。」

〈新しいことへの抵抗による将来への諦め〉

・ カテゴリー 《地域への諦め》

地域を変えることにに対して諦めているという発言.

・ 具体的な発言

「こうしていききたいというのはあっても、半分諦めている。」〈現状の受容〉

「限界集落にはしたくない、けど、自分の子供は他所に出しとる。」〈地域を変えたい気持ちと行動の乖離〉

「予算的な話から言ってまず無理だし、すぐにできることじゃないし。」〈行政の取り組みへの期待と諦め〉

「基本的に、この地区を盛り上げて末永く維持していこう、という考えは無いです。」〈現状の受容〉

・ カテゴリー 《過疎化対策の障害》

過疎化対策を実践する上で障害があるという発言.

・ 具体的な発言

「土地がないんですよ。」〈移住者が住む土地の不足〉

「家主がうんと言わなきゃできないし。」〈移住者への家の受け渡しの困難さ〉

「作る場所もないし、人を受け入れようっていう体制もないし。」〈移住者の受け入れ体制の不足〉

・ カテゴリー 《住民のまちづくりへの関心不足》

住民のまちづくりへの関心が低いという発言.

・ 具体的な発言

「そういうことを考えている人はほとんどいないです。」〈地域の将来を考える人の少なさ〉

「でも、1年間全く話が進まなかったんです。」〈まちづくりへの取り組みのなさ〉

「もう改革せよなんて気はまずない。」〈高齢者のまちづくりへの関心の低さ〉

「今の現状が守られてさえいればいいという感じが大きい。」〈現状の受容による将来への関心の低さ〉

・ カテゴリー 《地域資源を活用したまちづくり》

地域資源を活用したまちづくりの方法についての発言.

・ 具体的な発言

「川をうまく活用できないかなと思うんだわ」〈地域の自然資源を活用したまちづくり〉

「あそこをいろんな人に利用してもらって、いろんな人に来てもらって使ってもらうことによって、地元の人に見てもらって活性化につながるかなと期待したい」〈地域の文化〉



資源を活用したまちづくり)

・ カテゴリー 《過疎化対策の方法》

過疎化対策の具体的な方法についての発言.

・ 具体的な発言

「知った上で来てもらわないと、前の人みたいにかえってしまう。」〈移住者への地域の情報提供の必要〉

「これから空き家が増えてくるなら、それを活用したい。」〈空き家を活用した過疎化対策〉

「家も全然だめになっちゃう、だから、外部から新しい人を（入れよう）って。」〈空き家を活用した過疎化対策〉

・ カテゴリー 《新しいことへ反対する人の存在》

まちづくり活動などの取り組みに反対する人が存在するという発言.

・ 具体的な発言

「何だあいつは、と言われると思うんですよ。特に歳の多い方から。」〈年配の人の反対〉

「よそ者はいらんみたいな感は強いですね。」〈地域外の人への反感〉

「一人が反対するとだめ」〈反対者の存在による取り組みへの抵抗感〉

・ カテゴリー 《年代による考え方の違い》

年代により考え方が違うという発言.

・ 具体的な発言

「行事ごとに出たくないとか、役をやりたくないとか、そういう人もいるもんで。昔だと考えられないような。」〈行事やお役への参加の拒否〉

「定年後の人はいつでもいいと思うんですけど。」〈仕事の有無による時間の違い〉

「昔はうちで百姓やってる人が多かったじゃん、今は、みんなそれぞれ外に勤めにいってるじゃん。」〈昔と今の働き方の変化〉

### 分類した発言内容の分析

まず、各カテゴリーについて言及している人の割合から、全体の傾向を把握する。以下の表 3.17 が各カテゴリーの言及割合になる。分類したカテゴリーについて、割合に応じて色分けを行った。《人口減少・高齢化による地域機能の衰退》と、《地域の将来を考えることの意義》は 8 割以上の人が発言していることが分かる。また、《まちづくり活動への疑問》、《地域への諦め》、《過疎化対策の障害の存在》、《住民のまちづくりへの関心不足》、《過疎化対策の必要性》についても 6 割以上の人が発言している。

表 3.17 各カテゴリーの言及割合

カテゴリー	言及割合
まちづくり活動への疑問	0.6
地域への諦め	0.7
過疎化対策の障害	0.6
新しいことへ反発する人の存在	0.4
住民のまちづくりへの関心不足	0.6
地域の将来を考えることの意義	0.8
過疎化対策の方法	0.5
人口減少・高齢化による地域機能の衰退	0.9
高齢化に対する危機感	0.3
過疎化対策の必要性	0.7
地域資源を活用したまちづくり	0.2
年代による考え方の違い	0.4

次に、カテゴリー間の共起確率から、カテゴリー同士の関係性を把握する。共起確率の計算方法は以下になる。A、Bの2つのカテゴリーの共起確率を分析する場合、それぞれのカテゴリーについて言及している人数をN(A)、N(B)とする。その際、どちらにも言及している人数をN(A∩B)としたとき、共起確率は以下の式で計算される。

$$\frac{N(A \cap B)}{N(A) + N(B) - N(A \cap B)}$$

共起確率の計算結果が、以下の表 3.18 になる。関連性の強さの目安として、共起確率が0.6以上の値の部分塗り分けしている。表から分かるように、《まちづくり活動への疑問》に言及している人は、《地域への諦め》や《新しいことへ反発する人の存在》といった、有効感が低いことを示す、まちづくりへの参加に否定的なカテゴリーについて言及していることが分かる。一方で、《過疎化対策の必要性》といった、まちづくりに肯定的な内容についても言及していることが分かる。

また、《人口減少・高齢化による地域機能の衰退》に言及している人は、《地域の将来を考えることの意義》や《過疎化対策の必要性》といった、関心が高いことを示す、まちづくりに肯定的なカテゴリーについても言及していることが分かる。

表 3.18 カテゴリー間の共起確率

	まちづくり活動への疑問	地域への諦め	過疎化対策の障害の存在	新しいことへ反発する人の存在	住民のまちづくりへの関心不足	地域の将来を考へることの意義	過疎化対策の方法	人口減少・高齢化による地域機能の衰退	高齢化に対する危機感	過疎化対策の必要性	地域資源を活用したまちづくり	年代による考え方の違い
まちづくり活動への疑問	1											
地域への諦め	0.86	1										
過疎化対策の障害の存在	0.50	0.63	1									
新しいことへ反発する人の存在	0.67	0.57	0.67	1								
住民のまちづくりへの関心不足	0.50	0.63	0.71	0.43	1							
地域の将来を考へることの意義	0.40	0.50	0.56	0.33	0.75	1						
過疎化対策の方法	0.22	0.33	0.57	0.29	0.57	0.63	1					
人口減少・高齢化による地域機能の衰退	0.50	0.60	0.50	0.30	0.50	0.70	0.40	1				
高齢化に対する危機感	0.29	0.25	0.29	0.40	0.29	0.38	0.33	0.20	1			
過疎化対策の必要性	0.63	0.56	0.63	0.57	0.44	0.50	0.33	0.60	0.43	1		
地域資源を活用したまちづくり	0.14	0.13	0.14	0.20	0.14	0.25	0.40	0.22	0.25	0.13	1	
年代による考え方の違い	0.11	0.22	0.11	0.00	0.25	0.50	0.29	0.44	0.17	0.10	0.20	1

### 3.6.3. 考察

多くの人が《人口減少・高齢化による地域機能の衰退》や《地域の将来を考えることの意義》に言及しており、図 2.7 の行動モデルにおける、地域のまちづくりに対する知識や関心を持っていることが考えられる。一方で、《まちづくり活動への疑問》に言及している人が存在する。カテゴリ間の共起確率の分析から、《まちづくり活動への疑問》に言及している人は、《地域への諦め》や《新しいことへ反発する人の存在》についても言及しており、地域の衰退している現状への有効感の低さや、他の住民からの協力を得ることの難しさが、まちづくり活動への疑問に繋がっていることが考えられる。

また、《過疎化対策の方法》や《地域資源を生かした活性化》にも言及している人が存在する。ここで、《過疎化対策の方法》に言及している人は、同時に《まちづくり活動への疑問》にも言及しており、有効感の低さから、取り組みは行われていないが、何らかのまちづくりを行いたいという動機が形成されている人がいることが考えられる。

### 3.6.4. 聞き取り調査のまとめ

聞き取り調査で新たに得られた H 自治区の問題を以下にまとめる。

表 3.19 聞き取り調査で得られた H 自治区の問題

分野	H 自治区の現状と問題
定住・生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移住者が住む土地が不足している</li> <li>・移住者を受け入れる地域の体制が不足している</li> </ul>
地域力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・祭りなどの地域行事が衰退している</li> <li>・人口減少に伴うお役や係の負担が増加している</li> </ul>

表 3.20 聞き取り調査で得られた住民参加に関する問題

地域問題への参加要素	住民参加の問題
実行可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般の住民は地域を変えることに関心が低い</li> <li>・取り組みに反対する人の存在により実践しづらい</li> </ul>

### 3.7 第3章のまとめ

本章のアンケート調査と地域懇談会への参加及び、聞き取り調査で得られた、H 自治区の維持に向けた問題と、住民の取り組みへの参加に関する問題をまとめる。

次章では、本章で得られた対象地域の問題と地域属性から、住民主体のまちづくりの実践方策を提案し、H 自治区の一つの集落で実践する。

表 3.21 H 自治区の現状と問題のまとめ

分野	H 自治区の現状と問題
定住・生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後 10 年間で更なる人口減少が予想される</li> <li>・今後 10 年間で空き家の増加が懸念されるが、所有者は空き家の提供に消極的である</li> <li>・小学校の入学人数の減少に伴う複式化する</li> <li>・子供の人数が少ないため、子育てへの不安により地域外へ流出する</li> <li>・地域出身者の自己実現のため地域外へ流出している</li> <li>・地域外住民が入れる空き家がない状況である</li> <li>・移住者が住む土地が不足している</li> <li>・移住者を受け入れる地域の体制が不足している</li> </ul>
地域力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌舞伎などの地域文化の継承の困難である</li> <li>・バレー大会の消滅など人口減少に伴う地域機能が衰退している</li> <li>・祭りなどの地域行事が衰退している</li> <li>・人口減少に伴うお役や係の負担が増加している</li> </ul>
健康・福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後 10 年間で更なる高齢化が予想される</li> <li>・敬老会の中止など高齢者の集まる機会の不足している</li> <li>・独居高齢者の増加と公共交通の利便性の低さに伴い地域での生活が難しい</li> </ul>
農地・森林	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在も耕作放棄地が約 4 割存在しており、今後 10 年間で更に倍の農地が耕作放棄地となることが予想される</li> <li>・管理がされていない山林が約 4 割存在しており、今後 10 年間で更に倍の山林が管理できなくなることが予想される</li> </ul>

表 3.22 H 自治区の課題と各集落の特徴のまとめ

集落	特徴	固有の課題	共通した課題
A 町	・持ち家だけでなく、借り家の世帯が存在する ・農地や山林を所有していない世帯が多く存在する	「伝統文化や祭りなど地域文化の継承」	「過疎対策・定住促進への取り組み」 「地域活動の活性化や声かけなど地域のつながりを高める取り組み」
B 町	・全ての世帯が持ち家		「防犯・防災活動など安全
C 町	である	「防犯・防災活動など安全安心への取り組み」	安心への取り組み」
D 町	・8割以上と多くの世帯が農地や山林を所有している		「一人暮らし高齢者の支援など福祉問題への取り組み」
E 町			
F 町		「青少年の育成・子育て支援」, 「花いっぱい運動や景観保全の取り組み」	「農地や山林の荒廃, 獣害対策への取り組み」
G 町			

表 3.23 地域問題への取り組みにおける住民参加の問題のまとめ

地域問題への参加要素	住民参加の問題
知識	・課題に関する自治区の現状に対する知識が不足している
有効感	・高齢者の増加による取り組みへの有効感が低い ・地域の将来に対して諦めている ・地域住民単独での取り組みへの有効感が低い
実行可能性	・一般の住民は地域を変えることに関心が低い ・取り組みに反対する人の存在により実践しづらい

## 第4章 中山間地域の維持に向けた住民主体 のまちづくりの実践

## 4.1 はじめに

本章では、前章で明らかにした対象地域の維持に向けた問題と住民の取り組みへの参加に関する問題の結果から、対象地域の維持に向けた住民主体のまちづくりの実践方策を提案する。そして、提案した方策を H 自治区の一つの集落で実践する。実践結果から、提案した方策の有効性を検証する。

## 4.2 住民のまちづくりへの参加を促す方策の提案

これまでの調査によって、住民のまちづくりへの参加において、知識、有効感、実行可能性に問題があることが分かった。本節では、それぞれの問題に対する解決策を提案する。

### ①課題に関する自治区の現状に対する知識の不足

地域住民は、地域が過疎化や高齢化が進んでいることは把握しているが、その程度やそれに伴う問題までは、十分に理解していない状況である。そこで、H 自治区全体に対して行ったアンケート結果の報告により、H 自治区と各集落の現在の問題と将来予想される地域の問題への理解を深めることが考えられる。特に、一般的な中山間地域の問題ではなく、自分たち自身の地域の現在と将来の姿を数字で捉えることができるため、より理解が深まると考えられる。

### ②地域住民による取り組みへの有効感の不足

地域住民による取り組みへの有効感の不足には、過疎化、高齢化が進む地域に悲観的になり、自分たちが取り組みをしたところで効果がないのではないかという疑問と、高齢化した地域で自分たちだけで十分な取り組みを行うことができないのではないかという不安がある。前者については、自分たちの取り組みが現状に対して極めて高い効果を発揮することを期待することにより生じていると考えられる。そこで、H 自治区や各集落で実践できることは、何かを明らかにすることが有効であると考え。そこで、地域住民同士が、それぞれの視点で、地域においてできることを話し合う意見交換を提案する。また、後者についても、地域や集落の状況を考慮せず、大規模な取り組みを想定していることから生じている不安であると考えられる。そこで、H 自治区や各集落で実践できることを考えることに加え、それを小規模でも実践することで有効感が高まると考える。

### ③取り組みへの反対者や関心のない住民が存在することによる実践の難しさ

これまでの調査では、取り組みへの有効感の低さから、取り組みの実践に否定的な人はいたが、実際に取り組みが行われていないため、地域が取り組みを行おうとした際に反対する人や無関心な人の意見は得られていない。そこで、①、②の解決策の実践において、参加しなかった住民に対して聞き取り調査を行い、そうした取り組みへの関心の低い住民の考えを明らかにする。



表 4.1 住民のまちづくりへの参加を促す方策のまとめ

住民参加の問題	解決策の方針
課題に関する自治区の現状に対する知識の不足	・H自治区のアンケートで得られた、H自治区と各集落の現状と将来の問題点の報告により、地域の問題に対する理解を深める。
地域住民による取り組みへの有効感の不足	・H自治区や各集落で実践できることを考える意見交換により、自分たちにできることを明らかにする。 ・H自治区や各集落で実践できる取り組みを試行することで、取り組みに対する有効感を高める。
取り組みへの反対者や関心のない住民が存在することによる実践の難しさ	・上記の解決策の実践において、参加しない住民に対して聞き取り調査を行い、取り組みへの関心が低い住民の考えを明らかにする。

### 4.3 愛知県豊田市足助地区 H 自治区 C 町

本章で対象とする、愛知県豊田市足助地区 H 自治区の集落一つである C 町の説明を行う。

図 3.4 にあるように、H 自治区の中でも足助市街地から離れた位置にある。図 4.1 は、C 町の内、住居がある地域を示した地図になる。山あいにあるため平地が少なく、多くの住居が川沿いに密集していることが分かる。最も離れた住居間で 1.5km 程度あり、2, 3 の住居が隣り合わせに密集して立地しており、各固まりの間には数百 m の距離がある。また、C 町の中心部には、集会所があり、毎月 1 度定例会が行われている。

C 町の人口は 37 人、世帯数は 13 戸であり、H 自治区の集落の中でも最も少ない。また、高齢化率は 59% であり、H 自治区の集落の中で最も高齢化が進行している集落である。こうした過疎、高齢化の傾向に従い、図 4.2 の C 町に存在する農村舞台の、集落単体での維持が困難になるなど、集落機能の衰退が見られる。

C 町の選定の理由としては、集落人口が少なく、前章で提案した方策について、全世帯を対象とした実践ができること、H 自治区の中でも過疎化、高齢化が最も進行しており、足助市街地から離れた不利な地域に位置するため、地域維持に向けた取り組みの必要性が高いこと、また、地域維持に向けたプラスの要素として、農村舞台という地域資源があることがあげられる。

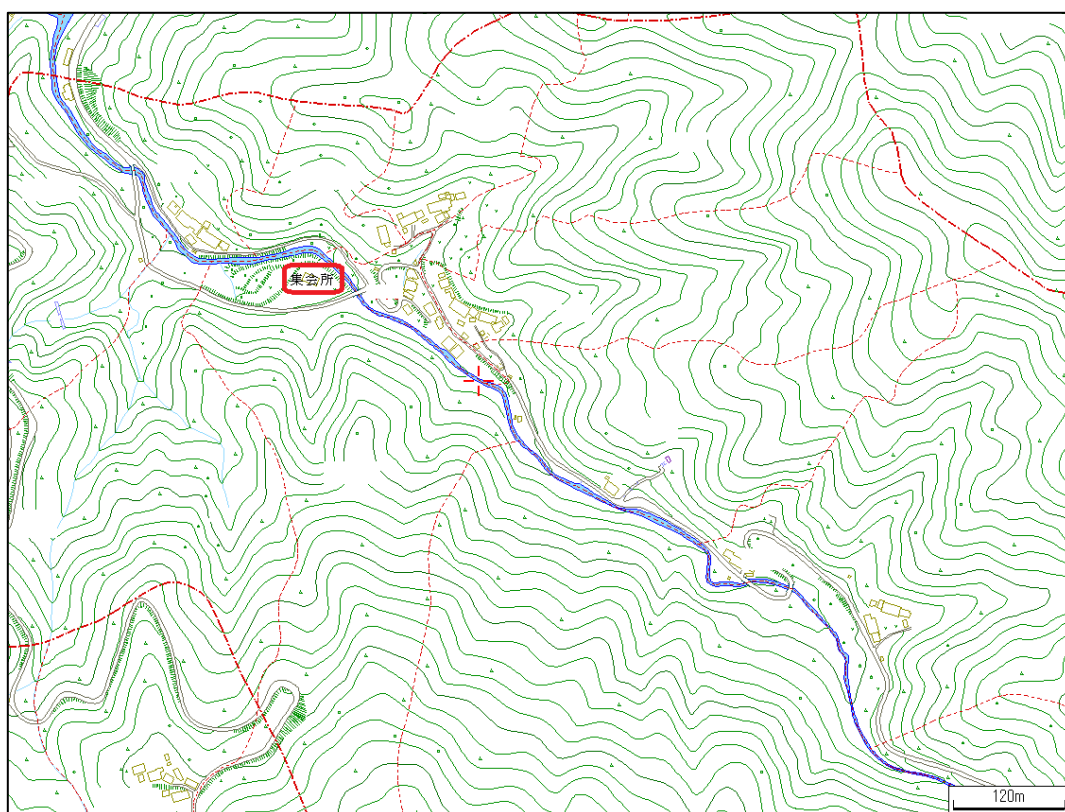


図 4.1 C 町の住居がある地域の全体図



図 4.2 C 町に位置する農村舞台

## 4.4 住民のまちづくりへの参加を促す方策の実践

### 4.4.1. 懇談会の実施

前章で提案した自治区の現状に対する知識の向上と、地域による取り組みへの有効感の向上策を、集落ビジョン作成のための懇談会の過程で実施した。H 自治区の一つの集落で実施した懇談会の概要、結果について述べる。

#### 懇談会実施までの手続き

懇談会を行うに当たり、C 町の自治会長へ説明を行い、実施の許可を得た。はじめに得られた許可は、C 町において懇談会を行うことと、各戸へ個別に懇談会への参加を呼びかけることであった。各戸へは、自治会長より事前に著者が参加の呼びかけを行う旨を伝えた。その後、個別に電話で連絡を取り、許可が得られた住民に対しては、参加の説明を直接行った。また、直接の説明ができなかった住民に対しては、電話で実施概要を伝えた。

住民に対する懇談会の呼びかけは、第 1 回懇談会は、第 1 回懇談会の前に電話で連絡が取れた世帯 7 戸に対して行った。第 2 回懇談会は、第 1 回懇談会の最後に第 1 回懇談会の参加者に対して行った。第 3, 4 回懇談会の呼びかけは、第 2 回懇談会と第 3 回懇談会に行われた定例会の場で、これまでの懇談会の内容報告にあわせて行った。第 4 回懇談会の呼びかけは、直前に各世帯へ電話で行った。参加への呼びかけの際に用いた資料については、付録に掲載する。

#### 懇談会の概要

懇談会は、全部で 4 回実施した。それぞれの日時、目的、参加者数を表 4.2 に示す。また、各回の内容を表 4.3 に示す。懇談会は、全て図 4.1 にある C 町の集会所で行われた。参加者は、第 1 回懇談会に参加した住民がそれ以降の懇談会にも参加され、第 2 回以降の懇談会で新たな参加者はいなかった。

懇談会は、住民自身のまちづくりへの参加を促すことを目的に行ったが、その後の C 町におけるまちづくり活動へ円滑に移行することを想定して、C 町の集落ビジョンを全 4 回の懇談会で作成するように進めた。

表 4.2 懇談会の概要

回数	開催日時	参加世帯数	懇談会の目的
第1回	2016年11月2日(水) 19時から20時15分	6世帯	自治区の問題に対する知識を高めること
第2回	2016年11月9日(水) 19時から20時15分	3世帯	地域課題への取り組みに対する有効感を高めること
第3回	2016年11月24日(木) 19時から20時	4世帯	
第4回	2016年12月8日(木) 19時から20時	6世帯	

表 4.3 懇談会の内容

回数	内容
第1回	・H自治区アンケートの報告 ・C町の現状と将来の問題に関する意見交換
第2回	・H自治区のアンケートで課題とされた、定住・生活、健康・福祉、農地・森林の3つのテーマで地域の将来の希望を意見交換
第3回	・第2回で得られた地域の目標を住民自身で達成する方法を意見交換
第4回	・C町の集落ビジョンの作成、集落ビジョンの実行体制を決める意見交換

## 懇談会の結果

懇談会の際に用いた資料と各会の議事録は付録に掲載する。ここでは、C町の問題、取り組むべき課題、取り組みへの住民参加に関わる発言に着目し、各会の結果を整理する。

### 第1回懇談会の結果

第1回懇談会では、地域の問題に対する知識を高めることを目的に、H自治区全体のアンケートをもとに、C町の現在と将来の人や世帯、土地の変化について報告を行い、参加者の地域に対する知識を高めた後、C町における問題点について意見交換を行った。

表4.4に第1回懇談会で得られたC町の問題に関する発言をまとめる。第1回懇談系では、主に過疎化に関する問題が話し合われた。現状、地域で生活している人の子供世代が帰ってこないため、13戸の中、3戸でしか次世代がない状況である。その状況の要因として、地域の魅力不足が発言された。特に、地域でできる仕事がないこと、地域に住む所がないこと、高齢者でも生活に自動車が必要となっていることがあげられた。

表 4.4 第1回懇談会で得られたC町の問題点に関する発言

分野	発言の分類	C町における問題に関する発言
定住・生活	人口減少の現状	「C町は50歳で打ち切りなもんで。大体そういう子供を作る若い人がいないんだもん」 「今この部落で13戸。決まっている所が3軒あるけど、それ以外は全部子供が出て行っている。ほとんどの所は帰ってくるか分からない。」
	過疎化の要因	「でも皆帰ってこん。魅力が無いから」 「足助地内にいい仕事があれば、いつでも帰って良いって言うてる。でも仕事が無いのに困っちゃう。きたら消防の用や、土日はお役だなんだで入って、何にも魅力が無い田舎なんか。」 「山だけで生活できるわけない。」 「昔は現金収入を得るには、山を売る、炭を焼く、蚕を飼う。でも今出来なくなっちゃった。」 「ここらは、水田がない。あっても少ないもんで。まず、山収入が70%くらいだ。」 「現実として子供が帰ってきて、新しく家を建てられない。豊田市の決めた急傾斜地に含まれているから、新しく建てられない。」
健康・福祉	高齢者の移動	「困ることは自動車に乗らなきゃいけない。高齢者になったら事故を起こしちゃう。」

## 第2回懇談会の結果

第2回懇談会では、将来C町に住んでいて欲しい人、高齢化が進んだときのC町での生活、将来のC町の農地や山林、土地のあり方という、3つのテーマについて、将来の目指したいC町の姿を話し合った。表4.5に第2回懇談会で得られたC町の問題を示す。また、表4.6に第2回懇談会で得られた将来の希望を示す。

C町の問題として、第1回懇談会でも発言があった、過疎化の要因の一つとして、子育ての不便さにより、C町から転出した住民がいることが分かった。また、Iターン者の移住について、地域以外の出身者を受け入れるためには、地域を理解して、住民が受け入れやすい人である必要があることが分かった。また、高齢者の移動に関して、地域内の移動手段である地域バスは、C町においては活用されていないことが分かった。また、地域では山林の価値の低下により、住民らによる手入れが行われておらず、災害の危険性が高まっていることが分かった。

次に、C町の将来の希望として、定住・生活、健康・福祉、農地・山林の分野で発言があった。まず、将来C町に住んでいて欲しい人に関するテーマでは、現在の人口、世帯を保ち地域を維持していきたいという発言があり、それに対して、Uターン者への希望、Iターン者への希望があることが分かった。

高齢化が進んだときのC町での生活に関するテーマでは、年寄りの良い遊び場を作りたいという希望があることが分かった。現在は、行事などでの集まりはあるが、ただ楽しむための集まりなどはないため、そうした場が必要であるという発言があった。また、そのような取り組みを行う際、運転ができない高齢者の移動手段として、C町の中ならシニアカーで十分であるという発言や、C町の外へ出かける時は、集団でお迎えやワゴン車が送迎、また、マイカーで地域住民による送迎を行う仕組みがあると良いという発言が得られた。

将来のC町の農地や山林、土地のあり方に関するテーマでは、「山や田んぼや畑なんか、高い金で買ってくれればいつでも売ってやる。」という発言にあるように、所有していてももてあましていない現状があることが分かった。それに対して、価値が低く売ることもできないため、何らかの有効活用ができるといいという発言が得られた。

表 4.5 第2回懇談会で得られたC町の問題点

分野	発言の分類	C町における問題
定住・生活	過疎化の要因	「でも、学校とか、子育てするにはここじゃ不便だからって、今、岡崎の方に行っちゃった。」
	地域の受け入れの難しさ	「田舎に愛着と言うか、田舎が好きな人とか、田舎との付き合いがしたいという気持ちのある人じゃないと。町に住んでいてああいうごちゃごちゃしたのが嫌だから田舎に来たいというだけの人、田舎との付き合いが非常につらいと思うし、おれたちが受け入れようと思っても、受け入れにくいんだわ、そういう人は。」
健康・福祉	公共交通の不便さ	「この地域でも、一週間に一回、あいまーる（地域バス）が地域を回ってる。あいまーるを辞めてでもいいから。実際に内の部落では使ってる人だれもないから。」
農地・山林	山林の価値の低下	「今山は安いからだれも手入れしないじゃん。だから今、災害のもとになってる。」 「0が一つ違うらしいね。昔1,000万だったところは、今100万。それくらい山の、木の価値が下がったということ。」



表 4.6 第2回懇談会で得られた地域の将来の希望に関する発言

分野	発言の分類	C町における将来の希望
定住・生活	地域維持の希望	「これ以上減らしたくないと言うのが本音だよな。成り行かなくなっちゃうもんだね。」
	Uターンへの希望	「やっぱり息子たちに戻ってきてもらえるもんなら、戻ってきて欲しいし。」
	Iターンへの希望	「自分としては、他所の人っていうか、C町に興味を持ってくれる人がいて、ここに住んでも良いて人がいるなら、もちろんこちらでも、そういう人と意見交換しなきゃいけないと思うけど、そういう人にも入って欲しいとは思う。」
健康・福祉	高齢者の集まれる場の提案	「もう年寄りしかおらんもんで、年寄りの良い遊び場を作ったらどうだ。」 「それぞれが、「こういうことやるなら、俺歩いて行っていいわ」、何か楽しみがあってここへこられる、そういうものを作りたいわけよ。」 「弁当食う会みたいなの。それでもいいだ。～(中略)～そのついでに、一杯やったり、何か面白いことやったり、将棋さしたり、麻雀やったり、カラオケやったり。」
	高齢者の移動手段の提案	「部落の中だと、今、シニアカー使って移動すれば良い。」 「外出かけるときは、今、色々考えているじゃん、集団でお迎えがあるとか、他の地域だとワゴン車で送迎をやってくれたり」 「マイカーでついでに送ったりとか、そういうこと考えてるじゃん」
農地・山林	土地の売却の希望	「山や田んぼや畑なんか、高い金で買ってくればいつでも売ってやる。」
	土地の有効活用の希望	「農地や山林の別の使い方を考えたいな。せつかくあるんだからな。何も手入れするわけじゃないだろ。あれがあるおかげで災害が無いと思えば。」



### 第3回懇談会の結果

第3回懇談会では、第2回懇談会で話し合われた地域の将来の希望を、C町において、住民自身により実現する方策について意見交換を行った。前回得られた地域の希望から、実現しやすそうなものを選択してもらい、それらの実現方策について意見交換を行った。

はじめに選択された実現しやすそうなテーマとして、地域外にいる人のIターンの促進の取り組み、地域で楽しんで集まれる場づくりの方法、地域出身者のUターンの取り組みについて意見交換が行われた。懇談会で得られた将来の希望の実現方策に関する主な発言を以下の表4.7にまとめる。

地域外にいる人のIターンの促進の取り組みでは、地域外住民に向けた活動が必要であるという発言が得られた。特に、C町にある地域資源でもある、農村舞台の活用が考えられた。情報の発信方法として、インターネットの活用が考えられる発言があった。

次に、地域出身者のUターンの取り組みでは、地域でのイベントに巻き込んでいくことが考えられた。また、Uターン者の住まいとして、新しく家を建てられる土地が少ないため、空き家を活用することと、住居の建設が可能な畑を更地にして住居を建設することが考えられた。

最後に、高齢者が楽しんで集まれる場づくりの方法では、仕事や地域の係の忙しさから、頻繁に実施することに対しては否定的な意見も見られたが、まずは、簡単なものを週1回でも実施することが重要だと言う意見が得られた。また、実施する時間や、場所についても、昼頃にC町集会所という具体的な意見が得られた。

表 4.7 第3回懇談会で得られた将来の希望の実現方策に関する発言

分野	将来の希望のテーマ	C町における将来の希望の実現方策に関する発言
定住・生活	地域外にいる人のIターンの促進の取り組み	<p>「良い活動してるぞってなれば、自然と入ってくる。」</p> <p>「農村舞台をやってるじゃんね。あれをネットで。今ネットの力はすごいじゃんね。ここ以外の人の話を聞くと、こういうところに興味のある若い人は多いよって聞くじゃんね。そういう人に伝えるにはネットが一番の情報を伝える手段かなって。」</p>
	地域出身者のUターンの取り組み	<p>「出身者はね、今言ったようにイベントに巻き込んでいかないといけない。カラオケに参加せよとか、美味しいものあるんで食べにきなとか。」</p> <p>「この下が空き家になってるんだ、子育てに不便と言うことで岡崎に出て行ったんで。そこで話をしたら、じゃあ売ってもいいよと言う話はしたんだけど、支所にもっていったら、急傾斜地のため、更地にして家を建てることは困難であろうと。」</p> <p>「今、候補地としてあげているのは、(C町住民)のところ畑、そこは黄色の線(要審査)のところ」</p> <p>「空き家を上手く活用すれば。」</p>
健康・福祉	高齢者が楽しんで集まれる場づくりの方法	<p>「C町の人、歳とっても仕事してる人が多いもんで。」</p> <p>「暇がないんだもん。だから、引退してこういうこと(村の行事や係)やめればでてる。」</p> <p>「週1でもいいんで、はじめはそんなもんでやるしかないんじゃない。」</p> <p>「年寄りが夜出てくるのは、えらいもんだけど。これは、楽しみでくるもんで、昼間出てきて、昼間ここで騒いだりわいわいしてちょっと遊んで、家に帰るって言うのがいいと思うけどね。」</p> <p>「(カラオケの)本番は舞台でもいいけど、練習はここ(C町集会所)だな。」</p> <p>「みんなにここで何したいかということも聞きたいんだわな。」</p> <p>「集まってやることさえ見つけりゃ、みんなでてくるんじゃないか。それをね、一人で楽しむやつは出てくる必要が無いけど、2人3人で、楽しめるやつを作れば出てくる。」</p>

#### 第4回懇談会の結果

第4回懇談会では、これまでの懇談会で話し合われた内容を、C町の集落ビジョンとしてまとめ、内容の確認を行った。また、より具体的な実現方法として、C町の誰が中心になって実践するのかについて意見交換を行った。

表4.8に第4回懇談会で得られたC町の集落ビジョンに関する主な発言をまとめる。集落ビジョンの内容について反対や修正に関する意見はでなかった。実践に向けては、これまでの懇談会で話しあってきた経験もあり、一つでも実際にやってみようという雰囲気が醸成されていた。一方で、日々の生活の忙しさから、中心として進めていく負担を負うことができる人は現れなかった。また、合意形成に関する発言にもあるように、懇談会に出席していない住民の合意を得ることが、実際に取り組みを進めていく上で必要であることが分かった。そこで、全世帯が集まる定例会の議題としてだして、C町全体の承認を得ることが提案された。

図4.3に懇談会で作成されたC町の集落ビジョンを示す。内容は、主に第2、3回の懇談会で意見交換が行われた3つの目標とその達成方法になる。

表 4.8 第4回懇談会で得られたC町の集落ビジョンに関する発言

発言の分類	C町の集落ビジョンに関する発言
実践に向け た発言	<p>「やりたいことは、ほとんどやりたいことばかりで、20年前から私が提唱してきたこともあるし。」</p> <p>「いずれにしても、何か一個ここまで来たんだもんで、何か一個やろうや。」</p> <p>「だから、とにかく何でもいいで、一つでもいいからはじめるということだ。」</p> <p>「おれがリーダーでやってもいいけど、ちょっとまだ早い。まだ忙しいもん。別にリーダーは一人でもなくてもいいもん。例えばここにいる人間が2人でも3人でもまとまって考えようでもいいんだ。一人だと負担が大きいけど、複数いれば忙しいときでも、分担できる。」</p> <p>「まだちょっと忙しい、毎日が。」</p>
合意形成に 関する発言	<p>「まあ、せつかくこういう機会を作ってもらったもんで。村にそういう意見を出して行きはするけれど、最初は有志だけで、いいと思うんだよ。来たい人だけ。」</p> <p>「はじめるにしても、関心がある場合は別として、全員に話をして、じゃないとそれはあかんよ。」</p> <p>「先頭に立ってやろうと思ったって、みんなが言うこと聞かんだもんで。何だあのやろうって。そんなもんで、(これまで)きちゃったんだ。」</p> <p>「いっぺんにはできんから、まず一度定例会にかけてな。」</p>

C町集落ビジョン	
目指す 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域出身者や、町外の人が訪れやすい地域</li> <li>・高齢者が、楽しんで集まれる場がある地域</li> <li>・災害がないよう山林が保全され、自然環境が活用されている地域</li> </ul>
<b>取り組み1</b>	地域人口の維持に向けた取り組み
取り組みの目的	具体的な活動
地域出身者への行事などへの呼びかけや、町外の人へのC町の情報発信により、地域への定住を促進します。	① 地域出身者への行事などの呼びかけ ② 町外の人へのC町の情報発信
取り組みの方法	
① C町でのイベントの際に、地域出身者へ連絡をして、参加を促す。 ② H自治区でのイベントに絡めて、インターネットなどを用いて、町外の人に向けて、C町の情報を発信する。	
<b>取り組み2</b>	高齢者が楽しんで集まれる場づくり
取り組みの目的	具体的な活動
定例会等の日常の交流に加え、負担の少ない、楽しんで集まれる場を作ります。	① C集会所での食事会やカラオケ会などの実施
取り組みの方法	
① C集会所で昼間に、みんなが集まり食事やカラオケができる会を企画・実施する。	
<b>取り組み3</b>	自然環境を活用した取り組み
取り組みの目的	具体的な活動
災害が起きないように、山林を管理する。また、使わない土地や農地、山林の有効活用を行う。	① 災害防止のための森林保全 ② 農地や山林など自然の新しい活用方法の検討
取り組みの方法	
① 地域での山林管理の方法の検討 ② 地域でできる土地の活用方法の検討	

図 4.3 懇談会で作成されたC町の集落ビジョン

#### 4.4.2. 懇談会不参加者への対応

取り組みへの関心が低い住民の考えを明らかにするために行った，懇談会不参加者への個別の聞き取りについて述べる。

##### 懇談会不参加者への聞き取りの概要

懇談会不参加者への聞き取りは，電話で連絡を行い，許可が取れた世帯に対して行った。聞き取りは懇談会不参加世帯であった7世帯の内，2世帯に対して行った。その他，電話での連絡が断られた世帯が1世帯，電話での連絡が取れなかった世帯が2世帯存在する。1回の聞き取りは説明を含めて30分程度であり，聞き取りの際は，ボイスレコーダーを用いて内容の録音を行った。

聞き取りでは，懇談会で行われた話し合いの内容の説明を行った。そして，懇談会で話し合われた個別の取り組みに対する意見，まちづくり活動への参加の可能性について伺った。

##### 懇談会不参加者への聞き取りの結果

聞き取りの結果を，カテゴリー分類したものを，表4.9に示す。《取り組みの意義の理解》や《取り組みの効果への期待》にあるように，C町の目標への取り組みを理解して，その効果を期待していることが分かる。更に，《取り組みの参加への意欲》にあるように，取り組みへの参加に対して肯定的な発言も得られた。

一方で，取り組みに対しては，《集落単独で取り組みを進めることの困難さ》や《取り組みの有効感の不足》など有効感の不足が見られた。また，《仕事による時間的制約》や《取り組みの具体的な実践に向けた不安》など実行可能性の不足が見られた。

表 4.9 懇談会不参加者への聞き取りのカテゴリー分類

地域問題への参加要素	肯定的なカテゴリー	否定的なカテゴリー
知識・関心	《取り組みの意義の理解》 《取り組みの効果への期待》 《取り組みの参加への意欲》	
有効感		《集落単独で取り組みを進めることの困難さ》 《取り組みの有効感の不足》
実行可能性		《仕事による時間的制約》 《取り組みの具体的な実践に向けた不安》

以下では、それぞれのカテゴリーについて説明し、具体的な発言の例を示す。

・カテゴリー《取り組みの意義の理解》

C町で取り組みを行うことに意義があることを理解しているという発言。

・具体的な発言

「取り組みの内容自体はどれも必要なことであると思う。」〈取り組み内容の必要性の理解〉

・カテゴリー《取り組みの参加への意欲》

取り組みへ参加することに対して前向きな発言。

・具体的な発言

「自分は仕事が休みの日はでていってもいいかなーと思うけど。」〈取り組みへの参加への意欲〉

・カテゴリー《取り組みの効果への期待》

取り組みを行うことで地域が良くなることへ期待する発言。

・具体的な発言

「結構ジビエ料理のようなものは人気がある。そういうのをアピール材料にして、興味のある人に来てもらいたい。」〈Iターン者への期待〉

・カテゴリー《集落単独で取り組みを進めることの困難さ》

C町単独で取り組みを行うことに対して否定的な発言。

・具体的な発言

「過疎化対策にしても、C町だけでやっていくのは難しいから、市と協力してやっていくのがいいと思う。」〈市との協力した取り組みの必要性〉

「舞台はH自治区や豊田市全体で管理してもらって、とにかく管理は大変で、直すようなお金が無い。」〈地域単独での取り組みを行うお金の不足〉

・カテゴリー《取り組みの有効感の不足》

取り組みを地域で行うことが地域のためになるのかという疑問に関する発言。

・具体的な発言

「(高齢者が楽しんで集まれる場づくり) そういう話をすれば集まる機会も増えるかもしれないけど、それがみんな出てくれるかも分からないし。」〈住民の関心への疑問〉

「地域で実際にやってどれだけ効果があるの分からない」〈取り組みの効果への疑問〉

・カテゴリー《取り組みの具体的な実践に向けた不安》

取り組みを実際に進めるに当たり進め方などに不安があるという発言。

・具体的な発言

「(高齢者の場づくりを) 今までやったことないから, 何をやればいいのか分からない。」〈取り組みの方法への不安〉

・ カテゴリー 《仕事による時間的制約》

仕事により, 取り組みに参加する時間の確保が難しいという発言.

・ 具体的な発言

「仕事があるから, そういうのに進んで出て行くのは出来ない。」〈仕事による時間的制約〉

## 4.5 住民主体のまちづくりの実践方策の結果

### 住民主体のまちづくりの実践方策の結果

C町の自治会長より、定例会場での、今回行った懇談会の内容の報告が行われた。定例会は、C町の全世帯が参加するため、報告はC町の全世帯に対して行った。4回全ての懇談会が終わった状態で、懇談会の内容をもとに作成された集落ビジョンの報告を行い、C町として集落ビジョンをもとに進めていくことの承認を得た。報告では、集落ビジョンをC町の目標として掲げることの是非を確認した。反対意見は生じず、集落ビジョンが地域のものとして共有された。個別の取り組みの進め方は、C町の予算が絡む話であるため、個々の取り組みの実行の際に判断が必要であるという結論に至った。

また、その後の定例会で具体的な取り組みの方針が話され、ビジョンの一部が実践されることが決定された。特に懇談会の中でも、取り組みに向けて意欲が示されていた、地域の人が集まれる場づくりに関して、具体的な実施内容や実施日が決まり、住民主体のまちづくりが行われた。

### 考察

懇談会及び、懇談会不参加者への聞き取りの結果、集落ビジョンが作成され、C町において承認された。その後、住民自身により実践に向けて動きが見られ、取り組みが行われることが決定した。これは、懇談会により、住民の地域の現状に対する知識や取り組みへの有効感が高まり、まちづくりへの行動意図が形成されたと考えられる。

また、定例会においてC町の集落ビジョンの承認を得る際に、反対意見が生じず承認が得られたことから、懇談会不参加者への個別の聞き取りが合意形成に有効であったと考えられる。

## 4.6 第4章のまとめ

本章では、住民主体のまちづくりの実践方策のC町における実践結果を述べた。懇談会及び懇談会不参加者への聞き取りの結果、集落ビジョンが作成され、C町において承認された。その後、集落ビジョンをもとに、住民自身で実践に向けて具体的な動きが見られ、取り組みの内容や日時までが住民主体で決定された。

次章では、集落ビジョンの実践に向けて、今回の懇談会で得られた問題の解決方策について検討する。



**第5章 住民主体のまちづくりの実践方策に  
関する考察**

## 5.1 はじめに

本章では、第4章のC町での取り組みにおいて作成された、集落ビジョンの実践方策について考察する。集落ビジョンを実践する際に生じると考えられる問題について、第3章の旭地区の調査や第4章の懇談会での発言から考察する。そして、得られた問題に対して、第3章で調査を行った旭地区の事例などをもとに、集落ビジョンの実践方策を提案する。

## 5.2 住民主体のまちづくりの実践における問題

集落ビジョンを実践する際に生じるであろう問題について、第3章の旭地区における集落ビジョンの取り組みと、第4章の懇談会における住民の発言から検討する。

取り組み1の、地域人口の維持に向けた取り組みでは、町外の人へのC町の情報発信において、取り組みの方法にも記載しているように、H自治区でのイベントに絡めて情報発信を行うことを想定しているため、C町以外の集落との連携が問題になると思われる。第3章におけるA集落においても、自治区全体での大祭の継続の持続に向けた検討が、外部との連携の困難さから取り組まれていない状況からも問題になることが想定される。

取り組み2の、高齢者が楽しんで集まれる場づくりでは、懇談会における「(担い手を) やってもいいけど、もう3年や5年、待ってくれりゃあ。おれがリーダーでやってもいいけど、ちょっとまだ早い。まだ忙しいもん。」という発言や、懇談会不参加者への聞き取りにおける、「これまでやられてきたことのないことであるので、企画などを行うのは難しいのではないか。」という発言から、企画や運営を行っていく、取り組みの中心となる担い手の確保が課題になることが想定される。

また、懇談会において、運転ができない高齢者の移動手段の確保が議論された。取り組みが具体化されていなかったため、提案で終わったが、取り組みを実践するには、運転ができない高齢者の移動手段の確保が課題になると想定される。

取り組み3の、自然環境を活用した取り組みでは、懇談会においても、地域で実践する具体策について十分な意見がでなかったため、地域外部の支援が必要になると考えられる。

## 5.3 住民主体のまちづくりの実践方策に関する考察

取り組み1の、地域人口の維持に向けた取り組みにおいて、H自治区のC町以外の集落との連携を図るためには、自治区単位でのまちづくりの取り組みを考える必要がある。第3章で調査を行った、B集落では、B集落単体での取り組みも行われているが、自治区単位でのまちづくり活動が行われており、例えば、別の集落へ来た観光客に対して、B集落も含まれる観光の周遊ルートの提供を行っている [22]。

取り組み2の、高齢者が楽しんで集まれる場づくりにおいて、中心となる担い手を確保するためには、高齢者自身が主体者となって、取り組みを担っていく必要がある。第3章で

調査を行った，B 集落では，高齢者の中でも，元気で動ける人が中心となって企画を行い，非高齢者の人は簡単な手伝いを交代で行う仕組みを作っている．表 5.1 は，C 町の年齢構成であるが，若手の高齢者も多く，こうした仕事を退職して，自由に使える時間を持っており，中心的な担い手になる人材がいることが考えられる [16]．

表 5.1 C 町の年齢別の人口

年齢	人数
20 歳未満	5 人
20 歳から 65 歳まで	11 人
65 歳から 75 歳まで	12 人
75 歳以上	9 人

また，高齢者が楽しんで集まれる場づくりを行う上で，運転ができない高齢者の移動手段が必要になると考えられる．C 町の集会所で取り組みを行う場合，住居から急な坂を移動する必要があり，近い人でも 200m，遠い人では 1km 程度移動する必要がある．電動車いすなど個人が所有する移動体を用いることも考えられるが，ここでは，自力での移動が困難な高齢者の送迎を行う場合の移動手段を提案する．こうした移動に適した手段として，図 5.1 にあるような超小型電気自動車を提案する．超小型電気自動車は，1 人から 2 人乗りの移動手段である．集落内での高齢者の送迎における，通常のカソリン車と比べた利点としては，小型で小回りが利くため家の目の前まで送迎ができること，家庭用コンセントで充電ができるためガソリンスタンドまでの燃料補給のための移動が発生しないこと，走行距離あたりの燃料費が安いことがあげられる．足助地区のように，ガソリンスタンドが市街地にしか存在しない中山間地域においては，ガソリン車の場合，燃料補給のためだけの移動が発生する．



図 5.1 超小型電気自動車

取り組み 3 の、自然環境を活用した取り組みにおいて、地域外部との連携を図る必要がある。第 3 章で調査を行った A 集落では、地域から森林組合へ要望を出して、森林の管理を行っている。このように既に取り組みを行っている組織に働きかけることで、地域単体ではできないことに取り組む事ができると考えられる。

#### 5.4 住民主体のまちづくりの実践方策の予備的検討

前節で集落内の高齢者の移動手段として提案した、超小型電気自動車の有効性を検討するため、貸し出し実験を行った。

##### 貸し出し実験概要

貸し出し実験では、旭地区、足助地区に住民 7 名に対して、5 台の超小型電気自動車を貸し出した。実験期間中の使用は被験者の自由意志に任せた。使用一定期間後、被験者に使用方法について聞き取りを行った。対象車両を図 5.2 に、対象車両の諸元を表 5.2 に載せる。車両は 1 人乗りの電気自動車であり、道路交通法上は 4 輪原動機付自転車なので、普通自動車免許を必要とする。

表 5.2 貸出車両の諸元

仕様		諸元
重量	車両総重量	405kg
性能	種類	第一種原動機付自転車（四輪）
	燃料の種類	電気
	1 充電走行距離（市街地走行）	45km 程度
	最高速度	前進：時速 50km, 後進：時速 15km
	最小回転半径	3.3m
	最大積載量	30kg
	乗車定員	1 名
主要寸法	全長	2,365mm
	全幅	1,600mm
	全高	1,710mm
充電装置	充電時間	13 時間程度
	交流入力電源	100V 12A



図 5.2 貸し出し実験に用いた車両



### 貸し出し実験結果

実験の結果、集落の祭りでの荷運び、集落の草刈りの道具の運搬、集落内のゴミ出しなど集落内の移動における活用が見られた。集落内のゴミ出しの際に、想定していた普通自動車では入れない家の前までの移動も発生した。また、集落内の移動以外にも、公用車の代替手段として集落間での配達での活用が見られた。他に、役所までの足助、旭間の往復 20km 程度の移動も発生しており、日常生活で発生する移動にも活用できることが分かった。

### 貸し出し実験考察

今回の貸し出し実験では、当初想定していた集落内の移動や、普通自動車では入れない家の前までの移動が発生した。また、地域内の仕事や日常生活における集落間、地区間の移動にも活用できることが分かった。今回の貸し出し実験では、1人乗りの車両のため、送迎での活用はできなかったが、図 5.1 にあるような、大きさが同じ 2人乗りの車両を活用することで、小型の電気自動車の利点を残しつつ、送迎を行うことが可能になると考えられる。

## 5.5 第5章のまとめ

本章では、第4章のC町での取り組みにおいて作成された、集落ビジョンを実践する際に生じると考えられる問題とその解決策の検討を行った。

地域人口の維持に向けた取り組みにおいては、H自治区の他の集落などC町以外の集落との連携が問題になると考え、H自治区全体でのまちづくりに向けた取り組みを提案した。高齢者が楽しんで集まれる場づくりでは、地域内の中心となる担い手の確保と、運転ができない高齢者の移動手段の確保が問題になると考え、動ける元気な高齢者自身が主体となって取り組みを担うこと、高齢者の移動手段として超小型電気自動車による送迎を提案した。自然環境を活用した取り組みにおいては、地域外部からの支援を得る必要があると考え、既に取り組みを行っている組織への働きかけを提案した。

高齢者の移動手段として提案した超小型電気自動車の中山間地域における有効性を検討するため、貸し出し実験を行った。その結果、提案した方策の有効性が確認できた。

## 第6章 結論

## 6.1 本論文の結論

本研究では、日本の中山間地域の維持に向けて、住民主体のまちづくりの実践方策を明らかにすることを目指した。

愛知県豊田市旭地区のまちづくり事例から中山間地域の維持に向けた問題と解決策の整理を行った。そして、旭地区の事例が対象地域において、適用するかを明らかにするため、アンケート調査及び、地域懇談会への参加を行った。そこで得た情報の検証を行うため、対象地域住民に対して聞き取り調査を実施した。それらの調査により得た情報をもとに、住民主体のまちづくりの実践方策を提案し、対象地域の一部の集落で実践した。最後に、集落で住民主体のまちづくりを実践する際の問題とその解決策について考察を行った。

本研究で得られた成果は、以下の3点である。

- 愛知県豊田市旭地区のまちづくり事例から中山間地域の維持に向けた問題と、住民主体で解決に向けた取り組みを行うための課題設定の要件を抽出した。
- 愛知県豊田市足助地区において、アンケート調査及び、地域懇談会への参加、聞き取り調査から、地域維持に向けた問題と住民参加の阻害要因を抽出した。住民参加の阻害要因として、地域の状況に対する知識の不足、取り組みへの有効感の不足、取り組みへの反対者の存在による実行可能性の不足を得た。
- 本研究で住民主体のまちづくりの実践方策として、集落ビジョン作成の過程での、知識の向上と有効感の向上を目指す懇談会及び不参加者の考えを明らかにするための聞き取り調査を愛知県豊田市足助地区 H 自治区の C 町で実施した。その結果、対象地域において、集落ビジョンが作成され、C 町全体で共有された。また、実際に住民から自発的な取り組みが行われることとなった。このことから、本研究で提案した方策が、住民主体のまちづくりの実践に有効であることが分かった。



## 6.2 今後の課題

本研究の今後の課題は以下の2点と考えられる。

- 本研究では、C町の集落ビジョンの作成を行ったが、実践上の問題は解決策の検討にとどまった。そのため、実際に計画に取り組む際に、提案した解決策が有効であるかを検証する必要がある。また、実践の際には今回想定した問題以外にも、新たな問題が生じることも考えられる。
- 本研究では、C町を中心にして取り組みを行った。そのため、本研究の成果が他地域にも適用することが検証されていない。同じ中山間地域であっても、集落により人口構成や地理条件が異なるため、条件が異なる地域との比較が必要であると考えられる。

## 引用文献

- [1] 農林水産省, “中山間地域とは,” [オンライン]. Available: [http://www.maff.go.jp/j/nousin/tyusan/siharai\\_seido/s\\_about/cyusan/](http://www.maff.go.jp/j/nousin/tyusan/siharai_seido/s_about/cyusan/). [アクセス日: 3 1 2017].
- [2] 総務省, “平成 12 年国勢調査,” [オンライン]. Available: <http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2000/index.htm>. [アクセス日: 3 1 2017].
- [3] 総務省, “平成 17 年国勢調査,” [オンライン]. Available: <http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2005/kihon1/00/mokuji.htm>. [アクセス日: 3 1 2017].
- [4] 総務省, “平成 22 年国勢調査,” [オンライン]. Available: <http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/>. [アクセス日: 3 1 2017].
- [5] 総務省, “過疎地域等における集落の状況に関する現況把握調査報告書,” 平成 23 年 3 月.
- [6] 国土交通省, “国土形成計画(全国計画),” 平成 27 年 8 月.
- [7] 愛知県豊田市, “わくわく事業申請ガイドブック,” [オンライン]. Available: <http://www.city.toyota.aichi.jp/shisei/jichiku/wakuwakujigyo/index.html>. [アクセス日: 3 1 2017].
- [8] 愛知県豊田市, “足助地域のまちづくりを考えるアンケート集計(速報版)”.
- [9] 旭地域会議, “旭地区まちづくり計画(2011~2020),” 2012 年 3 月.
- [10] 旭地域会議, “旭地区まちづくり計画 集落ビジョン 2011~2015,” 2012 年 3 月.
- [11] 劉鶴烈, 千賀裕太郎, “住民主導型集落づくりの起動期の実態に関する考察—福島県伊南村大桃地区を事例として—,” 農村計画論文集 第 4 集, 2002 年 11 月.
- [12] 山下良平, 星野敏, 九鬼康彰, “条件不利地域における内発的発展の要因と推進体制に関する研究—京都府舞鶴市杉山集落を事例として—,” 農村計画学会誌 28 巻論文特集号, 2010 年 2 月.
- [13] 星野敏, “集落計画作りに対する意欲とその規定要因—神戸市北区 K 地区里作りアンケート調査を踏まえて—,” 農村計画論文集 第 4 週, 2002 年 11 月.
- [14] 照本清峰, “孤立対策検討ワークショップの実施とリスクコミュニケーション効果の分析,” 日本建築学会技術報告集 第 17 巻 第 37 号, 2011 年 10 月.
- [15] 吉村彩, 広田純一, “地域づくりにおける地域住民の主体性形成プロセスとその要因—岩手県一関市本寺地区を事例として—,” 農村計画学会誌 25 巻論文特集号, 2006

年 12 月.

- [16] 愛知県豊田市, “豊田市統計書(平成 26 年版),” 平成 28 年 3 月.
- [17] 旭地域会議, 旭地区まちづくり計画 第 2 期 5 か年計画[2016~2020], 豊田市役所旭支所, 平成 28 年 3 月.
- [18] 豊田市役所旭支所, “旭地区まちづくり計画 後期集落ビジョン(2016~2020),” 平成 28 年 3 月.
- [19] 三阪和弘, “環境教育における心理プロセスモデルの検討,” 環境教育 vol.13-1, 2003.
- [20] 総務省, “平成 28 年版高齢社会白書,” [オンライン]. Available: <http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html>. [アクセス日: 3 1 2017].
- [21] 足助町まちづくり委員会, 山里あすけに暮らす豊かさを求めて~あすけ振興計画~, 平成 16 年 3 月.
- [22] 佐々木大也, 被災地に居住する高齢者の生活活性化に求められる交流環境の検討とその効果~岩手県釜石市北部地域を対象として~, 東京大学大学院修士論文, 2014 年 3 月.
- [23] 豊田市敷島自治区, しきしまときめきプラン 2015, しきしまときめきプラン策定委員会, 平成 27 年 3 月.

## 謝辞

本研究を行うに当たりお世話になった方々に感謝の言葉を述べさせていただきます。

指導教員である鎌田教授には、学部生からの3年間非常にお世話になりました。大変ご多忙な中、研究会以外にも個別での面談やメールでの対応など、研究に対して多くのご指導を頂きました。先生から頂いたコメントなどから、研究に対する考え方など多くのことを学ばせて頂きました。心より御礼を申し上げます。

小竹准教授には、研究会において工学的な視点から多くのご指摘を頂きました。ありがとうございました。

二瓶講師には、研究会をはじめ、研究室の様々な場面でお世話になりました。ありがとうございました。

小沼様には、出張の際の手続きなどで非常にお世話になりました。色々ご迷惑をおかけしたかと思えます。ありがとうございました。

名古屋大学の跡部様、中條様、東京大学の研究員 N 様には現地での取り組みの際、非常にお世話になりました。ありがとうございました。

久保登様には、修士1年生の時に研究を見て頂きました。また、現地でのコムスに関わる作業の際は、非常にお世話になりました。あの時の経験があったからこそ、今のこの研究があるのだと思います。ありがとうございました。

その他研究室の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

また、現地での調査にご協力を頂いた方をはじめとして、足助・旭では非常に多くの方にお世話になりました。皆様のご協力がなければ、この研究は成立しなかったと思います。ありがとうございました。

最後に、大学院まで不自由なく勉強させてくれた家族に感謝します。

赤城光春

付録 A

**H 自治区アンケート調査票**

## A.1 アンケート調査依頼状

以下に H 自治区で行ったアンケート調査票を掲載する。地域や個人情報に関する箇所に変更を加えた。配布の際は、H 自治区や A 集落などの表記は実際の地域名を示している。

調査票へ記入前にお読み下さい

### H 自治区ビジョン作成に向けたアンケート調査 ご協力をお願い

現在、H 自治区では、近年の過疎・高齢化に伴う地域の変化に対応するため、新たな地域ビジョンの作成に着手しました。

このたび、H 自治区にお住まいの皆様に対して、皆様の家族、土地、家がどのようになっていくか、また、皆様がこの H 自治区をどのような地域にしていきたいかを把握するため、アンケート調査を実施いたします。

調査結果は、今後の H 自治区のあり方を検討する上で重要な資料になります。回答資料は個人が特定されないように郵送で回収を行い、厳重に管理を行います。また、本アンケートの調査結果は、今後の H 自治区における地域ビジョン作成に活用するとともに、個人が特定されない形で大学の研究成果として発表させて頂く場合があります。

調査内容にご不明な点がございましたら、下記の調査担当者までご連絡下さい。

#### 【ご記入にあたっての注意事項】

- **調査票（世帯向け1部と個人向け数部）**を配布しております。  
調査票に直接、番号や意見等をご記入ください。
- ご回答は、調査票（世帯向け）は世帯の代表者が、調査票（個人向け）は世帯の全ての人がご回答ください。
- ご回答は、調査票にご記入の上、まとめて同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、  
**平成28年10月16日（日）**までにポストへご投函ください。
- 本アンケート結果は、個人が特定されない形で、大学の研究成果として発表させて頂く場合がございます。

ご協力よろしく申し上げます

〔調査実施主体〕 H 自治区

〔調査協力機関〕 国立大学 東京大学 調査担当者：赤城光春

電話： ██████████

メール： ██████████

## A.2 世帯向け調査票

## H 自治区ビジョン作成に向けたアンケート 「世帯向け」調査票

### 《あなたとご家族の基本的な情報についてお聞かせ下さい》

問1 あなたが現在お住まいになっている町はどこですか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をおつけください。

1. A町	2. B町	3. C町	4. D町
5. E町	6. F町	7. G町	

問2 現在（平成28年9月1日現在）、あなたと同居している世帯の構成（日常的に一緒に暮らしている家族の構成）について必要事項（A：あなたからみた続柄、B：性別、C：年齢、D：職業）をご回答ください。また、現在同居している家族が10年後も現在地に住んでいるかどうかをE欄にご回答ください。

家族番号	現在				10年後（将来）	
	A：あなたからみた続柄 ※下の選択肢から選んで番号を記入	B：性別 ※どちらか一方に○印	C：年齢 ※年齢を記入	D：職業 ※下の選択肢から番号を記入	E：現在の家族が10年後に現在地で同居しているか ※どちらか一方に○印	
①	あなた本人（世帯代表の方）	1. 男 2. 女	歳		1. している	2. していない
②		1. 男 2. 女	歳		1. している	2. していない
③		1. 男 2. 女	歳		1. している	2. していない
④		1. 男 2. 女	歳		1. している	2. していない
⑤		1. 男 2. 女	歳		1. している	2. していない
⑥		1. 男 2. 女	歳		1. している	2. していない
⑦		1. 男 2. 女	歳		1. している	2. していない
⑧		1. 男 2. 女	歳		1. している	2. していない
⑨		1. 男 2. 女	歳		1. している	2. していない
⑩		1. 男 2. 女	歳		1. している	2. していない

#### ■ 続柄の選択肢 ■

1. 配偶者	6. 孫
2. 子	7. 祖父母
3. 子の配偶者	8. 兄弟姉妹
4. あなたの父母	9. 他の親族
5. あなたの配偶者の父母	10. その他

#### ■ 職業の選択肢 ■

1. 農林業	5. 専業主婦（夫）
2. 会社員等勤め人	6. 学生
3. 自営業・家族従業	7. 無職
4. パートタイマー等	8. その他

問3 10年後に新しく家族が増えることはありますか。どちらか一方を選んで番号に○をおつけください。  
(家族が増えるとは、「今は同居していない息子が戻ってくる」や「新しく子どもや孫ができて一緒に住む」といったケースになります)

1. 10年後に新しく家族が増える  
⇒人数は( )人

2. 10年後に新しく増える家族はいない  
⇒【問5へ】

問4 【問3で、1.とお答えの方にお尋ねします。】

今は同居していないが、10年後に同居していると思われる家族の必要事項(A:あなたからみた続柄、B:性別、C:年齢【※10年後の年齢】)をご回答ください。

A:あなたからみた続柄 ※下の選択肢から選んで番号を記入	B:性別 ※あてはまるものに○印			C:年齢 ※10年後の年齢を記入
	1. 男	2. 女	3. まだ生まれていなのでわからない	歳
	1. 男	2. 女	3. まだ生まれていなのでわからない	歳
	1. 男	2. 女	3. まだ生まれていなのでわからない	歳
	1. 男	2. 女	3. まだ生まれていなのでわからない	歳
	1. 男	2. 女	3. まだ生まれていなのでわからない	歳

■続柄の選択肢■

1. 配偶者	6. 孫
2. 子	7. 祖父母
3. 子の配偶者	8. 兄弟姉妹
4. あなたの父母	9. 他の親族
5. あなたの配偶者の父母	10. その他

《住まいの現状と将来についてお聞かせ下さい》

問5 あなたの住んでいる家は、持ち家ですか、それとも借家ですか。どちらか一方を選んで番号に○をおつけください。

1. 持ち家

2. 借家⇒【問9へ】

問6 あなたの住んでいる家の母屋の築年数はおよそ何年ですか。数字を記入してください。

●母屋の築年数      およそ築  年

問7 問2～4で回答した将来(10年後)の現住地におけるあなたの世帯状況や問6で回答した母屋の築年数の状況を踏まえると、あなたの住んでいる家屋は、将来(10年後)どのようになっていると考えられますか。最も近いものを1つ選んで番号に○をおつけください。

- |  |
|--|
| 1. 今後10年の間は現在の同居家族の誰かが住んでいく見通しである⇒【問9へ】              |
| 2. 今後10年程度の間同居家族として戻ってくる親族がそこに住んでいく⇒【問9へ】            |
| 3. 10年後の将来は空き家になるかもしれない(息子や娘等の住んでいるところに呼び寄せられる場合も含む) |
| 4. その他(具体的に: _____)⇒【問9へ】                            |



問8 【問7で、3. とお答えの方にお尋ねします。】

あなたの住んでいる家が空き家になってしまった場合、空き家の管理をどのように考えていますか。最も近いものを1つ選んで番号に○をおつけください。

- |   |  |
|---|--|
| 1. 自分や兄弟姉妹、親戚などが利用する可能性があるので空き家のままにしておく |  |
| 2. 特に誰も利用する予定はないが、空き家のままにしておく           |  |
| 3. 他人に貸してもよい<br>★貸す場合に特別の条件があれば記入⇒      |  |
| 4. 他人に売ってもよい<br>★売る場合に特別の条件があれば記入⇒      |  |
| 5. 取り壊すつもりである                           |  |
| 6. その他（具体的に：_____）                      |  |

《農地の現状と将来についてお聞かせ下さい》

問9 あなたの世帯では、農地を所有していますか。どちらか一方を選んで番号に○をおつけください。

- |           |            |
|-----------|------------|
| 1. 所有している | 2. 所有していない |
|-----------|------------|
- 【問12へ】

問10 【問9で1. とお答えの方にお尋ねします。】

あなたの世帯で所有している農地は、どのようになっていますか。また、農地の将来の見通し（10年後）について、どのようにお考えですか。最も近いものを1つ選んで番号に○をおつけください。

- |   |
|---|
| 1. 現在は、大半の農地（または一部の農地）を家族で管理しており、10年後も継続できる（農作業の一部委託を含む）⇒【問12へ】 |
| 2. 現在は、大半の農地（または一部の農地）を家族で管理しているが、10年後は管理できない農地が増加する            |
| 3. 現在、大半の農地が遊休農地（または耕作放棄地）になっている                                |
| 4. 現在、大半の農地を他の担い手に貸している⇒【問12へ】                                  |
| 5. その他（具体的に：_____）⇒【問12へ】                                       |

問11 【問10で2. 又は3. のどちらか一方をお答えの方にお尋ねします。】

あなたの世帯で耕作しなくなった農地を将来的にどのようにしていくお考えですか。考えに近いものを3つまで選んで番号に○をおつけください。

- |  |
|--|
| 1. 集落営農組織や他の中核的担い手（一定以上の日数を農業に従事している農業の担い手）に貸す |
| 2. 親戚や集落の身近な人に貸す                               |
| 3. Iターン者（都市から移り住んだ人）や都市住民に貸しても良い               |
| 4. 農地を売却したい                                    |
| 5. 売却も貸付もしない（耕作放棄地のままにしておく）                    |
| 6. その他（具体的に：_____）                             |

### 《山林の現状と将来についてお聞かせ下さい》

問12 あなたの世帯では、山林を所有していますか。どちらか一方を選んで番号に○をおつけください(集落(組)で所有している共有林等は含みません)。

1. 所有している

2. 所有していない

問13 【問12で1. とお答えの方にお尋ねします。】

【問15へ】

あなたの世帯で所有している山林のうち人工林についてお聞きします。あなた(あなたの世帯)は、所有している人工林の間伐等の管理をどの程度行っていますか。最も近いものを1つ選んで番号に○をおつけください。

1. 現在は、大半の山林(人工林)を管理しており、10年後も継続できる(森林ボランティアや森林組合への施業委託などを含む) ⇒ 【問15へ】
2. 現在は、大半の山林(人工林)を管理しているが、10年後は管理できない山林が増加する
3. 現在、大半の山林(人工林)の管理を行っていない
4. 管理が必要な山林(人工林)はない ⇒ 【問15へ】
5. その他(具体的に: \_\_\_\_\_) ⇒ 【問15へ】

問14 【問13で2. 又は3. のどちらか一方をお答えの方にお尋ねします。】

あなたの世帯で所有する山林(人工林)で管理ができない山林を将来的にどのようにしていくお考えですか。最も近いものを1つ選んで番号に○をおつけください。

1. 管理の方法を、森づくり会議や地域の推進組織に委ね、管理の行き届いた山林(人工林)として保全したい
2. 森林組合など森林経営を行う主体があれば、長期にわたって貸し付けても良い(現在はこのような制度はありません)
3. 管理しないまま資産として保有する
4. 山林を売却したい
5. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)

### 《その他、ご意見・ご提案》

問15 H 自治区(各自治会を含む)は、高齢化、人口減少が進行し、現在よりさらに多くの課題が発生すると考えられます。H 自治区ビジョン作成に向け、ご意見、ご要望、ご提案があれば自由にお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。個人向けの調査票にも回答頂き、本アンケートとあわせて回答用封筒に入れ、郵送にてご提出ください。

### A.3 個人向け調査票

## H 自治区ビジョン作成に向けたアンケート 「個人向け」調査票

《あなたの普段の生活についてお聞かせ下さい》

問1 別紙の世帯向けアンケート問2における、あなたの家族番号をご回答下さい。(回答:①～⑩の番号)

( )

問2 普段の生活における外出状況についてお聞かせ下さい。普段の外出状況を、直近1週間の生活を思い出してご回答下さい。(下表のカッコ内に、下の選択肢より当てはまる番号をお書き下さい。該当する選択肢がない場合、直接お答えを表にお書き下さい。)

A. 外出の目的	B. 出かける場所	C. 通常利用する移動手段	D. 出かける頻度
1. 食料品・日用品の買物	( )	( )	( )
2. 学校への通学や、仕事場までの通勤	( )	( )	( )
3. よく利用する病院	( )	( )	( )
4. 草刈りや集会、お祭りなどの地域行事	( )	( )	( )
5. 家族・知人との交際	( )	( )	( )
6. 家族・知人の送迎	( )	( )	( )
7. 農作業、山作業	( )	( )	( )
8. その他の外出(1) ( )	( )	( )	( )
9. その他の外出(2) ( )	( )	( )	( )

■出かける場所の選択肢■

1. 家の近く
2. H自治区内
3. 足助地区内
4. 近隣の都市
5. 行かない

■移動手段の選択肢■

- |                   |         |
|-------------------|---------|
| 1. マイカー<br>(自分運転) | 4. バス   |
| 2. マイカー<br>(他者運転) | 5. タクシー |
| 3. 徒歩             | 6. バイク  |
|                   | 7. 自転車  |
|                   | 8. 電車   |

■出かける頻度の選択肢■

- |           |                 |
|-----------|-----------------|
| 1. 週1, 2回 | 6. 半年に<br>1, 2回 |
| 2. 週3, 4回 | 7. 年に1,<br>2回   |
| 3. 週5, 6回 |                 |
| 4. 毎日     |                 |
| 5. 月1, 2回 |                 |

### 《H 自治区に対する考えをお聞かせ下さい》

問3 あなたはH自治区を住みよい所だと思いますか？（回答：一つに○印）

また、その理由をお聞かせ下さい。

1. 住みよい	2. どちらかとい えば住みよい	3. どちらともい えない	4. どちらかといえ ば住みにくい	5. 住みにくい
理由 ( )				

問4 あなたは、今住んでいるところにこれからも長く住みたいと思いますか？（回答：一つに○印）

1. 今のところ住みたい	4. 豊田市外へ移りたい
2. 足助地区の別のところに住みたい	5. 分からない
3. 豊田市の中心部など市内の別の所に住みたい	

問5 問4であなたがそう考える理由は何ですか？（回答：当てはまるもの全てに○印）

1. 家や土地などの資産があるから	10. 老後は子供に面倒をみてほしいから
2. 先祖代々の墓があるから	11. 親類や知人が多く生活が安心だから
3. 生まれ育った土地で余生を過ごしたいから	12. 新しい住まいや環境への不安があるから
4. その地区・集落に愛着があるから	13. 転居する気力や費用が無いから
5. 近隣住民のつながりが強いから	14. 今の生活を続けることに不安があるから
6. 買物等日常生活が便利だから（不便だから）	15. 家族がそのような生活を望んでいるから
7. 病院や福祉施設が近いから（遠いから）	16. 災害に対する不安が大きいから
8. 親族と一緒に（又は近くに）住みたいから	17. この地区に人が少なくなって寂しいから
9. その生活が便利で快適だから	18. その他 ( )

問6 H自治区をより良いまちにするため、どのような課題に優先的に取り組む必要があるとお考えですか？（回答：当てはまるもの1つに○印）

1. 防犯・防災活動など安全安心への取り組み	7. 農地や山林の荒廃、獣害対策への取り組み
2. 一人暮らし高齢者の支援など福祉問題への取り組み	8. 花いっぱい運動や景観保全の取り組み
3. 病気の予防や体力向上など健康づくりへの取り組み	9. 地域活動の活性化や声かけなど地域のつながりを高める取り組み
4. 過疎対策・定住促進への取り組み	10. 産業の活性化や働く場づくり
5. 青少年の育成・子育て支援	11. 観光・交流など都市とつながる取り組み
6. 伝統文化や祭りなど地域文化の継承	12. その他 (具体的に )

問7 問6で回答した課題に関して、あなたは、自治区の状況をどの程度知っていますか？（回答：当てはまるものに○印）

1. よく知っている	2. 少し知っている	3. あまり知らない	4. 全く知らない
------------	------------	------------	-----------

問8 問6で回答した課題に関して、あなたは、どの程度関心がありますか？（回答：当てはまるものに○印）

1. 関心がある	2. どちらかといえば 関心がある	3. どちらかといえば 関心がない	4. 関心がない
----------	----------------------	----------------------	----------

問9 問6で回答した課題に、H自治区が取り組むことは、自治区を良くすることに有効だと思いますか？（回答：当てはまるものに○印）

1. 有効だと思う	2. どちらかといえば有効だと思う	3. どちらかといえば有効でないと思う	4. 有効でないと思う
-----------	-------------------	---------------------	-------------

問10 問6で回答した課題に、H自治区が取り組まない場合、問題が生じると思いますか？（回答：当てはまるものに○印）

1. 生じると思う	2. どちらかといえば生じると思う	3. どちらかといえば生じないと思う	4. 生じないと思う
-----------	-------------------	--------------------	------------

問11 問6で回答した課題が、H自治区で取り組まれた場合、あなたはその活動に参加したいと思いますか？（回答：当てはまるものに○印）

1. 参加したい	2. どちらかといえば参加したい	3. どちらかといえば参加したくない	4. 参加したくない
----------	------------------	--------------------	------------

#### 《その他、ご意見・ご提案》

問12 H自治区（各自治会を含む）は、高齢化、人口減少が進行し、現在よりさらに多くの課題が発生すると考えられます。H自治区ビジョン作成に向け、ご意見、ご要望、ご提案があれば自由にお書き下さい。

--

#### 《H自治区ビジョン作成に向けたご協力のお願い》

現在、H自治区ビジョン作成に向けて、対面式のインタビュー調査や、地域に対する意見交換などを行っております。そうした取り組みにご協力頂ける場合、連絡先をお教え頂けると幸いです。

連絡先をご記入いただいた場合、後日ご連絡を差し上げる場合がございますが、何卒ご了承のほどよろしくお願いいたします。

お名前	
電話番号又は、メールアドレス	

**ご協力ありがとうございました。最後に記入漏れ等がないかご確認の上、本アンケートを回答用封筒に入れて、郵送にてご提出ください。**

付録 B  
区長を囲む会の議事録

## B.1 第1回区長を囲む会議事録

1. 日時：2016年7月27日（火），10：00－12：00

2. 場所：H 自治区小学校校長室

3. 出席者

（ア）H 自治区区長：A

（イ）H 自治区小学校：B, C, D, E, F, G, H, I

（ウ）東京大学他4名

4. 第1回区長を囲む会の流れ

（ア）H 自治区区長 A 冒頭挨拶

（イ）各先生からの意見出し

（ウ）先生方による意見交換

5. 議事録

（ア）H 自治区区長 A 冒頭挨拶

（A）よく H 自治区小学校に訪れるが先生方が、小学校をどう捉えられているか、どんな思いを持っているかを自治区長として把握したい。ぜひ、先生方の思いをお聞きして、H 自治区自治区がきらびやかと光る地域にできたら良いと思っており、この会を設けさせていただいた。

自治区長を拝命して4ヶ月たつが、自治区長として何をすべきか考えております。正直な話、毎月配る書類が大量にとどく、223の戸数に自治会ごとに振り分けておく。8畳の家がてんやわんわの惨状になる。これだけの仕事なら自分ではなくてもやれる。私だからこそこできるのは、H 自治区自治区をよりよくするために、みんなと課題を共有して、羅針盤のようになりたい。

今から、12年前に H 自治区自治区計画が作られた。これは旧足助全域で集落の63の計画と小学校区15区で計画があった。7自治会の意見をまとめたものが、その計画になる。豊田市に合併して以降、その計画が活かされているのか、それが使われていないのか。今一度新しい H 自治区のビジョンに作り変えていこうかと思っている。

自治区の定期総会においても、これを研究課題としてあげて、役員と研修会として創刊号を自治区としてあげさせていただいた。ただ自分も進め方が分からないので、支所のおいでんさんそんセンターに相談した。センター長の鈴木さんに来ていただいて、話をさせていただいた。名古屋大学の高野先生にも来ていただき、H 自治区を振り返る上での材料となる話をさせていただいた。

現場現実を知らないと、生きた計画にならないと思い、まず、H 自治区小学校で、身近な小



学生が何を学び、先生方がこの地域に関わる中で、子供と過ごす中で将来の地域像をざっくりぼらんに聞かせていただければ、自分が計画を作るうえで参考になると思っている。

地域として普遍的なものは残していくべき、奇をてらったことをやっても継続しない。地域の伝統や文化歴史を紐解いて答えを出していくことは、必要なことだと思っている。今、歌舞伎に注力していこうかと思っている。まだ、断言できないが、国の文化登録を取ってみたいと思っている。

そんな意味で答えがある話ではないが、先生方のいろいろな考えを聞く良い機会なので、ぜひともいい話を聞かせていただきたい。私の立場からすると、話しにくいことがあるかと思えます。そこで、そうした部分は、東大、名大の3名があとからフォローしていく。

計画をきちきちと作る気はない。どんな地域にするかを项目的にあげていく。その項目を先生方に纏め上げていくチームをつくってってもらいたい。PTAの人からも数名参加してもらい、まとめていきたい。

歴史的なものからもH自治区自治区の位置づけをしっかりと固めたい。文化的な仕事もここにはあるのではないか。

#### (イ) 各先生方の意見発表

(D) 順番に自己紹介を兼ねながら、自治区のこんな協力を得たいという話をしていきたいと思います。

(G) 出身は長野県根羽村、電車もコンビニにもない田舎ですごして、H自治区小学校と同じくらいの学校に通っていた。自然があることと近くにまちがあることがH自治区小学校のいいところ。パレットにもバスですぐ行けるため、子供たちも自然の中で過ごす考えと、まちで過ごすこともできるのですごくいい場所だと思いました。

(H) 旧旭町の出身で、東萩平に住んでいた。自分の地域でも空き家に入り子供も増えた。なんか(人が他所から)きたら、遊びに来たのかと思っていたら、空き家に入った。旭でいろいろ活動していることも若いためあまり知らなかった。(H自治区は)自分の住んでいるところとあまりかわらず、自然の中で、まちにも近い。歴史的にも色々なものがありますし、学ぶにはいい環境だと思う。他の学校にはない歌舞伎もH自治区小学校の誇りを持つところだと思う。これからも続けていきたいが、これから子供が減っているため、5、6年だけでやっていたのが、今年は4年も交えてやった。将来的には全校でやる。子供が減っている、若者が町に出て行く。

(D) 都市の出身なのでカルチャーショックをうけた。今年で3年目。自分は700人の学校通っていた。人数が少ないといいこともあれば悪いこともある。やりたいこともできない。6年生が足助全体の未来を考え、足助支所へ電話するといったことをした。過疎が進んでおり、空き家をどうするか、イベントをしたらいいかと考えて、支所の人も同感した。その中で子供たちは愛郷心を深めていたが、足助のいいところを残さなければならないということは、興味がない。問題点はいっぱいあげるが、イオンがないなど、問題意識はあるが、それを作りたいというか、作りたくないという。それをすると足助のいいところがなくなる。



(そうした活動で)愛郷心を高めたが、足助に残りたいかという、自分のやりたいことをするためには、都市に出て行きたいと思う。自己実現を考えると足助をでていってしまう。そこを残れ、残れというとな難しいと思う。一度でていって戻ってくることはあるかと思うが、ずっと残ってそこにい続けるのは難しいと思った。この町のいいところは発展させるのが良いと思うが、いろいろな考え方が絡むので難しいと思う。歌舞伎についても人数が減ってきている問題はどうしようもない現実で、続けていくためには、保存会が必要かと思う。子ども会だけでは難しいと思う。女性の中でもまち娘として声がかかるのを待っている人もいる。小学校だけでやるのはむずかしい。低学年は役どころが少ない。

(I) 旭町から通っている。旭町にいたころと比べると商工会もいろいろやっているが、高齢化してきてなんとなく寂しくなってきた感じがする。一番思うことは年をとって同居している人は良いが、そうではない人は買い物や病院に行くことはどうしたらいいのか、本当に切実な問題だと思う。将来健康を守って生活していきたい。

(E) 出身は名古屋市の南区。学校は2,000人いた。就職してからこちらにきたが、今は旧藤岡町に住んでいる。小学校では歌舞伎が大きいと思っている。やるのもみるのも楽しむのがいいとおもう。子供たちが本当にやりたいことがあるのは良いと思う。子供が自主的にやりたいというのをだしていくのはいい。三角山や川があるが、今、子供だけで遊んでいると、川遊びは危ないよ、といわないといけない。子供たちだけで遊べる場所がいいのかなと思う。それが歌舞伎などの伝統につながるならばいい。自分なら自分から歌舞伎に参加したい、というような人のほうがいい。(人に)言われたから、いやいや、やるのはいやだと思う。今は自分からやりたがっているかたいい。

(F) 教務主任、担任を持たない教員。学校全体の授業カリキュラムなどの全体統括。子供や親とのかかわりはあまりない。この学校は小さいので、関わりが薄くてもすぐ顔見知りになる。大学を終えて、複式の学校につとめた。育ちは1,000人以上の大規模校だった。最初はカルチャーショックがあった。やっぱり大きい学校に行きたくて別の学校に行った。当時藤岡も宅地開発が激しくて、安くてそこに勤務した。900人規模の小学校があった。やっぱり小さいところもいいなと思って。旭の敷島にいった。来年は完全に複式になる。来年度は教務主任と担任を両方務める。子供が減るということは、自分たちのやることは莫大に増えていく。一人当たりの仕事が増える。残った人でやるため、倍に仕事が増える。いかんせん子供が1人増えるかいなかで大きく変わる。来年1人入るだけで教員が2人増える。今のままだと教員が3人減るのが、1人減るだけですむ。学級人数の基準がある。1、2年を分けるための最低人数が決まっている。子供の数で学校経営にも影響している。追分とか大蔵とか足助の地区はすべて同じ状況にある。

(C) 教頭。16年やっている。五反田に住んでいる。H自治区でいくつかの学校の閉校もみってきた。H自治区はよく知っていたが、子供歌舞伎をやっていたことは知らない。下山あたりでよくまわったが、知らなかった。H自治区はパワーがあった。特に川面は子供が増えていた。こともたちだけでバレー大会ができた。学校づくりで地区からお金が何千万とお金が

入った。3年前になるが、すんでみると昔とは変わっている。子供が減ってきている。豊田市と合併したことが問題だ。神戸の事件以降フェンスが張られた。学校に入れなくなった。

(小学校が地域の集まる場所として使われにくくなった。) 若いときは出ていってもいい。いつか帰ってくるように育てる。祭りでも何でも子供中心に考えてやる。やっぱり五反田いいなと思えば、いっぱい子供を生む。H 自治区で見ると、地域計画をみても、H 自治区のシンボル三角山、もう 10 年立つと地区の協力が無い。地区の方にも申し込みをするが 10 人もいない。開発当初、小学校や地域で整備すると決めているが、忘れられていることは問題。広報されていないことも問題だし。そういうことで歌舞伎もいずれは全校体制でやって、保存会もやる必要がある。10 家庭で草刈はやれない。こうなると地区の協力が必要。学区の草刈と決め手、年 2 回やっているが、五反田だと自治区から 5 人参加する。いろいろな行事の際にも自治区の方の協力を得ないとまわっていかない。区長を中心にいろいろなことをする。開かれた学校にして、いろいろな人が来てもらえるようにする。平日に使ってもらおうとじいさんばあさんと交流や知恵だしもできる。フェンスかけて閉じきってしまうと誰も来ない。年に 1 回の運動会や盆踊り、などで人が集めるといい。学校が閉校になると地域は終わり。別の地区の学校まで年寄りは見にいかない。土地はいくらでもある。家なんて離れを作れば十分。

(B) 校長。出身は下山。同級生は 10 人、下は 3 人。先生になってからは複式の経験はない。母校のほうを中心に活動。農家を地元でやっていきたくったが、今は足助にいる。学校の進むべき方針を示して、地域と進んでいくことが校長の仕事。本校の姿勢は地域密着型の学校経営。住んでいる人の姿勢があって、学校がある。これは先代の校長から引き継がれている。3つの三本柱は、歌舞伎、図書館、三角山。4月のH自治区自治区主催の勉強会にも参加した。地域づくりに対して学校が何をできるかという質問を名大の先生にした。定住促進から過疎化対策に対して、小学校が、何ができるかという問題に対して、魅力ある学校づくりがひとつのベース、そしてそれを発信することが必要と先生が答えられた。足助に住みたいと考えている人にこの地域がどれだけ魅力か伝わっていない。小さなところだと、地域の人の力を借りて、地域に対して学校の力を貸すことも考えていきたい。現在、足助はふるさと、住むところは町となっている。地域はそのまま残しておきたいが、それはそれとして地域を作りたい。Iターンが増えれば、Uターンも増える。地域の価値を見直していく必要がある。下山も定住促進をやっているが、Uターンを増やそうという意識が強くある。PTAのあり方も、Iターン者にはハードル高そうだが、情報を発信して安心させることも必要。定住促進などの地域づくりから学校を作っていきたいと思う。

#### (ウ) 先生方による意見交換

(D) 足助病院など生活に必要な施設はそろっており、暮らせないわけではないが、利便性をさらに求めるとまちにいく。川が草ぼうぼうなのはどうかにならないか。草刈は毎年やっていないのか。きれいになっていけば、子供たちで遊べる。

(A) 地域と小学校が協力すれば、草刈もできる。残土を捨てる場所があればいい。

(B) 地域のバーベキューとくっつけてやればできる。学校教育の中で自然と遊ぶ。

(C) 車が必要。足がなくなると困る。地域バスも1本。交通手段は大きい。

(A) バスが走っているがバス停までいけない。D町のバス停でも橋のところでのりたい。ルール上では乗れないが、運転手が気を利かせてそこで乗せることもある。バス停を動かす。

(C) 昔は手を上げるとのせてもらえた。

(A) 今は事故の責任から難しくなっている。足の問題は昔からある。あいまーるは改善して言っているが、バス停までは考えられていない。旭には予約バスがあるが、年寄りだとシステムが理解できない。足の問題は非常に重い課題。豊田市と山間部の政策は分けてもいい。中山間地域はそこならでの、政策を出してもらいたい。H自治区はH自治区のやり方をつくる。

(B) 何かやろうとするとき、意思形成をすることが必要。それを学ばせていただいた。みんなの方向性をひとつにする。何かひとつ学校全体のステップアップとなった。

(A) これを皮切りに中間的なお話もできたら良いと思います。また参加していただければと思います。

## B.2 第2回区長を囲む会議事録

1. 日時：2016年8月1日（月）19：00-19：30

2. 場所：H 自治区小学校校長室

3. 出席者

(ア) H 自治区区長：A

(イ) H 自治区小学校：C

(ウ) H 自治区小学校 PTA：D, E, F, G, H, I, J

(エ) 東京大学他 4 名

H 自治区区長 A と H 自治区小学校 C 及び、東京大学他 4 名は、第 1 回区長を囲む会の参加者と同様。

4. 第 2 回区長を囲む会の流れ

(ア) H 自治区区長 A 冒頭挨拶

(イ) 各参加者から意見出し

(ウ) 参加者による意見交換

5. 議事録

(A) 12 年前に H 自治区計画が作成されました。平成 16 年に作成されて、平成 17 年に（足助が）豊田市に合併されて、知っている人もいれば、忘れている人もいる中で、H 自治区をこれから担っていく人でどういうふうにしていきたいか、やりたいこと、やってもらいたいこと、いろいろあると思います。それらを聞かせて頂きたいと思います。こうした話をする中で、自分も計画に加わりたいたいという人がいれば、協力頂けるとありがたいと思います。今日は語る会というよりも、聞かせて頂きたい。皆様から何でも良いので、聞かせて頂きたい。計画を作るのではなく、実行するのが目的なので、色々聞かせてください。

(I) 2 戸 2 戸作戦という他地区でやられているものをやらないかと、区長に質問したことがあった。これまで人口の推移に危機感を抱いていなかったが、推移のデータを見る機会があり、危機感を抱いた。小学校も複式になるし、過疎化がどんどん進んでいく。空き家を借りるのではなく、定住を自治区で率先してやっていけないか。自分も言い出す以上、お手伝いをしたい。まずは、冷田の方法（2 戸 2 戸作戦）をやるのはどうか。

(D) 前に、区長さんと話し合う会として、聞いていた内容と食い違う部分があり、頭が真っ白。テーマがあれば、言い出しやすい。こういう人たち（名大、東大など）が見えて、こういうことをやるというのも聞いてなかったの、いきなりは意見がでない。

(E) 同じく、いきなり言われても、でてこない。前聞いていた時はこういう話ではなかったの、今浮かばない。

(D) 話が進んでいけば、いろいろ考えもでてくると思う。

(C) どんなことでも良いので普段思っていることを言ってもらったらいい。

(G) 自分は主人がこっちに勤めるのをきっかけで、17、8年前に神奈川から来た。主人は足助屋敷につとめている。今は緑の村住宅という社宅で、住むところがあるのでなんとかやっているが、場所がなければやっていけない。空き家があれば入れる状態……。住むところがなければ、その後大変だなと感じている。今の社宅は小島プレスの下にあるが、更に山の中に入ると、生活がどうなるのかなと思う。かといってこのまま娘2人が大きくなって、ここに定住するのは定かではない。でも車を使って、30分で町に出られるので、すごく不便ではない。これから(娘が)高校に入ると交通の便をすごく考える。自分たちの世代はすごく人数が少なかったわけでもなかったから、危機感はなかったが、これからの子達は、気軽に住む場所がないと増えない。自分たちも長齢住宅、一軒家になっているところに入ることを考えていたが、今の社宅が開いたのでそこに入るようになった。

(H) 自分も社宅に入っている。めまぐるしく人が入れ替わりすぎる。人が入ってくるのはうれしいが、1年とか早くて3ヶ月でやめてしまう。伊勢神の方が実家なので、そちらでもかまわない。足助が好きだからそこにいる。娘が大きくなったときに好きになってくれるかという、多分無理。交通の便もそうだし、遊ぶ場所がない。子供はよく、何で足助には公園がないのといわれる。車に気をつけろ、じゃなくて、子供が気をつけなくていい場所をつくればいいはず。なんでH自治区がいいかという、小学校を開放しているので、校庭でみんな走る。子供目線で見ることがないから、親は来たくない。人が少ないから、不安があると思う。遊び相手や話し相手がいるか。引っ越してきた人の長女がいなかったら、自分の娘一人だけ小5。少し子供目線で考えられることはないのか。そこを考えて欲しい。大人の目が届く遊びも必要かと思う。お祭りであったり、子供が主体でできることもある。

(D) A町に住んでいる。D町にもともと住んでいた。生まれも育ちも足助。今すんでいるところに不満もない。というか、これが当たり前と感じて過ごしている。正直、人が減っていく、子供が少ないという状況は、切実に感じている。H自治区小学校も80人くらいいたが、同じ学内で顔を合わせるのが2人だけという状況。残るだろうと思っていた人も町に出る。同窓会とかの時に話すと、町の利便性を求める人もいるし、よき田舎の風習という、いわゆるむらのつきあい、お役が逆に疎ましく思うという人もいました。町の連帯感がいい反面、プライバシーが守られにくくなるという面がある。それは人それぞれの価値観、強制しづらい。足助には役所や病院という生活に必要なものはすべて揃っている。交通手段は町外で勤務している人が圧倒的。車でしか通勤できない。公共交通手段がない。それが一番ネックかと思う。公共交通手段で日常の足として使えるのも必要かと思う。足助に住んでいると、仕事帰りに1杯飲んで帰るというリーマンの楽しみがない。基本的に今住んでいるところに支障はない。

(J) 遊び場がないという話があったが。昔はお宮さんに遊具があつて、駄菓子屋に行くとできたが。今は小学校しかない。しかも鉄棒みたいなありきたりなものしかない。学校を

公園みたいな機能をつけてもいい。昔は鉄板がたててあって、テニスとかの練習ができた。そういう環境があるといい。青木さんも役所につとめていて、コネがあったら話を通してくれれば・・・

(D) 親の子供に対する許容範囲。(今は) 遊具があって、子供が怪我したら、遊具を作った人に文句を言う人もいる。子供が怪我しても、自己責任。

(J) そういうことを考えてもきりが無い。

(D) まちのほうは、とんでもない責任転嫁をする。偏見かも。自分が中学のときなんか3人も足折った。毎回毎回人が違った。3人が一番上から落ちた。

(C) 職員の話し合いでも川の話題が出た、川は草がボーボー。いろいろ話が出た。

(A) いろいろな部分は様変わりするが、本当に変わらないのは、自分たちが長く住めるかということ。多少難儀していても頑張っていけば住んでいける。

### B.3 第3回区長を囲む会議事録

1. 日時：2016年10月18日13時30分から15時30分

2. 場所：愛知県豊田市足助地区百年草

3. 参加者

(ア) 元自治区長：B, C, D, E, F

(イ) 元会計監査：G

(ウ) 前自治会長：H

(エ) 現自治区長：A

(オ) 東京大学2名

現H自治区区長は、第1回、第2回と同一人物。

4. 会の流れ

(ア) H自治区自治区長から挨拶

(イ) 各参加者から意見出し

(ウ) 参加者による意見交換

5. 議事録

(ア) 自治区長挨拶

(イ) 各々順番に意見

(D) 豊田市と合併して、財政は足助単独のときに比べ潤った。農村舞台を維持することも怒田沢だけでは無理で、H自治区全体で何とかならないか考えているが、宝栄座や歌舞伎の維持は自治区としてやることなのか、色々意見がある。H自治区の将来を考える上で、宝栄座や歌舞伎とかを続けるかも考えなければならない。H自治区の取り組みが、まとまってできなくなっている。H自治区は、中心部に近い、A町に住居がたくさんできたという、地域よりも行政の仕掛けでこれまでやってきた。一方で、H自治区という1つの自治区が築いてきたものもある。区長が日々月々やってきたこと、これもなくしていいことではない。将来を語るためには、過去のことと、現状の認識が必要である。昔は自治会長も見識のある人がやっていたが、今は、それがない。まわり番で、区長など上から言われたことをこなしているだけになっている。それをしっかりしたい。

(E) 金の面では、市は応援している。しかし、やる気のあるところに、金だけ渡して、後は自分たちでやれという形になっている。昔は色々な役が連携していた。しかし、今、年寄りだらけなところで、自分たちでやれと言われてもできない。

(G) 昔は、H自治区小学校は足助で2番目の学校だった。それが数年後は21人。それを

何とかしなければいけない。若者を入れる。

(F) 国は田舎をつぶす動きになっている。子供が増える施策をしなければならない。抜本的な改革をしないと、いくら町の人になにをやってもだめ。実際に給食費を削減して人口が増えている地域もある。

(C) 3月まで定住対策委員会、地域会議の代表をしていた。そこで、2戸2戸作戦で、田んぼを提供してくれないかと言われて、使っていないから良いよと提供した。若い、子供が作れる人に入ってもらって、1人でも増やしたい。A町では、田んぼを宅地にしている。これが他の場所でも増えないと、子供が減ってH自治区の歌舞伎もなくなる。H自治区が少しでも人口的に潤う作戦を考えなきゃいけない。

(E) B町に夫婦2人で住んでいる。B町はもうだめだという思いがあり、子供は彼女ができて、町に家を建てた。B町も年寄りばかりになって、その衆は昔からの慣習で住めばいいが、新しく人が入るのは考えられない。自分らの年代の人が年くった時が大変。

(G) E町でも、結婚してから20年ぶりに子供ができた夫婦がいるが、子育てには嫌だといって、出て行ってしまう。1人暮らし、夫婦2人暮らしが多い。2人暮らしでも、1人減ったら、1人暮らしになる。

#### (ウ) 参加者による意見交換

(B) H自治区では老人会も解散して、子供だけでなく年よりもまとまりがない。敬老会は75歳以上が参加できるが、参加者が少ない。参加しない人はいくつになってもでてこない。旭では200人以上参加可能者がいて、70人も参加する。子供の話だけでなく、高齢者の問題を考えていく。区長をやった人は分かると思うが、H自治区はまとまりがない。敬老会は75歳以上が参加できるが、75から80歳の人には参加しない。80歳以上の人には亡くなっていて、どんどん減っていく。

(D) (敬老会は) 以前使っていた場所が閉められて、どこでやるかとなって、金がないから、運動会などにくっつけて、昼にやった。(敬老会に) 旭では女性が参加するが、H自治区では参加しない。

(C) 以前は自治会長など地域の人が送り迎えをした。前の場所は送迎バスがあった。今は無い。

(B) 酒をやめたから、参加しなくなった。酒を出して送り迎えをすれば参加する。以前に小学校でお酒を出して実施したら、学校から怒られた。1年目は酒を出したが、2年目は学校で酒を出さなくなった。そうすると、参加者から文句が出てきた。

(F) 若い人と年寄りだと、一緒に住んでもご飯や洗濯を別に行ったりする。敬老会も、年寄りと若い人がご飯食べる場を分ける目的もあった。

(B) 敬老会をやめたのは残念。これから年寄りばかりだから、20人でも続けて欲しい。

(D) 敬老会復活にはどうすればいいのか。復活すれば横のつながりはできる。

(B) このままだと限界集落になって、年寄りだけになる。そうした時、年寄りを年に1回見てまわれないか、足助警察に聞いたが、人員がいない。自治区、会でやってもらうことに



なる。駐在がいた時は2年に1回くらい家をまわっていたが、今は全然。

(H) 菅生で銅鏡が盗まれた。警察の巡回もきた。

(B) 回覧板をまわすと言っていたが、一人暮らしの人は見ない。

**付録 C**  
**C 町懇談会資料**

## C.1 第1回懇談会募集資料

### C町ビジョン作成に向けた 「懇談会」のお誘い

#### 【懇談会の目的】

現在、H自治区では、近年の過疎・高齢化に伴う地域の変化に対応するため、新たな地域ビジョンの作成に着手しました。

この度その一環として、C町において、C町の地域ビジョン作成のための懇談会を実施させていただきます。懇談会では、C町の皆様が、ご自身の住まわられている地域の現状や、今後について議論することで、地域の目標を作っていくものになっております。

ぜひとも、ご参加のほどよろしくお願い申し上げます。

#### 【懇談会の概要】

##### ○第1回

日時：11月2日（水）  
19時～20時

場所：C町集会所

内容

- ・H自治区アンケート調査の報告
- ・C町の現状に関する意見交換

##### ○第2回

日時：11月9日（水）  
19時～20時

場所：C町集会所

内容


- ・第1回懇談会まとめの報告
- ・C町の将来の目標に関する意見交換

※参加は任意です。また、どちらか一方のみのご参加もできます。

#### 【問い合わせ先】

東京大学修士課程2年 赤城光春

電話： 

E-mail： 

## C.2 第3回懇談会募集資料

### C町ビジョン作成に向けた

### 「懇談会」のお誘い

#### [懇談会の目的]

現在、H自治区では、近年の過疎・高齢化に伴う地域の変化に対応するため、新たな地域ビジョンの作成に着手しました。

この度その一環として、C町の地域ビジョン作成のための懇談会を行わせて頂きます。懇談会は、地域の現状や、これからについて話し合うことで、地域の目標を作っていくものになっております。

#### [懇談会の概要]

##### ○第3回懇談会

日時：11月24日（木）、19時～20時

場所：C町集会所

内容

- ・第1回、第2回懇談会まとめの報告
- ・C町における将来の希望の実現方法に関する意見交換

※参加は任意です。初めての方もぜひご参加下さい。また、世帯の代表者に限らず、多くの方にご参加頂ければ幸いです。

#### [お問い合わせ先]

東京大学大学院修士課程2年 赤城光春

電話：

E-mail：

## 第1回、第2回懇談会の概要報告

11月2日、11月9日の2回に渡り、C町集会所にて、それぞれ1時間程度、地域のこれからの考える懇談会を実施させて頂きました。そこで、どのようなことが話されたかについて、報告させて頂きます。

### □ 第1回懇談会の概要（参加者7名）

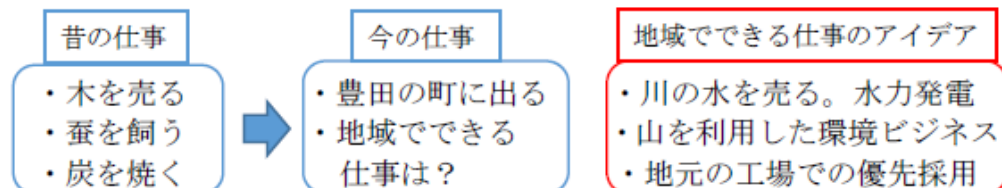
日時	11月2日（水）、19時～20時
場所	C町集会所
内容	・H自治区アンケート調査の報告 ・C町の現状に関する意見交換

#### [意見交換の概要]

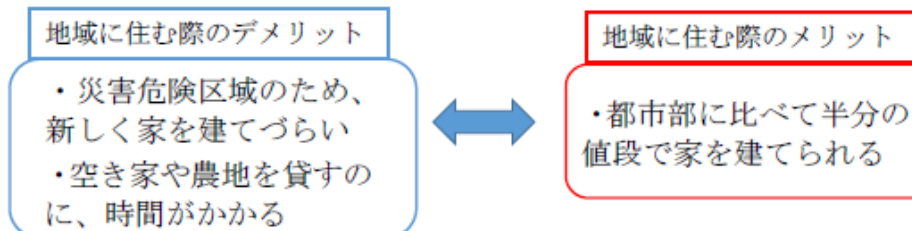
主なテーマ：何故地域に人が残らないのか？入らないのか？

現状：子どもが帰らない。次の代がいる世帯が少ない状況。

・理由1：仕事がないから。



・理由2：住む所がないから。



## □ 第2回懇談会の概要（参加者3名）

日時	11月9日（水）、19時～20時
場所	C町集会所
内容	・第1回懇談会のまとめ ・C町の将来の希望に関する意見交換

### 【意見交換の概要】

テーマ①：将来地域にどれくらいの人に住んで欲しいか？

希望：これ以上減らしたくない。10世帯残れば、なんとか維持できる。



↓ どういう人に来て欲しいか？

- ① 息子たちに戻ってきてもらえるなら、それが良い（Uターン）
- ② 他所の人でも、C町に興味を持って、なおかつ地域が受け入れられるような人が入ってくれるのも良い（Iターン）

テーマ②：高齢になった時、地域でどう暮らしたいか？

希望：ここを何とか維持したいなら、年寄りの良い遊び場を作る。



↓ どういう場が欲しいか？

- ・集会所や近所の家で、みんなが進んで集まれる内容のもの
  - ①ちょっとした楽しみになること
    - 集まってご飯食べて、その後、将棋やカラオケ
  - ②小遣い稼ぎになる活動
    - 地域にあるものを集めて売る（葉っぱビジネス）

その時の移動手段は？

- ・C町の中ならシニアカーで十分
- ・外へ出かける時は、集団でお迎えやワゴン車で送迎
- ・元気な人がマイカーで送迎、お返しにガソリン代や小遣い程度

テーマ③：C町の農地や山林、土地を将来どうするか？

希望1：災害が起きない状態にする。

希望2：別の使い方はできないか？

### C.3 第1回懇談会資料

## H自治区ビジョン作成に向けた アンケート調査結果

2016年11月

1

## ■ 調査の概要

### 目的

H自治区の家族、土地、家がどのようになるか、地域住民がH自治区をどのような地域にしたいかを把握して、今後の地域のあり方を検討するための基礎資料とすることを目的に実施

### 方法等

- ①調査対象：H自治区全世帯（220世帯、704人）
- ②調査方法：自治会長を通じた配布・郵送による回収
- ③調査期間：平成28年9月20日から10月16日まで

### 回収状況

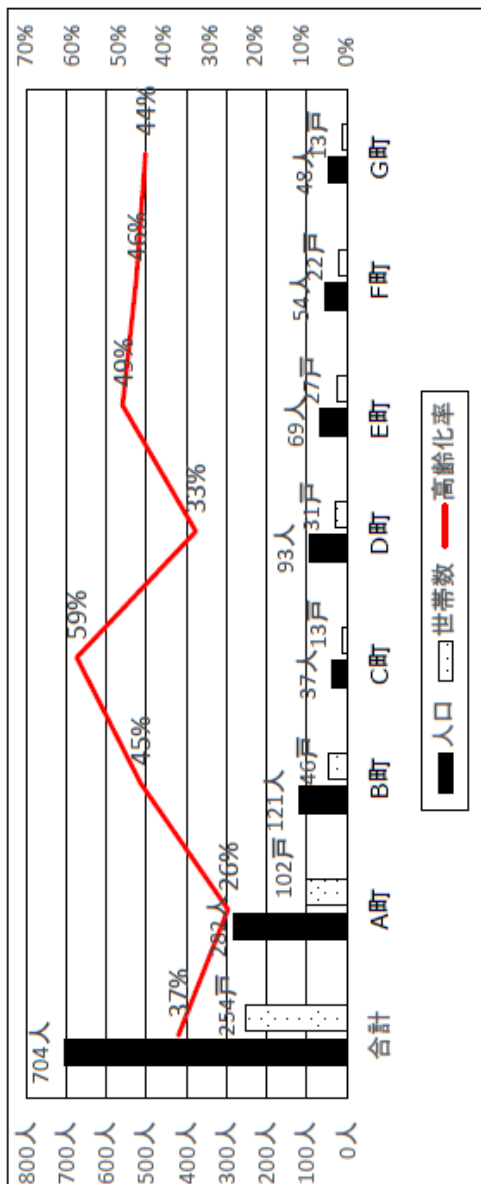
地区	配布数	有効回収数	有効回収率	地区	配布数	有効回収数	有効回収率
A町	282	103	36.5%	D町	69	40	58.0%
B町	121	78	64.5%	E町	54	20	37.0%
C町	37	29	78.4%	F町	48	27	56.3%
C町	93	55	59.1%	<b>全体</b>	<b>704</b>	<b>352</b>	<b>55.7%</b>



## 目次

1. 地区の人口と世帯の将来
2. 住まいの現状と将来
3. 農地と山林の現状と将来
4. 地域で取り組むべき課題に関する意見
5. 他地域や全国の様況

### 1-1 地区の人口と高齢化率（豊田市統計データより）

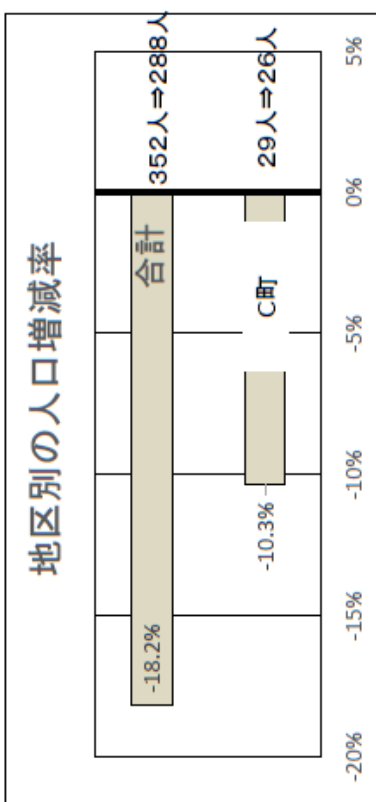


H自治区全体では、人口は704人、高齢化率は37%である。半分以上の自治会は、100人以下で高齢化率も40%を上回る。

### 1-2 地区の人口の増減（アンケート結果から）

アンケート結果によると、**H自治区の人口は、10年間で18.2%減少**することになります。人口減少が進行しているのは、

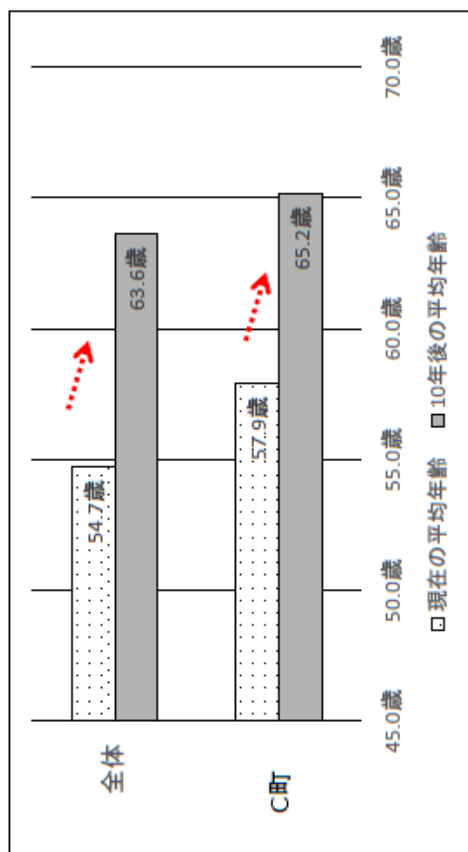
- ① 自治区外への転入者に対して、若者や高齢者などの転出・転居者が上回ること（**人口の社会減少**）
  - ② 加齢等に伴う死亡数が、新しく生まれる子供の数を上回ること（**人口の自然減少**）
- の2つが原因となっています。



※現在から10年後の人口の増減を示しています。

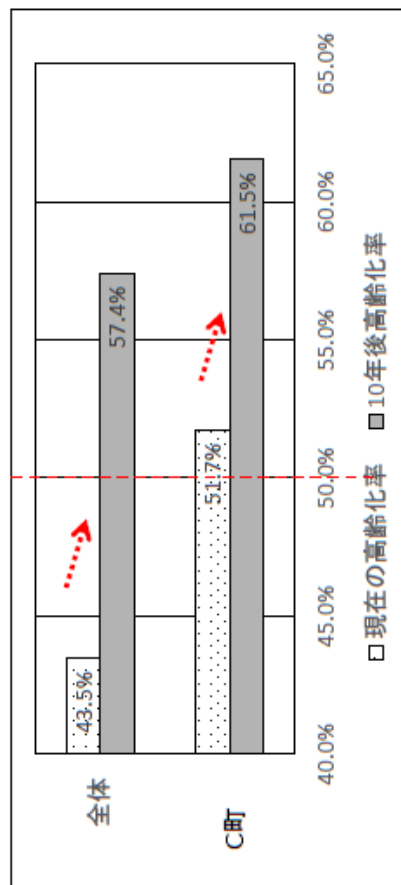
### 1-3 地区の平均年齢の現在と10年後(アンケート結果から)

H自治区全体で平均年齢が大きく上昇すると予想されます。  
若年層の自治区外への転出・転居が大きく影響しています。

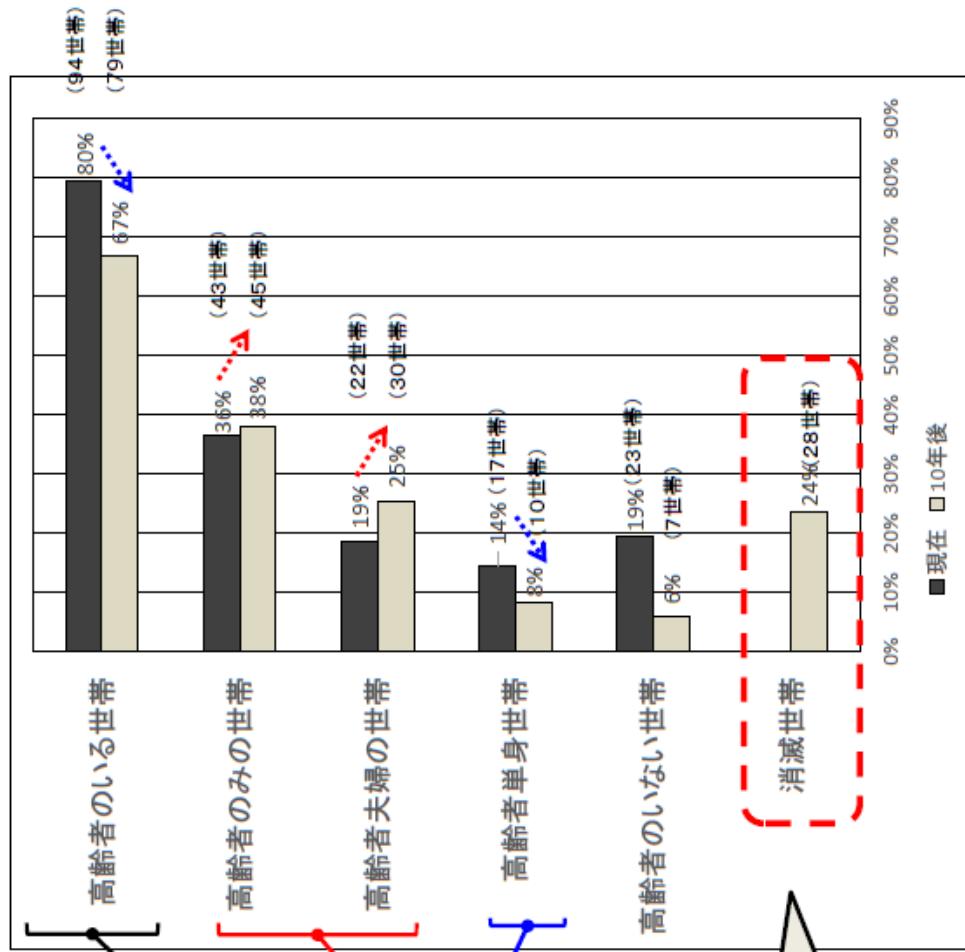


### 1-4 地区の高齢化率の現在と10年後(アンケート結果から)

自治区全体での高齢化率は、10年後に約13ポイント上昇して、**半数以上の人が高齢者**になります。  
高齢化率が50%を超えるような自治会も少なくなありません。



### 1-5 高齢者の有無からみた世帯の状況変化



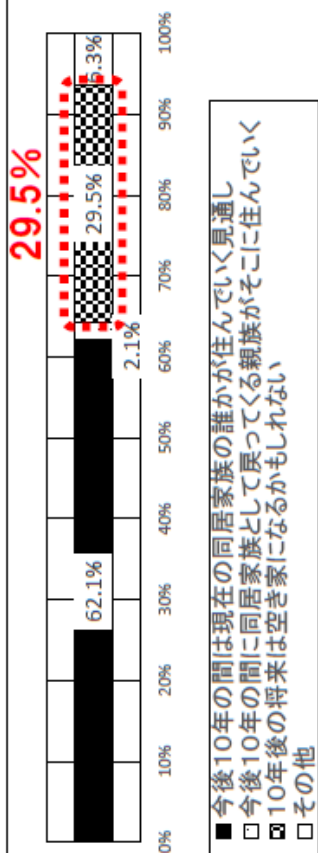
「高齢者のいる世帯」は減少していきます。  
 その一つの形態である「高齢者単身世帯」も減少しますが、高齢者単身世帯の予備軍ともいえる「高齢者夫婦世帯」が増加します。

10年後には世帯そのものが無くなってしまふケース(消滅世帯)が24%(118世帯のうち28世帯)発生することが予想されます。

## 2-1 住まいの現状と将来

10年後には、**持ち家の29.5%(28戸)**が**空き家**になることが懸念されます。

将来の家屋についての  
考え



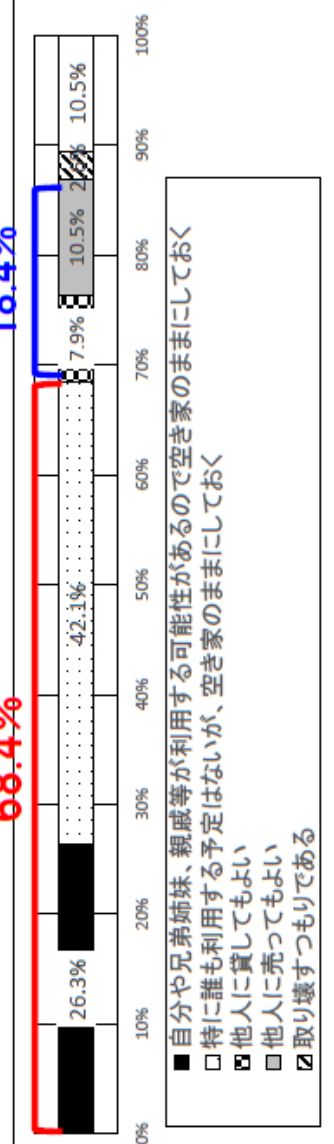
- 今後10年の間は現在の同居家族の誰かが住んでいく見通し
- 今後10年の間に同居家族として戻ってくる親族がそこに住んでいく
- ▣ 10年後の将来は空き家になるかもしれない
- その他

## 2-2 空き家の管理の考え方

空き家になることが懸念される家屋(38戸)の内、「**空き家のままにしておく**」が**68.4%(26戸)**を占めています。一方、「貸してもよい・売ってもよい」は、18.4%(7戸)。  
**空き家は増えても、その活用が進まないことが懸念されます。**

「**空き家のまま**」 「**貸してもよい・売ってもよい**」  
68.4% 18.4%

空き家の管理方法

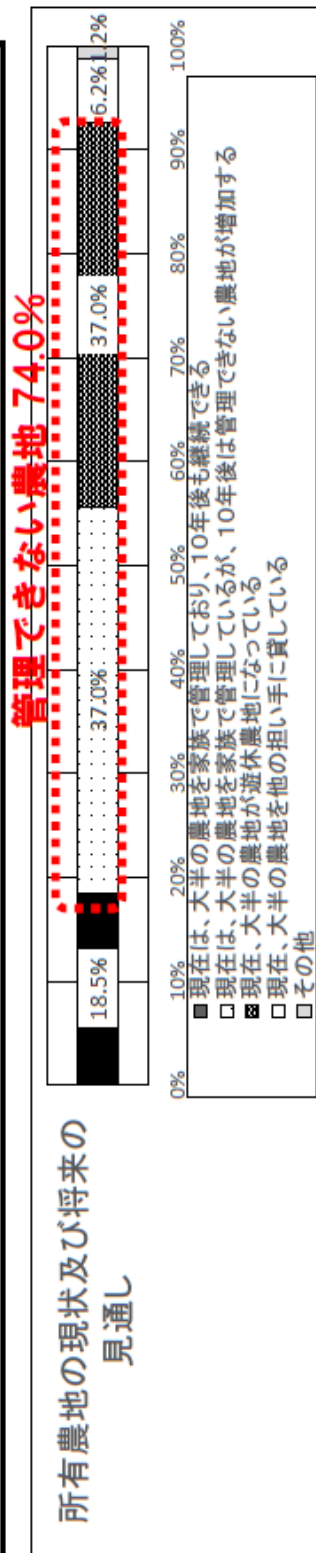


- 自分や兄弟姉妹、親戚等が利用する可能性があるので空き家のままにしておく
- 特に誰も利用する予定はないが、空き家のままにしておく
- ▣ 他人に貸してもよい
- 他人に売ってもよい
- ▣ 取り壊すつもりである

### 3-1 農地の現状と将来

10年後には、農地を所有している世帯の合わせて74%が「管理ができない農地が増加する」や「現在、大半の農地が遊休農地」と回答。

各世帯では管理できなくなる農地が大幅に増加することが予想されます。



### 3-2 世帯で耕作できなくなった農地の今後の考え

「売却も貸付もしない(耕作放棄地のままにしておく)」が50%と最も多くなっています。

次に「親戚や集落の身近な人に貸す」など何らかの方法で保全したい人が44%いるため、集落営農や都市住民への貸付などの仕組みが整うことで、農地の流動化が期待されます。

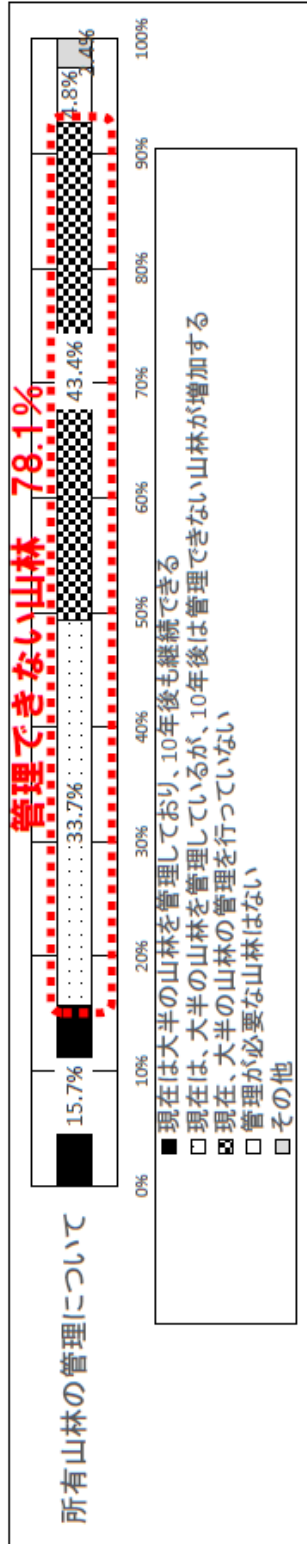




### 3-3 山林の現状と将来

10年後には、山林を所有している世帯の合わせて78.1%が「管理ができない山林が増加する」や「現在、大半の山林の管理を行っていない」と回答。

各世帯で管理できなくなる山林が大幅に増加することが予想されます。

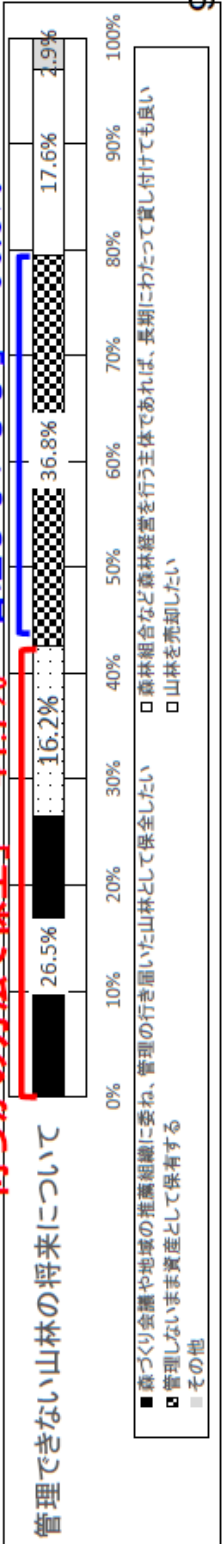


### 3-4 世帯で管理できなくなった山林の今後の考え

管理できなくなることが懸念される山林があると回答した68世帯のうち、「管理しないまま資産として保有する」という回答は36.8%(26世帯)にとどまっています。

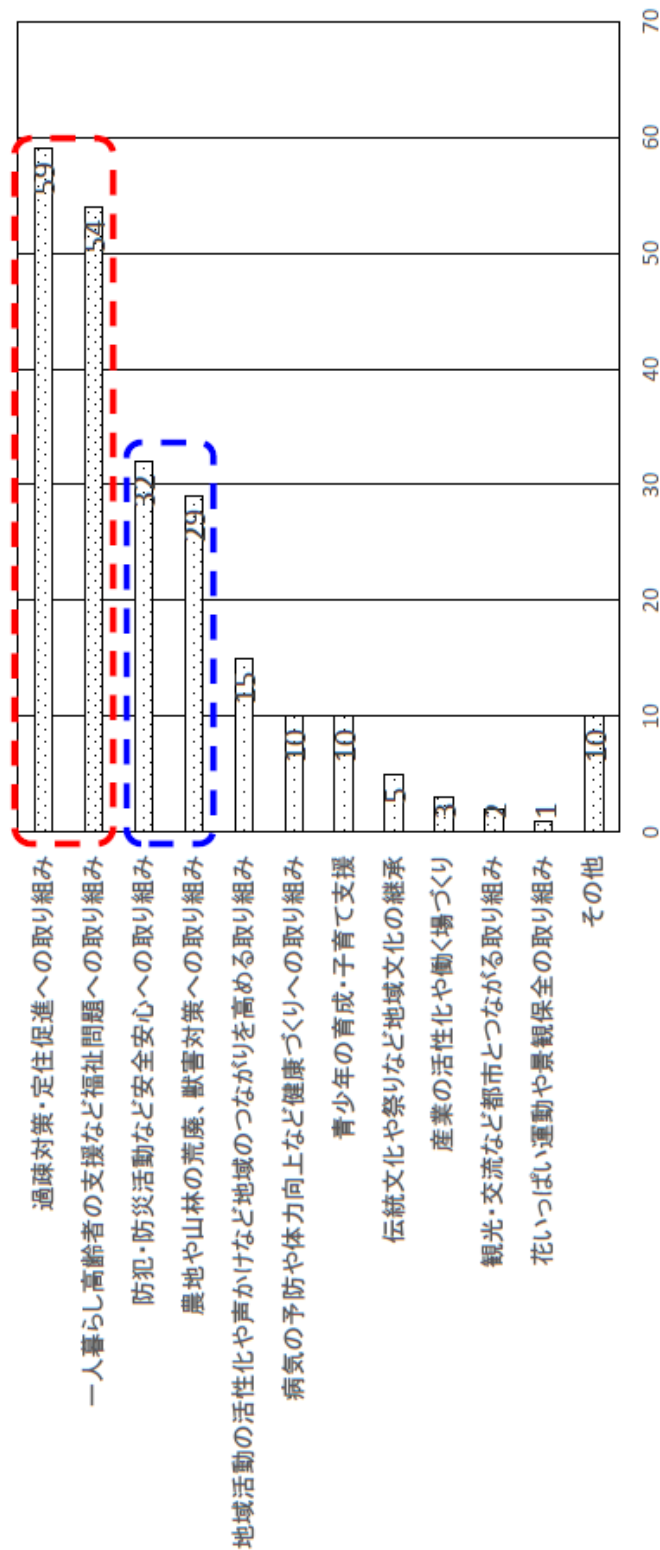
一方、「森づくり会議や地域の推進組織に委ね、管理の行き届いた山林として保全したい」など何らかの方法で保全したい人は、41.7%いるため、農地と同じく仕組みが整うことで流動化が期待されます。

「何らかの方法で保全」 41.7% 「管理しないまま」 36.8%



## 4-1 H自治区において取り組むべき課題（アンケート結果から）

「過疎対策・定住促進への取り組み」、「一人暮らし高齢者の支援など福祉問題への取り組み」、など過疎化、高齢化に伴う問題への解決が上位にあがった。また、「農地や山林の荒廃、獣害対策への取り組み」、「防犯・防災活動など安全安心への取り組み」など地域性が現れる項目が上位にあがった。





## 4-2 アンケート調査、聞き取り調査で得られた意見①

### 地域で取り組むべき課題に関する意見

#### 過疎対策・定住促進

・人を増やすっていうことがまず先決だと思っんですよ。そのためにも今豊田市が取り組んでいる空き家バンクだとか、ああいうのなんですけど。

・外から入ってきて受け入れられる体制ができるかっていうとそうでもない。他人が入るのを嫌がる感じがするなあ。常会で金を集めるにしても、他人が入ってきてやっていけるかというところでもない。

・これから空き家が増えてくるなら、それを活用したいと思う。

・家にいる子達、結婚して同居している子達が、出て行った子達に声をかけてどうだ、っていう話をしてみたいねってことを話してみたりね。

#### 一人暮らし高齢者など福祉問題

・高齢になると運転ができなくなる。でも食材は必要だと。それなりに、来るじゃないですか、移動販売が。あれをもう少し充実させないと困るわね。

・敬老会をやめたのは残念。これから年寄りばかりだから、20人でも続けて欲しい。

## 4-2 アンケート調査、聞き取り調査で得られた意見②

### 地域で取り組むべき課題に関する意見

#### 防犯・防災活動など安全安心

- ・こんな山あいだから、自分の家の裏山もすぐ崩れちゃう、きたらすぐ崩れちゃう。家自体も古い家が多いので。そういう中での避難だとか、それが今しつかり決まっていなと思うんで、年寄り足腰が弱い人はここまですべて避けてこいってのも大変だし。
- ・豊田でも危険だから注意しましよっていうマップはあると思うんですけど、ほとんどがその区域にはまると思うんで。

#### 農地や山林の荒廃、獣害対策

- ・今もう、田んぼも荒れちゃってねえ。段タイノシンの住みかになってきちゃった。
- ・休耕田(畑)等が多くなっている。宅地を多く整備したり、農作業の好きな人に貸してはどうか。

#### そのほかの意見

- ・地区の行事に対して、役員の負担が増えてきたんじゃないかなあ。勤めながらやると大変だしね。
- ・要するに若い人がいないから、一緒にやる行事が先細りだわな。草刈やるんだけど、もう年寄りばかりだから嫌だと言うんだよね。

# 5 他地域や全国の状況

## 高齢化に伴う問題の一例

ある高齢者が、あるとき、ある町に「移住したい」と思いました。町は、町民の約半分が高齢者で、町民の約半分が女性で、町民の約半分が65歳以上で、町民の約半分が健康で、町民の約半分が収入が少なく、町民の約半分が収入が多くなかった。



### 高齢者コミュニティ

町民の約半分が高齢者で、町民の約半分が女性で、町民の約半分が65歳以上で、町民の約半分が健康で、町民の約半分が収入が少なく、町民の約半分が収入が多くなかった。

## 銀の靴を探そう

2023年 衣類と生活のつくり

## 移動手段 交流の懸け橋



町民の約半分が高齢者で、町民の約半分が女性で、町民の約半分が65歳以上で、町民の約半分が健康で、町民の約半分が収入が少なく、町民の約半分が収入が多くなかった。

町民の約半分が高齢者で、町民の約半分が女性で、町民の約半分が65歳以上で、町民の約半分が健康で、町民の約半分が収入が少なく、町民の約半分が収入が多くなかった。

## 空き家の増加に伴う問題の一例



空き家の持ち主に自治体が指導や命令ができる「空き家対策特別措置法」が施行された。持ち主に管理をうながすが守らない。住宅の7割に1軒は空き家と見られる時代に、どのように管理すればいいのだろうか。

## 放置で火事や損害賠償の危険

# どうする空き家管理

大都市中心部からの通勤時間や1時間以上の住居地に住む人は、長年勤めた会社を退職し、退職金をもらい、子どもがほとんど独立している。父親は健在、母親は介護施設に入所。田舎地にある築30年以上の家は空き家状態になっている。

「誰が来るのか」「火事になったらどうするか」を心配する。空き家は空き家として管理する。空き家は空き家として管理する。空き家は空き家として管理する。

### 早い対策が大切 自治体で支援も

押しこまじ、住む人がいない。空き家は空き家として管理する。空き家は空き家として管理する。空き家は空き家として管理する。





## C.4 第2回懇談会配布資料

### C町第2回懇談会

- ① 第1回懇談会の報告
- ② 第2回意見交換会のテーマ

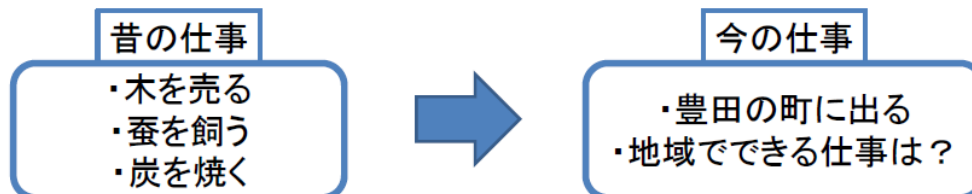
2016年11月 1

### ■ 第1回懇談会の内容

主な話題: 何故人が残らないのか? 入らないのか?

現状: 子供が帰ってこない。13戸の内、3戸でしか跡継ぎがない状況。

⇒理由1: 仕事がないから。



#### 地域でできる仕事のアイデア

- ・山を利用した環境ビジネス(二酸化炭素排出量の削減)
  - ・川の水を売る。水力発電。
  - ・地元の工場での優先採用。

## ■ 第1回懇談会の内容

主な話題:何故人が残らないのか?入らないのか?

⇒理由2:住むところがないから。

### 地域に住む際のデメリット

- ・災害危険区域のため、新しく家を建てづらい。
- ・空き家や農地を貸すのも時間がかかる。

### 地域に住む際のメリット

- ・都市部に比べて半分の値段で家を建てられる。

3

## ■ 本日の懇談会について

### 本日の懇談会の目的

C町にお住まいの皆様が、地域の将来を考え、今後の地域の方向性を明らかにすることを目的に実施します。

### 本日の懇談会のルール

- ① 提示したテーマについて、意見交換を行う
- ② 実現性に関わらず、自分の思う地域の将来への希望を話す
- ③ ほかの人の意見を否定しない

4

## テーマ① C町に将来住む人について

### テーマ①

C町に将来どのくらいの人に住んでいて欲しいか？

- 何人くらい？何世帯くらい？
- どのくらいの年代の人？
- どういった人？地域の人、他所の人？

5

## テーマ② 高齢になった時の地域での生活について

### テーマ②

高齢になった時、C町でどう暮らしたいか？

- 地域への関わり方は？行事、係はどうする？
- 移動手段は？マイカー、送迎、バス？
- どういう人と交流をしている？地域の人、家族？

6

### テーマ③ 農地や山林の将来について

#### テーマ③

将来のC町の農地や山林がどうあってほしいか？

- 農地や山林の状態は？現状維持、別の使い方？
- 獣害はどう対処されている？
- 誰が管理している？

7

### テーマ④ そのほかのC町の将来の希望について

#### テーマ④

そのほかのC町の将来の希望はあるか？

- C町がこうだったらいい
- C町をこういう地域にしたい

8



## C.5 第3回懇談会配布資料

### C町第3回懇談会

- ① 第2回懇談会の報告
- ② 本日のテーマ決め
- ③ 本日のテーマに関する意見交換

2016年11月 1

### ■ 第2回懇談会の内容

テーマ①: 将来地域にどれくらいの人に住んでいてほしいか?

現状: 子供が帰ってこない。13戸の内、3戸でしか跡継ぎがない。  
田舎だけでなく、都市でも人が減っている。

希望: これ以上減らしたくない。10世帯残れば、何とか維持できる。

↓ どういう人に来て欲しいか?

- ① 息子たちに戻ってきてもらえるなら、それが良い。(Uターン)
- ② 他所の人でも、C町に興味を持って、なおかつ地域が受け入れられる人が入ってくれるのも良い。(Iターン)

2

## ■ 第2回懇談会の内容

### テーマ②: 高齢になった時、地域でどう暮らしたいか？

希望: ここを何とか維持したいなら、年寄りの良い遊び場を作る。

↓ どういう場が欲しいか？

- ・集会所や近所の家で、みんなが進んで集まれる内容のもの
  - ① ちょっとした楽しみになること
    - 集まってご飯食べて、その後将棋やカラオケ
  - ② 小遣い稼ぎになる活動
    - 地域にあるものを集めて、売る

移動手段は？

- ・C町の中ならシニアカーで十分
- ・外へ出かける時は、集団でお迎えやワゴン車が送迎
- ・運転できる人が車で送迎、お返しにガソリン代や小遣い程度

3

## ■ 第2回懇談会の内容

### テーマ③: C町の農地や山林、土地を将来どうするか？

希望1: 災害が起きない状態にする

↓ どう管理するか？

- ・森林組合による山の整備

希望2: 別の使い方はできないか？

↓ どういう使い方がある？

- ・川を利用した水力発電
- ・災害防止や二酸化炭素の削減等の山の特性を活かすこと

4

## ■ 本日の懇談会について

### 本日の懇談会の目的

前回の議論で得られた将来の希望を、どうすれば実現できるかを明らかにすることを目的に実施します。

### 本日の懇談会の方法

- ① 地域で実現できそうな項目の決定
- ② 地域で実現する方法の意見交換

5

## ■ 第3回懇談会の内容

下記の前回の話し合いで得られた将来の希望について、地域で実現しやすそうだと思うものを2つまで選択して下さい。

分野	c町の将来の希望
人	①地域出身者のUターンの促進
	②c町に興味を持ってくれる外の人への受け入れ
生活	①地域の人を楽しんで集まれる場づくり
	②バスに替わる地域の人への足づくり
土地	①災害が起きないような山林の管理
	②水力発電など土地の新しい活用

6

## ■ テーマ① 地域の人を維持するには？

① 地域出身者のUターンを増やすにはどうすればいいか？

- 出身者が地域との関わりを増やすには？
- 住まいはどうする？

② 地域の外から住んでくれるターンを増やすにはどうすればいい？

- 外の人がC町のことを知るには、どうすればいい？
- 実際にC町に来て、見て、知ってもらうには？

7

## ■ テーマ② 高齢者に魅力ある地域にするには？

① 地域の人を楽しんで集まれることは？

- みんなで集まって何をしたい？
- どこでする？
- いつがいい？

② 家族に限らず、地域の人同士で送迎するには？

- だれが送迎する？
- どうやって頼む？
- お返しはある？

8

### ■ テーマ③ 農地や山林、地域の土地をどうしていくか？

① 災害が起きないように管理するには？

- どこを管理する？
- どうやって管理する？

② 地域の農地や山林、土地の別の使い方は？

- 地域でできる使い方は？

## C.6 第4回懇談会配布資料

### C町集落ビジョン

目指す  
目標

- ・地域出身者や、町外の人が訪れやすい地域
- ・高齢者が、楽しんで集まれる場がある地域
- ・災害がないよう山林が保全され、自然環境が活用されている地域

#### 取り組み1 地域人口の維持に向けた取り組み

取り組みの目的	具体的な活動
地域出身者への行事などへの呼びかけや、町外の人へのC町の情報発信により、地域への定住を促進します。	① 地域出身者への行事などの呼びかけ ② 町外の人へのC町の情報発信
取り組みの方法	
① C町でのイベントの際に、地域出身者へ連絡をして、参加を促す。 ② H自治区でのイベントに絡めて、インターネットなどを用いて、町外の人に向けて、C町の情報を発信する。	

#### 取り組み2 高齢者が楽しんで集まれる場づくり

取り組みの目的	具体的な活動
定例会等の日常の交流に加え、負担の少ない、楽しんで集まれる場を作ります。	① C集会所での食事会やカラオケ会などの実施
取り組みの方法	
① C集会所で昼間に、みんなが集まり食事やカラオケができる会を企画・実施する。	

#### 取り組み3 自然環境を活用した取り組み

取り組みの目的	具体的な活動
災害が起きないように、山林を管理する。また、使わない土地や農地、山林の有効活用を行う。	① 災害防止のための森林保全 ② 農地や山林など自然の新しい活用方法の検討
取り組みの方法	
① 地域での山林管理の方法の検討 ② 地域でできる土地の活用方法の検討	

## C町第4回懇談会

- ① これまでの懇談会のまとめ
- ② C町ビジョンに関する意見交換
  1. C町ビジョンの内容の確認・修正
  2. C町ビジョンの実現体制の確認

2016年12月

1

### 1. ビジョン作成までの経緯

第1回懇談会 目的: 地域の問題を理解すること

アンケートから見えてきた地域の問題点

- ① 人口減少: 今後10年間で10%の減少が予想
- ② 高齢化: 地区の平均年齢が上昇  
高齢者のみの世帯が増加
- ③ その他: 空き家・耕作放棄地の増加

意見交換で話が行われた地域の問題点

- 人口減少: 何故、地域に人が残らないのか? 入らないのか?
1. 地域でできる仕事の減少
  2. 新しく家を建てることの難しさ

ビジョンの中身

第2回懇談会 目的: 地域の目標を決定すること

① 人口が減少していく地域をどうするか?

目標: 10世帯残れば、地域を維持できる。

1. 地域出身者のUターンの促進
2. 町外の人へのC町への勧誘



② 高齢者が増えた地域でどう暮らす?

目標: 年寄りの良い遊び場を作る。

1. 集会所に集まり、食事をして、カラオケなどの娯楽ができる場所づくり



③ 地域の土地をどう管理・活用していく?

目標①: 災害が起きない状態にする

目標②: 余った土地を有効活用する



第3回懇談会 目的: 地域の目標の達成方法を明らかにすること

1. 地域出身者のUターンの促進
  - ・地域での行事の際に連絡をして、参加を促す
2. 町外の人へのC町への勧誘
  - ・宝栄座でのイベントに絡めて、C町の情報発信

1. 集会所に集まり、食事をして、カラオケなどの娯楽ができる場所づくり
  - ・はじめは簡単なことを週1回、少人数でもやりはじめる。だんだん関心を持つ人を増やしていく。
  - ・時間や場所: 昼にC町集会所

③の達成方法は検討が必要

2

## 2.1 本日の懇談会について

### 本日の懇談会の目的

- ① C町ビジョンが地域の目標として、ふさわしいか確認・修正を行います。
- ② C町ビジョンの具体的な実現に向けた体制を確認します。

## 2.2 ビジョンの内容の確認・修正

- ・自分たちが思い描く地域の将来が実現できるか？
- ・自分たちで実際にできる内容になっているか？

## 2.3 ビジョンの具体的な実現に向けて

- ・どのような体制で行うのか。各自で行うのか。地域全体で行うのか。
- ・これまでの懇談会に参加していない人にどう協力を得るか。
- ・それぞれの目標を誰がどういう役割を担っていくのか。



**付録 D**  
**懇談会の議事録**

## D.1 第1回懇談会議事録

1. 日時：2016年11月2日(水)19時から20時15分

2. 場所：C町集会所

3. 参加者

(ア) C町住民：Ah, Aw, B, C, D, E, F

(イ) 東京大学：研究員 N, 著者 M

参加者は世帯毎に番号を付ける。夫には番号末尾に h を、妻には番号末尾に w をつける。第2回以降の参加者の番号は、第1回と同じ人物を示す。

4. 第1回懇談会の流れ

(ア) はじめの挨拶

(イ) H 自治区アンケート結果の報告

(ウ) C町住民による意見交換

(エ) 第1回懇談会のまとめ

5. 議事録

はじめに東京大学の研究員 N 及び著者より、参加者に対して自己紹介及び会の趣旨の説明を行う。その後、H 自治区アンケートの結果に関して、C町の現在と将来の問題点について、報告を行った。報告後 C町の問題点について C町住民による意見交換が行われた。

(B) 赤ん坊なんか双子が生まれてから生まれてない。C町は50歳で打ち切りなもんで。大体そういう子供を作る若い人がいないんだもん。

(E) まあ無理だわな。

(B) だけど、簡単だよこんなの、自分とこの長男つれて帰ればいい。

(Aw) 自分のとこの子供を連れて帰ってから言いな。

(B) でも皆帰ってこん。魅力がないから。

(C) ほんなん、ここで仕事があって生活が出来りゃあ。自然があって、空気も良い。

(B) (息子は) 足助地内に良い仕事があれば、いつでも帰って良いって言うてる。でも、来ても仕事がないのに困っちゃう、来たら消防の用や、土日はお役だなんだで入って、何にも魅力がない田舎なんか。どうして来ないかを研究しなきゃいけない。困ることは自動車に乗らなきゃいけない。高齢者になったら事故を起こしちゃう。前も高齢者の認知症の人の事故があった。

(Aw) 今、工場があるじゃないですか、地元優先で採用してくれないか。

(B) 自分が行きたいところに就職できるようになればいい。

(Ah) 今でさえこんな状態だけど、昔はトヨタ自動車が足助に工場建てさせてくれてい

ってきたけど、昔は山とかで稼げたから、断った。他にもゴルフ場やら話はあった。だから、今仕事がなくて無理もない。政府が良くするために補助金だしても、金だしたらそのまま。

(B) 国じゃなくて責任は子供を他所に出した、自分たちにある。この人 (C) みたいに山だけで生活してる人もある。

(C) そんなんじゃないよ。

(B) 山の木を切って、それで生活してる。田舎の典型的な暮らし

(Ah) 道楽じみた執着はある人をいるけど、普通に山仕事をして赤字みたいなもんだ。

(D) 今ねえ、山の価値は下がってる。

(B) この人は山を切ってそれで生活している。

(C) 山だけで生活できるわけない。800 m<sup>2</sup>で800万売上があって、切り出しで400万残った、その後、鹿対策や人手をいれると100万しか残らない。たったの100万だ。一町歩を植林して、一人前にするのに300万かかる。そんなんやれるわけない。

(D) どんな産業でもそうだけど、自分の体だけでできなくて、機械が必要で、道具を買ったら、利益が出るかも分からんぞ。

(C) 親父が残した道具を使えばやれるが、新しく買ってやるのはとてもじゃないが、どうしようもないねえ、山も持っているだけで。

(B) 自分は山作業する技術もないから、放っておいて、ひどいことになってる。山を整備しても鹿がまたあらしちゃう。

(Ah) ニホンカモシカなんかも害獣だけど、国が保護してる。ある程度増えれば、保護なんかやめちゃえばいい。

(E) 昔は山で皆生活していたけど、今じゃそれも成り立たなくなってきた。

(Ah) 昔は現金収入を得るには、山を売る、炭を焼く。蚕を飼う。でも今できなくなっちゃった。

(B) ここらは、水田がない。あっても少ないもんで。まず、山収入が70%くらいだ。

(Ah) この部落で田んぼだけで収入得ようなんて無理。

(F) 今、田舎で稼ごうと思ったら、水と山を絶対利用しなきゃいけないんだわ。水はきれいな水があるもんで、売ればいいんだよ。水道が通ってるんだから、もっと高く売れば良い。水は山があって、山を通ってきてる、山を誰が管理しているかっていうと、地主が持っている。山は二酸化炭素を減らす効果がある、企業にその山をそれだけ売ると、山はその分だけ二酸化炭素を減らすことになる。そういう方法を考えたら田舎もばかにならんもんだよ。

(Ah) やってたじゃないか。トヨタが水源基金だかなんかかって。

(F) われわれに還ってこない。市がもっていつちゃってる。そしたら、年食ってからでもなんとかやっていける。駄目？そういう考え方。いいと思うんだけどな。二酸化炭素の件、4、5年前は企業に人が入って、その人にお金を渡してる。山を売るのもそれと同じだと思う。

(Ah) 富士山の水だって、消毒して売ってる。ここでも同じことをしなきゃいけない。

(E) 現実として、子供が返ってきて、新しく家を建てられない。豊田市の決めた急傾斜地に含まれているから、新しく建てられない。地域によっては増築もだめ。改築ならいい。

(C) 家を建てる時確認申請を出さなきゃいけない。金を公庫でやるとわかるが、自分の資金でやれば、そんなのわからない。

(Ah) 今この部落で13戸。決まっている所が3軒あるけど、それ以外は全部子供が出て行っている。ほとんどのところは帰ってくるかどうか分からない。

(B) 仏壇の始末とお墓の始末をやってくれるか心配。

(C) 息子はいい。孫はどうなるか分からん。小学校でとるくらいが一番いい。

(Aw) ここで育った子は50代くらいになると、定年も近くなるし、そろそろ戻った方がいいかなあという感情が、でてくる。まだその考えが残っているけど、孫になると分からない。ここで育っていない人は他所に出て住んじゃうのが現実。

(Ah) 家を貸すといっても住む人がいない。

(E) 山もね、いいところは農地として使ってる。皆家はもう石垣積んで、家を建てている。ここのA町は住宅用地に向いている所なんだけど、地主は手放さない。安くなっているから、売らない。

(Ah) 今小学校の人数も減っていて、他所からの人を増やそうといっているけど、いざとなると売らない。

(E) でもね、今おかげさまでA町で農地をやめて、宅地にします、って言う人がでたんだけど、それでも5年、家が建つまで、まず入りたい人を募集をかけて、地域に懇談会を開いて地域にこういう人を呼びたいんだけどどうですかっていうまで5年。

(Ah) A町は足助の町に近いけど、ここは遠いから。

(C) 今は足助の町の中でも空き家が増えているっていうし。

(B) 商店街がシャッター閉めているのが問題。

(E) 今住宅を建てる家を買うにしても、都心部だと3,4千万。H自治区だと2千万でできる、半分。土地が400万、家が安い家なら1200万で家が建つ。仕事場も豊田があるから、通おうと思えば通える。今そういう若い人を呼び込むことを一生懸命やっているんだけど、なかなかスピードが遅い。都市部は土地が高いからね、通勤に1時間かけると思えば、2千万で家が建てられる。

(Aw) 昔は足助支所は土地の人だけだったけど、今は足助支所も、全然足助町の町を知らない人ばかり。対応を見ていると気の毒なかんじ。年寄りを見ているとわからないことばかりなのに、ここ行ってここ行ってと指示するだけで、やっぱり土地の人と都会の人だと差があると思う。田舎だと親切が一番大事。

(E) A町見るとそう思うね。まとまりが悪い。新しい住宅ができたでしょ。昔はまあまあでやっていたものも、今は仲間が集めづらい。寄付金も集めづらい。私も定住対策員ちよくちよくやっていて、今もやっているが、役所から良い返事を聞いて持っていくと、お金の単価の話を知ると、もういいやっていう。

- (B) 家を解体するにも 500 万くらいかかる。こんな狭い所機械が入ってこれないから。
- (E) 家を解体して更地にして売れるかっていうと、売れないよ。
- (Aw) ここでやっていける職業があればいいんだが、それがないから息子が帰ってこない。

## D.2 第2回懇談会議事録

1. 日時：2016年11月9日（水）19時から20時15分

2. 場所：C町集会所

3. 参加者

(ア) C町住民：D, E, F

(イ) 東京大学：研究員N, 著者

4. 第2回懇談会の流れ

(ア) 第1回懇談会の報告

(イ) C町住民による意見交換

- ① C町に将来どのくらいの人が住んでいて欲しいか
- ② 高齢になった時, C町でどう暮らしたいか
- ③ 将来のC町の農地や山林がどうあってほしいか
- ④ その他の将来の希望

5. 議事録

(ア) 第1回懇談会の報告

著者より前回の懇談会で話した内容について報告を行った。報告後、前回の内容について質問や意見を伺った。

(E) 以前報道で見た学者さんが言っていた。2030年には確実に4度は温度が上がりますと。町は夏場が大変ね、40度だよ、夏場。この辺は緑もあるから、若干はしのげるんじゃないか、と見ているんだけどね。家にも孫が6人いるけど、いつか帰ってくるかなと、ちょっとだけ期待はしとるんだけど。前に言ったように、危険区域ということで、新居を建てるのが難しいということで、内緒で建てちゃえばいいかもだけど。

前に名古屋に孫のお守りでちょっと行ったけど、夏場はえらいは、名古屋は。エアコン無しじゃ暮らせんもんね。この辺は、戸を開けとけば風が走るからね、エアコンは梅雨の時だけ欲しいくらい。湿気をとるために。それ以外ほとんど使うことない。そういうことはメリットがあるけどね。

(F) エアコンなんか使えへんもんね。錆びちゃってるで。

(E) 岡崎はまだまだけど、岡崎でも使わんと、生活できんな。

(F) 岡崎でも豊田でも（土地が）低い所は使わんとやれん。足助の町の中でも使わんとやれんと、言っていたくらいだから。

(E) 名古屋なんかちょっと厳しいよ。

(F) (町では) 扇風機を使う方が珍しい。

(D) ただ、それでも家の息子なんかくると、あったほうが良いつて言うもんね。うちらそれに慣れちゃってるから大丈夫だけど、都会の人は一定の温度になれているから。

(F) 使うやつは、子どもが帰ってきたときに使うだけだもん。家にいる人は使わない。

(E) メリットは温暖化に対応したあれかな。

(イ) C 町住民による意見交換

著者 M より第 2 回懇談会の目的と方法について説明を行った。配布資料にも記載したが、今回の目的は、「C 町にお住まいの皆様が、地域の将来を考え、今後の地域の方向性を明らかにすること」として、ルールとして、1. 提示したテーマについて意見交換を行う、2. 実現性に関わらず、自分の思う地域の将来への希望を話す、3. ほかの人の意見を否定しないということを説明した。

① テーマ 1 : C 町に将来どのくらいの人が住んでいて欲しいか。

(E) 日本の人口は都会でも若い人が減っている。田舎だけじゃないんだもんね、こういう人口減少は。でも、これ以上減らしたくないというのが本音だよ。成り行かなくなっちゃうもんね。

(D) やっぱり息子たちに戻ってきてもらえるもんなら、戻ってきて欲しいし。自分としては、他所の人っていうか、C 町に興味を持ってくれる人がいて、ここに住んでも良いつて人がいるなら、もちろんこちらも、そういう人と意見交換をしなきゃいけないと思うけど、そういう人にも入って欲しいとは思う。

(E) 自分の家だけじゃ難しいよな。

(D) よく世間の話聞くと、I ターンがあつて、U ターンするつていう話も良く聞くじゃん。なんか若い人がはいつているで、じゃあ自分も戻ろうかって。そういう風な形があるなら、これから（地域が）永らえる一つの方法かなつて思う。

(E) 3 年前までね、子供 3 人連れて若夫婦がここ（C 町集会所）の下におつたじゃんね。でも、学校とか、子育てするにはここじゃちょっと不便だからつて、今、岡崎の方に行つちやつた。でも、お祭りにだけは、関心持つて来てくれる。やっぱり愛着があるんだな。

(F) ここでやっぱり住んでいて、ここで生まれて 5 歳 6 歳までいると、そういう愛着はあると思う。たるいお祭りでもな、それでも来てくれるもんな、ずっと。

(E) 若い衆の言う話じゃ。表で星を見上げながら、一杯やるこのシチュエーションはいいなつて言う。だけど、学校問題。周りにそういう同じ様な世代の子がいないから。

(F) そうすると、今言つた、D が言つたみたいだね。C 町というか、田舎に愛着というか、田舎が好きな人とか、田舎との付き合いがしたいという気持ちのある人じゃない。町に住んでいてああいうごちゃごちゃしたのが嫌だから田舎に来たいというだけの人は、田舎との付き合いが非常につらいと思うし、俺たちが受け入れようと思つても、受け入れにくいんだわ、そういう人は。好き勝手なことするし。今でも町の連中が家の近くの山を買い漁つたりすると、そういう連中は地境を事細かにやるどころか、田舎の人だからいいやと言つて、地境のとんでもない中に入つてきたりだとか。そういうことを実際にやつているし。町から

来た人でも、例えば、ゴミを持ってきて田舎なら焼けばいいやって言って、ゴミを持ってきて焼いて、なおかつ火をつけたまま帰っちゃう人もいて。そんなことをしているやつがいて、そういうやつは本当受け入れにくくて、よっぽどよそ者は入れたくないって気持ちになっちゃう。やっぱり田舎が好きだっていう、この環境が好きだっていう、そんな気持ちを持った人なら色々付き合っただけで教えてあげて、田舎の付き合いもしなきゃならんし。田舎は結構奉仕作業のようなものが多いんだわ。今は、ほとんど土日になんかそういうことやるけど、通常の日になんかそういうことやろうとしてもまず出れる人いないからね。だから、土日は大概つぶされるから、それが嫌だという人もいるけれど。町から出てきて、そういうのから逃れるためにきて、何で土日でも作業しなきゃならんかって言う人は、まず田舎には住めない。

(E) まず、消防団。そして PTA。それでまず土日は潰れちゃうんだわ。ほとんど休みはない。

(F) 上の方の役をやると、土曜日はだいぶ潰れちゃう。学校関係とか、大体土曜日しかやらない。

(E) 消防団が県大会に行くなんていったら、平日の朝早く、仕事前に行ったもんだ。まあ大変だった。

(F) 今それがなくなって良かったなあ。

(D) こういうご時勢だし、少なくなったな。

(E) 今 13 世帯あるのが 10 世帯残ったら、何とか維持できるんじゃないかな。行政は、自治会はもう、合併しないとだめ。B 町も 3 つに分かれているけど、(B 町の) 下あたりと行政だけ合併して、お金は分けておけばいいから。そういう形じゃないと将来やってけない。

(F) 合併されるか、もしかすると吸収されるかもしれん。B 町の 4 班になるかもしれん。

(E) H 自治区でも 7 地域あるけど、合併が進んでくるかもしれない。行政だけな。C 町が一番少ないけど、G 町と F 町も駄目みたい。

(D) F 町は割と戸数多いんじゃない。

(E) 多いけど、年寄りが多いだ。他所者も来とるけど出て行っている。B 町も年寄りばかりだから、下手すると半分くらいになっちゃう。

(F) 何とか維持しようというのが、関の山でな、増やそうなんてとんでもない話かもしれんな。

(E) もう、無理無理。

(F) それだったらさ、前話したときみたいに、C 町に何とか、ここをなんとか維持したいと思うなら、もう年寄りしかおらんもんで、年寄りのいい遊び場を作ったらどうだって話してたじゃないか。それを実現できるか分かんないけど、ここを拠点にしてな、年寄りを集めて。

(E) 別にここだけじゃなくてもね。近所に集まってもらってもいいし。

(F) 持ち回りとか。それは中々大変だぞ、家の人。

(E) ご近所さんくらいなら歩いてきてもらえばいい。

(F) それは、歩いて来られるくらいが一番いいけど。まずは、進んでここに来られる内容



のもの。それぞれが、「こういうことやるなら、俺歩いて行っていいわ」、何か楽しみがあったりしてここへ来られる、そういうモノを作りたいわけよ。

(E) 今ね、宅配の弁当、あれをね一人で食べると、ボケるんだってね。

(F) ここで弁当食うとか。弁当食う会みたいなの。それでもいいだ。そういうのでいい。家で一人で食うなら、ここに来て、ここに配達してもらえれば、「飯食い行くぞー」って言って、ここに来て食べばいいもん。そのついでに、一杯やったり、何か面白いことやったり、将棋さしたり、麻雀やったり、カラオケやったり、その時に何か一つやってそれでは「さいならー」って帰ればいいんだ。

② テーマ2：高齢になった時、C町でどう暮らしたいか。

(F) 今、話したようなもんだぞ。

(E) (資料の移動手段を見て) 部落の中だと、今、シニアカー使って移動すればいい。まるっきり歩けないといかんけど。何も迎えに行かなくてもいい。それくらいの気持ちがないやいかん。あれは歩くより早い。

(D) あれ、転倒とかそういう心配はないのか。ちょっとした段差とか。

(E) 歩く程度なもんだ。それほど心配することない。あと外出かける時は、今色々考えているじゃん、集団でお迎えがあるとか、他の地域だとワゴン車で送迎をやってくれたり。

(F) マイカーでついでに送ったりとか、そういうこと考えてるじゃん。

(E) そりゃ燃料代さえ何とかしてくれりゃあ。あそこでもやってるけど、地域のお年寄りを病院まで運んだりとか。それも、ガソリン代とかちょこっとだけでやっているみたい。

(F) それがどこまで広がってくるか。ここまでくるか。もっと広がってくれればいいと思う。

(E) 俺が元気なら、Fを乗せてあげる。

(F) そういうことでも、保険とか保証とか色々絡んでくるもんで、おれらも今乗せて行ってあげたいけど、乗せて事故を起こして、保証しろと言われても、保証ができなくなるもんな。こっちからどうぞって言った場合には。

(E) 搭乗者の保険も入っているし。相手が保険なくても使えるものも入ってる。

(F) 全部が全部が入っているとは限らないだろ。

(E) やる時は最低限必要なことになってくるだろう。そういう時は補助が出ることも検討しなきゃいけないこともあるかもしれん。

(F) そういうことも検討しなきゃいけなくならんかもしれんが、それは俺らが考えることじゃない。

(E) 行政が音頭をとってやらなきゃならん。

(D) なんか今、そういうお困りの乗せていって欲しい人がいたら、その人を乗せていく制度があるよね、足助でも。

(研究員 N) 私たちのプロジェクトでもそういうことをやり始めています。

(E) この地域でも、一週間に一回、あいまーるが地域を回ってる。あいまーるを辞めてで

もいいから。実際にうちの部落では使ってる人誰もいないから。

(F) そうだなあ。多分、今誰も使っていないな。

(E) 無駄なお金だよな。そういうのを、ある程度地元に戻元できるようなポイントをちょっとでも高くして、地元のやっても良いよって人に還元できれば。都市部はバスが何本も走ってるかもしれないが、人口も多いから当然のことかもしれないけど、田舎はそういうシステムは難しい。でも、一週間に一回じゃ、やっぱり使い勝手悪いよね。

(F) ここの地域の路線を廃止して良いよって、そこの地域のトップなりが、行くべき所に行って交付税なりの話ができるシステムじゃないと。この路線あと1年間いっちゃう訳よ。無駄金を後1年間使うわけだ。もっと簡単に廃止できる、または、利用者ができたから、ここで増やしてくれっていうのを、そういうのが簡単に出来るシステムがあると、そういうのが簡単に出来る。

(E) この路線は、ここを通過して樫立や綾渡をぐるっと回って病院行ってると思うんだけど。綾渡で何人乗ってるか聞いてみたいけど。本当に無駄金だよな。

(F) ここで(C町集会所)時間つぶしてな。時間つぶしても誰も来ないから、出発してな、綾渡まで行っても、空の時間が多いんじゃない。綾渡でも、本当に都合が悪いもんな。道も悪いし、バスもあれしかないし。近所の人が、人を頼んで連れて行ってもらうなり、なんなりが、ほとんどなんじゃない。バス使わずに。

(E) それなら、登録した人が還元してもらって、少しでも、小遣いとは言わずとも、車の償却費くらいもらえれば。

(F) 他人でもいいし、兄弟でもいいし、親子でもいいし、そういう関係無しに、そういう登録をしてやれると、なおいいんじゃない。そうすると、「あの人登録したんで」って言って、「兄弟で行っているけど、隣の人も乗っていけるよ」って言って、簡単に使えるようになる。

(D) まずは、C町でFさんとEさんが登録すると良い。そうすると、あれC町でやってくれるよって、広まっていくかもしれん。

(E) (資料に)行事とかあるけど、地域のことは、自治会長さん(D)に頑張ってもらってな。交流は、暇な時は孫の所行ったり、友達と旅行に行ったりな。それなりに充実してるな。

(F) 人と交流ったって、交流なんてしてないなあ。寂しいもんで。交流なんてあらへんがや。

(E) 缶ビール1本、2本持って、遊びにおいで。

(D) 仕事をしてないと交流の場ってないかもしれないけどね。

(E) だから、そのためにはこの場所を使って。さっき話したみたいに。

(D) まだ田舎なもんで、いろんな意味での交流はあるんだけどね。村の行事とかある時はね。

(F) 車で出て行けば、そこらの田んぼや畑にいれば、話しかけてしゃべるくらいで。今だとそうして話せるから、それも交流っちゃ交流だけどね。そのまま(話しかけず)横向いて

しゃーって走っていくわけじゃないもんね。

(D) そこらへんは町とは違うところかもしれんね。

(E) 家の裏にねちょっと空き地があってね、そこにね露天風呂を作りたいなと思ってね。夢だよ夢。それもね農村舞台とも関わりがあってね、かかる費用も使った人が出すようにしてね。必要なもんだよ。農村舞台で合宿するにも、風呂がないと。百年草行けばいいじゃないっていかもしれんが、そういう問題じゃない、あそこは4時30分で終わる。

(F) ソーラーパネルでしょっちゅう電気でやれるようにしておけばな。

(E) ソーラーパネルも今屋根にのせて、使ってないしな。灯油のボイラーももったいないと思って取ってあるし。それほどお金かけなくてもやれるようになる。

(F) この先4年くらいでやれそうだな。4年ならまだ動けるな。

(E) お風呂あったら一つの魅力だよな。川を見ながらちょっと浸かれば。

(F) 木もいっぱいあるし、燃やすものはいくらでもあるし。

(E) お風呂は行って、ここでご飯食べて、一杯飲んで、最高じゃない。田舎の魅力だな、一つの。

### ③ テーマ3：将来のC町の農地や山林がどうあってほしいか。

(F) 山や田んぼや畑なんか、高い金で買ってあげればいつでも売ってやる。

(E) 誰が買うんだ。

(D) 0が一つ違うらしいね。昔1,000万だったところは、今100万。それくらい山の、木の価値が下がったということ。

(E) A町も昔、坪10万といわれたけど、今話進めても、坪1万5千。2,000万で家を建てられるのはそれが理由。それを地主さんが手放すかどうかね。だけど、山で暮らしたい、自然の中で暮らしたい人は、豊田市内まで1時間かからないでしょ。だから、魅力はあると思うよ。ボーナス払わないでも5万くらいの家賃で家が建てられる。アパート7万くらいでしょ。自分の家が建てられるのは、魅力があると思うよ。だけど、行政がやることは遅いから、5年くらい時間かかるな。

(F) 農地や山林の別の使い方を考えたいな。せっかくあるんだからな。何も手入れするわけじゃないだろ。あれがあるおかげで災害がないと思えば。

(D) 今山は安いから誰も手入れしないじゃん。だから今、災害のもとになってる。山に入ると、木の根っこが見えてる所もある、そういうところに雨が降ると山崩れになる。だから、今、税金を使って手入れしている。でも、それがなかったら誰も手入れしないで、もっと災害が起きる。

(F) それがある。森づくりや何かで手入れしているから、災害が抑えられているかと思うけど、これが野放しにされたら、絶対災害が起きると思う。しょっちゅう山崩れなんか起きちゃう。

(D) 山の中に草が生えなきゃいけない。でも今ね、山の中に草が生えないようになってる。そうすると、雨が降ると、ずっと砂を洗っていつちゃう。そうすると、木の根っこが出てき

ちゃう、そうすると木が崩れる、倒れる。そうすると、また崩れる。その繰り返しで。

(F) 山の方登っていくと、木の根っこが出てる。

(D) だから、日光が当たらないといけない。そこで、初めて草木が生えて自然が保たれる。

(F) 別の使い方っていうのは、それがあるけど。それを誰がやっているかという、持ち主がいて、そこに還元しろよ。災害が起きなかったら、立派なものだ。災害が起きたらえらい被害の金額だけど、なかったら万々歳だ。地域の人なり、山の持ち主なり、手入れした人にお金を還元するようにすればいい。そういう使い方できる。山があるがために、保水をしている、大雨が降っても山が吸って、川に常に水が流れる。山がなかったら、一回雨がふったら全部流れちゃう。

(E) 豊田市はその水道に、課税しているわけだ。それをいま山に還元しているじゃん。

(F) それをもっと下っ端にまで広げましょう。(資料に) 水力発電とか書いてあるし。今、パリ協定で二酸化炭素の問題で、各国が減らすように言われているじゃん。それを誰がやるかといったら、それぞれの企業や、それぞれの家庭でこれだけ減らすように言われている訳だよ。山の人、二酸化炭素を吸って酸素を吐き出している訳だよ、山の人のおかげでそれだけ吸っているとなれば、それも別の使い方になる。いくらでもある、考え方によれば。でもようやらんもんな、俺たち。力ないもんな。いっぱい方法あるのに。

(E) 水力発電は、僕がアンケートに書いたけど。そんなに大きなものじゃなくて、小さなものでいいんだ。そこで結構な傾斜で水が走っているんだ。一旦ストップさせて、配管で持って行って、先で落とすような。小規模な常時 2, 3kw のものでいいんだ。

(D) 昔あったんだ、そういうもの。各家庭に裸電球 1 個。その程度のもの。

(E) 24 時間フル運転だからね。この地域はそれ以外に使い道ないから。それほど難しい手続きなしにやれるはずだ。やりたいなあ。

(F) そいつがいいか、ソーラーがいいか、風力がいいか。水力は常時保守点検が必要になるし、どっちがいいか検討の余地はあるな。

(E) おそらく保守点検やってもメリットがあると思うよ。

(F) 昔の面影が残っているもんな。水力発電のな。

(E) 上にね、山を手入れするために、県の社宅が 10 何件あった。そこに電気を供給するための発電機があった。でもね、盗まれちゃった。

#### ④ その他の将来の希望

(F) だいぶ出尽くした。

(D) 前に研究員 N さんにも話したけど。葉っぱビジネスっていう、山に生える葉っぱを売っている地域がある。色々な木の葉っぱを取ってきて、ネットで売っている。小遣い稼ぎになっていて、それくらいならこの地域でも出来るんじゃないかと思っている。

(F) 許可はいらんのか。この前も毒のものを売ってたり。

(E) 実際にそういう地域があって、注文があったら、山に行って取って売っているんだ。

(D) 何かして、年寄りが小遣い稼ぎで、こういうところ集まって、何かそういうことがで

きると。さっきの麻雀だとかもいいけど、少しでもお金が入ると、ワンランク上の生きがいがあるのかなあと。

(E) おれも前、仕事行っている時に、料亭に頼まれて、山で色々とって持っていったことがある。まあ、一杯飲ませてもらったけど。

(F) 一杯飲めるだけ、稼げるんか。

(E) 以前ね、私が 40 代の頃に、隣の部落のおじいさんが、山に入っちゃ花をとってね、市場に出す人もおったじゃん。

(F) 今じゃ、百年草がいい例じゃん。山にあるやつを数百円で鉢にちょっと入れるだけで売ってるじゃん。ちょっと格好いい、鉢に入れたり盆栽だったり、やろうと思えばいつでもできそうな気がする。

(D) そういうものは結構豊富にここはありそうな気がする。

(F) あるけど、先立つものがおらんだ。今のところ元気いいもんで困らんし。もうちょっとたってから考えにやいかん。でも、動けなくなってからじゃ遅いしな。

(E) こうなったらいいっていうのは、やっぱり、みんなで憩いの場を作ってな。家で一人でくすぶってちゃ、ボケも早くなるしな。医療機関でも研究しとるし。今は憩いの場はないな。あるといいなあとと思っているだけ。

### D.3 第3回懇談会議事録

1. 日時：2016年11月24日（木）19時から20時
2. 場所：C町集会所
3. 参加者
  - (ア) C町住民：B, D, E, F
  - (イ) 東京大学：研究員N, 著者M
4. 第3回懇談会の流れ
  - (ア) 第2回懇談会の報告
  - (イ) 本日の意見交換のテーマ決め
  - (ウ) 本日のテーマに関する意見交換
    - ① テーマ1：地域の外にいる人のIターンの促進の取り組み方法
    - ② テーマ1：地域の外にいる人のIターンの促進の取り組み方法
    - ③ テーマ3：地域出身者のUターンの取り組み
5. 議事録
  - (ア) 第2回懇談会の報告
 

著者より前回の懇談会での議論の内容の報告.
  - (イ) 本日の意見交換のテーマ決め
 

前回の議論で出た将来の希望から、取り組みやすいものを、住民に選択してもらう。  
 (著者M) 地域出身者のUターンの取り組みがしやすそうだと思う方は、手を上げてください。

(F) できるかどうかは分からんけど、話は持っていけるね。自分のとこの子が出とるもので、帰ってこないかと言うことはできるけど、嫌だと言われればそれまでのもので。話だけは持っていけるので、これはできそうだね。

(著者M) 次に、地域の外の人へのIターンの取り組みができそうだと思う方はいらっしゃいますか。

(D) できやすそうというか、したいという。

(E) 今、農村歌舞伎の舞台があるから、かぶれとるというか、そういう趣味の人に来てもらったりね。

(著者M) それでは、高齢になったときに、地域で集まれる場づくりができそうだと思う方は。

(F) 集会所のような場所で、みんなが利用して、お年寄りが集まれる場所を何とか作りたいという思いはあるわね。

(B) こんなん、既にやってる。うちでやってる、行事や何かはみんなでわいわいやってる。

(F) それとはまた違う。一回、高齢者だけで集まれるようなものもいい。

(B) みんな高齢者ばっかじゃん。この部落はね、年寄りも同じ様なレベルで、祭事とか平等でやってる。だから、85の人も同じように当番があって、やっているんですよ。だから既にこういうことやっている。みんなそういうのに楽しんできとるんだ。

(D) だから、今言っているのは、それ以外の趣味みたいな、碁をやったりとか。

(E) まあ、日常のものだな。

(B) 生きていく気概というか、それでもみんな来てやってるんだから。他の部落じゃやっていないよ。みんな同じように役をやってる。

(著者 M) それでは、次に、高齢になったときの新しい移動手段として、地域での送迎などができると思う方。

(F) ちょっと難しいかな。一範さんくらいの腕がある方ならできるかもしれないが。

(著者 M) 次に、地域での山林の管理ができると思う方いらっしゃいますか。

(D) こういうことは今やっていると思うんで、森づくり作業で。

(B) でも、あれは自分達で手を下していないから。国の施策に便乗しているだけだから。

(F) それでも、手を上げないとやってくれないからな。やれる人が、リーダーがおって初めてやれるもんで、黙ってたじゃやれないもんで、それで今現状やっているもんで。

(B) でも、今度は自分のとこでやっていかなきゃいかん。今回は国の保証でやってくれたけど、次はやってくれるという保証はないもんで。持続性をいかにしていくか。

(F) (資料の) 内容が災害が起きないような管理ということで、ずっと保っていかんやならんもんな。基礎作りからいくしかないな。

(B) いいようにしていくにはどういシステムにすれば村で守れるかというシステムを作らなきゃいけない。死んじゃう人はいいいけど、次の代の若い人に伝えていくかということだ。

(E) 自分達の代は、まだ大丈夫だね。今やっとするし。20年は大丈夫か。

(D) とにかく、日が当たれば大丈夫になるね。

(B) 金がかかるからね。自分でやるにしても、人に頼むにしても。昔は自分たちでやってたけど。

(著者 M) 農地や山林、土地の新しい使い方をできると思う方はいらっしゃいますか。

(B) 面白いで(水力発電を)作ってみたらいい。

(E) エネルギーは無限にある。川はずっと流れてるから。

(B) けど、これにもあれ(お金)はかかるね。

(E) 資金もかかるけど、メンテナンスもお金かかるけど、メリットはあると思うよ。小さな小力発電でいいんだ。水路にらせん状のね、ムカデみたいなもの繋げてやる水力発電もあるらしい。

(B) ここの電力を間に合わせるくらいの。

(E) それぐらいのならできると思う。

(F) できるか、この水の量で。

(B) とにかく何にしたって、一人スーパーマンがいなけりゃいないといかんぞ。リーダーがおらんと、村に一人。何やるにしても、元気に先頭たってやっている人に引きずられて動くんだから。お前の言うことならどんなことでも聞くからやってくれっていう、スーパーマンがいれば。そういう人がいれば水力だってできちゃうよ。

(ウ) 本日のテーマに関する意見交換

① テーマ1：地域の外にいる人のIターンの促進の取り組み方法

(B) まあ、活動しかないね。いい活動してるぞってなれば、自然と入ってくる。ああいふところに入りたいなど。

(D) 農村舞台をやってるじゃんね。あれをネットで、今ネットの力はすごいじゃんね。ここ以外の人のお話を聞くと、こういうところに興味のある若い人は多いよって聞くじゃんね。そういう人に伝えるにはネットが一番の情報を伝える手段かなって。今、農村舞台はH自治区に預けて、ここを管理する実行委員会（H自治区全体のもの）を立ち上げて、そういう色々な催し物をしていって、関心のある人に見てもらって、C町ってこんな良いところだっていうのが、発信できれば、あわよくば人に入ってもらえることは期待してるんだけどね。

(B) 結局ね、まず興味を持ってきてもらう。

(D) そういう情報を発信するには、ネットが一番かなって。

(B) そういうことをやるには、年に1回くらい何かやらないとね。活動をね。

(D) 前に一回みんなで集まってね、歌舞伎の子たちと話したらね、こういうところで音楽やったり、下に寝泊りできる所もあるし、そういうところは魅力なんじゃないということはお世辞半分かもしれないけど言ってもらっているのだから、そんなことに使ってもらえれば、前に進めないかなと思うけどね。

(B) あそこも、寝泊りするにね、トイレさえ直してくれれば。

(D) 今ね、これ言っているのか、わくわく事業でお金出してもらって、トイレを直す分もできるんだよね。そうすれば、屋根は無理かもしれないけど、畳やらしつけちゃって、そこは板の間にした方がいいんじゃないかという話もあるんだよね。いろいろとかね。

(B) いろいろもいいけどね、場所をとっちゃうじゃん。そうすると、寝泊りができなくなる。

(F) 難しいことだけど、C町という部落としては、農村舞台は捨てたというのは、部落の会合で決定しているから。現状、C町のものじゃないとなっているわけだよ。それを今度また、C町に戻すという・・・

(D) ちょっと、その辺がね、多分C町じゃない。実行委員会みたいなものを立ち上げて、そこが、管理運営をしていく。C町はここにある以上は知らん顔できないから、協力はするけど。主体はその実行委員会の、実行委員会の名前もまだ決まっていなくて、その団体が主で動いていく、まだそのメンバーも決まっていなくてあれだけど、そこが主



体で動いていく。それだけど、H 自治区が、はいそうですか、という風にはいっていないもんで。まだ、何で C 町のものを（やらなければならないのか）、という声の方が多いと思う。ただ、自治区長さんが頼まれた以上ね、何とかやっていくとは思うけど。中々貴重な建物でもあるもんで。世間での話を聞くと、I ターンがあると、U ターンがあるという話もあるしね、そうなればベストだね。

② テーマ 2：地域で楽しんで集まれる場づくりの方法

(D) C 町の人、年とっても仕事してる人が多いもんで。

(B) じゃあ、70 以上の人は村の行事から引退させてくれよ。そうすれば、集まりも参加できる。だから、そういうのを提案したいわ。みんな同じ様にわりふっちゃうもん。

(E) そういうのも考えなきゃね。

(B) それでやってかなきゃ、そういう人は抜きで。やれなくなれば、やれなくなったで、止めていけばいい。氏子総代もあるけど、来年か再来年には、わしと、瞬ちゃんと立石君くらいになっちゃうよ。

(F) だんだんそうになってきちゃうな。

(B) それにね、見苦しいわ。あんまり年寄りがやってたらね。

(F) 見苦しいだろうが、なんだろうが、部落のことなんでそんなことは思わんけど。

(B) それを生きがいだと思えばいいけど、そうじゃないから。今日あれかな、当番かなと思うと、どえらいうっとおしいんだわ。本当に夜出るとというのが、すごいうっとおしいんだ。昼間でもうっとおしいけど。

(研究員 N) じゃあ、楽しんで集まれる場を、やるとすると、昼間がいいということですか。

(F) 年寄りが夜出てくるのは、えらいもんだけど。これは、楽しみでくるもんで、昼間出てきて、昼間ここで騒いだりわいわいしてちょっと遊んで、家に帰るって言うのがいいと思うけどね。

(B) これは暇つぶしっていうもんだ。

(F) 暇つぶしでいいんじゃないか。

(B) 暇がないんだもん。だから、引退してこういうこと（村の行事、係）やめれば、でてる。

(E) 3 日に 1 回くらい遊ぶのはいいんじゃない。毎日休むのはいかんけど。3、4 日に 1 回くらい。

(F) 週 1 でもいいんで、はじめはそんなもんでやるしかないんじゃない。

(B) うちも草刈りや何かを村でやってくれれば。

(D) 他の村だとそういうのをやってるじゃんね。うちの村はそういうのをやってないじゃんね。

(F) そういうのは部落の中で使って、部落の中でやればいいんだ。

(著者 M) (楽しんで集まれる場) 集まりではどういうことをやりたいですか。

(B) 責任がないことならいくらでもいい。リーダーなんてやれないし、リーダーがいて、何かやれって言ってくれればいいけど。

(F) 大体今までね、そういうこと少ないんだ。はじめここに来たときにこの若い衆は何が楽しみで生きてるんだと不思議でね。前いたところは、将棋や麻雀やったり、色々楽しみがあったけど。住んでみれば、静かだし、家でなにをやってても、人に言われることはないし。みんなにここで何したいかということも聞きたいんだわな。

(D) みんな、どういう趣味を持っているかなんて、おれでも無趣味の方だから、それが無いんじゃないか。仕事に追われて暇がないということか。

(F) お前のとこの年（年齢）でも、3人まとまってるやつがおるでな。

(B) みんな趣味違うから、集まれん。

(F) 集まってやることさえ見つけりゃ、みんな、でてくるんじゃないか。それをね、一人で楽しむやつは出てくる必要がないけど、2人3人で、楽しめるやつを作ればでてる。

(D) カラオケやりゃいいじゃん。

(F) カラオケでもいいんだ、一番手軽で集まりやすいやつからやり始めたらいいんじゃないかと思うんだけど。

(D) 酒でもつまみながら。

(E) ご飯食べて、おしゃべりして、1日ごちやごちやして。

(B) 2人でも3人でもいいんだ、少しでもやってれば、何やってるだって、なんか面白そうだってなる。

(F) それなら、ここを充実しなきゃいかん。ここでやるならな。テレビもないしラジオもない。そういうモノを充実させないと、何にも始まらない。お金もあるし買っちゃえばいい。勝手に買うとうるさいから、話をしてな。

(D) カラオケはこういうとこで持つには、どういうのシステムがいいんだ。

(B) 今の光ファイバーではできないのか。

(F) 毎月お金がかかるじゃん。でもセットは買っちゃえば自分のものなんで、いくら歌っても無料だからな。

(B) でも、何でもやっちゃうのがいい。だれか悪者にならんといかん。みんな協力するように持っていかんやならん。

(著者 M) 場所はここがいいんですかね。

(B) 本番は舞台でもいいけど、練習はここだな。

(D) そういうこともあるんだ。舞台を使ってそういうことをやってもいいかもね。

### ③ テーマ3：地域出身者のUターンの取り組み

(B) 出身者はね、今言ったようにイベントに巻き込んでいかないといけない。カラオケに参加せよとか、美味しいものあるんで食べにきなとか。

(E) 農地の活用法ってことなんだけど。農地を借りてやったんだけど。草刈り場が多す

ぎてギブアップして返したんだけど。おいでんさんそんセンターにはじめに言った時は、ぜひ休耕地だったら紹介してくださいという話だったけど、中々難しい。頼むには頼むけど、やり手がない。そういうところはじめの構想とは違う。将来的には小さな田畑と山林と原野にかすということだと思うよ。よっぽど場所のいいところがないとね。

(D) そのこのところに、土地あるからそこ使ってもらえんかね。

(E) そうはいつでも、やり手がない。使ってくれる人がいない。家建てるにも日向きもある。ほとんど光があたらん。

(B) 売るにしても、入ってくれるという人がいないといけない。家を建てたい人のために、色々な制度はある。だけど、どんな制度があるか分からんから、そういうことを知っているリーダーがいれば。

(E) ここの下が空き家になってるんだ、子育てにちょっと不便ということで岡崎に出て行ったんで。そこで話をしたら、じゃあ売ってもいいよという話はしたんだけど、支所に持っていったら、急傾斜地のため、更地にして家を建てることは困難であろうと。今、候補地としてあげているのは、瞬ちゃんのところの畑、そこは黄色の線（災害危険区域の範囲）のところ。

(F) 黄色は要審査だか。

(D) 空き家しかない。

(E) 空き家を上手く活用すれば。空き家も、柱を何本か使ってリフォームすれば。

## D.4 第4回懇談会議事録

1. 日時：2016年12月8日（木）19時から20時

2. 場所：C町集会所

3. 参加者

(ア) C町住民：Ah, Aw, B, D, E, F

(イ) 東京大学：研究員 N, 著者 M

4. C町第4回懇談会の流れ

(ア) C町ビジョンの報告

(イ) C町ビジョンの確認・修正

(ウ) C町ビジョンの実現に向けた意見交換

(エ) ビジョンの実践の中心者の決定

5. 議事録

(ア) C町ビジョンの報告

著者 M より、前回までの懇談会での議論の内容を、C町ビジョンとして報告を行う。

(イ) C町ビジョンの確認・修正

ビジョンの内容について、過不足や疑問などの意見があるか、確認するが、数分間発言がなかったため、そのまま、次の意見交換に移る。

(ウ) C町ビジョンの実現に向けた意見交換

(D) ここには、1から3まで（ビジョンの取り組みが）あるけれど、この前言っておられたかと思うんだけど、全部やるというわけではないんだよね。

（著者 M）やるかやらないかも、自分が決めることではないと思っていて、今日はそれも含めて意見を頂ければと思っています。

(D) 全部というのは、大変だし、前話していたように、取り組みの2（高齢者が楽しく集まれる場づくり）が、一番やり易く実現性があるのかなと思うんだけど。ただ、これが、どのような体制で行うか、各自か、地域で行うかということにも絡むかもしれないけど。

(Ah) やりたいことは、ほとんどやりたいことばかりで、20年前から私が提唱してきたこともあるし。ここ（C町集会所）を作って15年くらいになるが、ここを作る時に、年寄りの面倒を見るような、面倒見るといっても、お互いに部落のもので面倒みるだよ。例えば建物があって、昼間遊びに来て、嫁や息子の悪言ってればいいもんで、昼はそれぞれ米作ってるし、それ炊いて昼飯食べたりとか、あるいは夕飯作って持って帰るとか。そういうことができる建物をつくるということで、その頃は私も議員もやっていたもので、それも町では人数も少ないし負担が大きいということでできないが、ここを農林省の予算で作った。作物を集める場所ということで（集会所を）作った。僕らが欲しかったのは集会所が欲しかったんだけどね。それ（農作物の集積所）の附属施設ということで。今でもちょ

っと声かければ12人くらい集まってくれる。家にいても仕事もしない（人がいる）。ここに集まってきて、医者に行くまで（入院するまで）の人の面倒は、当時からここに2人も看護婦がおったわけだ。足助病院で婦長をやったようなやつが。それらが主となって常の面倒はみる。その人が年食ってきたら、順にその人らの子供がいれば、次はその子供が面倒みればいいんだというような計画したけど、あんまり村の人たちが賛同せなんだ。だから辞めちゃった。

同じことをH自治区でも、学校12年かかったけどあれ（小学校の付属施設）作るのに。毎年500円づつ、集めたんだ1戸で。2, 500万くらい集まったんだ。付属施設を作るのに。今、市の老齢施設に早いとこ手をつけておきたい。運営方法も別の方法で考えればいいんだけど、市からもらわないと駄目なんだけど。学校も学校の作りじゃないもんだ。だから、H自治区でもそういうことを進めて。区長が各部落から委員を2人位出して、やっていこうとしたんだ。多分やる気がなくて、出してもらえなかったと思うんだけどね。各部落から数人出して、そういうものを作っていこうと。H自治区の老人クラブにかわる、そういう団体を作ろうと。それができなんだ。力不足で。考える人は考えていたんだけど、自分も年くっちゃたし、余計なことをいうもんで、駄目なんだけどね、村八分くつとるもんで。だから、この前宣言したんだ、言わないやらない。まあ、息子が来れば（どうするか）分からないけどね。

だもんだから、今でもできんことはないけどね。みんなで集まって、わいわい言って、楽しめる場所に。畳の場所が2つもあれば十分だもんで。僕がこんなこと言っちゃいかんけど、若い衆が、今様のね。この3人あたり（D, E, Fらを指差して（Dさんは60代前半、他2名は60代後半、Ahさんは87歳））が考えてやってもらわんと。村八分食っちゃた人はもうあかんわ。今のままいったら、比較的個人個人が金持っているもんで。（Awさんを指して）80ちょうどか、まだ勤めてるんだよ。

この3人あたりが、提案して、村中で決まったことになればいいんだけど。それができんだ、この部落は。金があるもんで、そういう必要がないということで。若い人でもそういうことだ。なあ、Fちゃん。

(F) 全然そんなことないよ。金はないもんで、年金でひいひい言ってるもんで。生活に余裕がないもんで集まれないよ。

(Ah) 集まる契約をしとくれりゃあいいだろ。この3人と。

(F) 常に働かないと生活ができんよ。

(Ah) 口がすっぱくするほどいうけど、ちょっと言い過ぎるもんで、俺、どえらい恨まれとるんよ、この3人に。じじいが、ようやりもせんくせに、余計なこと言うなって。

(D) まあ、せつかくこういう機会を作ってもらったもんで。村にそういう意見を出していきはするけれど、最初は有志だけで、いいと思うんだよ。来たい人だけ。前も話してどったけど、じゃあ自分も行ってみようかって言う人がでてくれば。

(Ah) だけど、はじめるにしても、関心がある場合は別として、全部に話をして、じゃな

いとそれはあかんよ。一人でこれはいい話だと言って、やろまいかなんて言ったところで、かえって反発食うくらいで。だれでも金が余って、暇があるわけじゃないもん。

(D) もちろん話はするけど、有志だけでやることに対して了解を得る。全員が参加してくれればいいんだろうけど、中々そんなわけにもいかんけど。

(Ah) 参加ちゅうて、ここの部落の衆は、影でこそこそ言うもんで、面と向かって言わないもん。

(D) 有志だけでやること、ここを使ってやっていくことを、了解もらえるかが一つのあれかと思うけどね。

(Ah) こういうことが良いと思うから、こういうことを部落として進めていきたいが、どうだろうというのを、(村の人へ) 相談かければいいんだ。駄目だって言われれば、それは駄目だ。いいと思うけど、おれは協力せんという人もいる。

(D) まあ、そういう人もいるだろうね。

(Ah) 俺もおそらくそういう風になるだろう。まあ、(余計なことは)言わないでいて、協力もせんでいた方がいい。

(F) これを企画してくれて、やってくれたけど、著者 M 君はこれをどうしていききたいの。

(Ah) この H 自治区の部落で、C 町を選定したのは、ちょっと聞こうと思ったけど。全部はやっていないだろ。どういうあれで C 町をやったかということだ。僕らの若い頃は、どこに出しても恥ずかしくないくらい、部落が一つになっていた。人数も少なかったし、まとまり易いことも、まとまり易いんだけどね。勢いのいい人が、自分勝手なことをやるようになってきたというのもあるけどね。

(著者 M) F さんの質問にお答えしますと、地域のことを考える機会を設けて、地域の人がこれからの地域のために、何か取り組みを行っていくようになって欲しいと考えています。

(F) どうなったかという、その結果を見届ける気はないか。その後、C 町がどうなったんだというのは。

(研究員 N) 著者 M は今年卒業してしまいますが、プロジェクトとしてはあと何年かあるので、本当にこれをやりたいとなった時は、プロジェクトとして一緒にやっていければと思います。私は住民協創というグループですが、このグループは何かやる事が決まっているわけではなくて、住民の人がこういう話し合いをした結果、これやりたいというのがあって、やりたいこと全てではないのですが、私たちにやりませんかと言ってきて、私たちがやれそうなことだったら、手を組める。

(F) 著者 M 君はどこに入っているの。

(研究員 N) この住民協創をやっている先生のところで教えられている学生です。

(F) じゃあ、一緒にやろうよということでもないのか。

(研究員 N) いや、一緒にやろうよということなんですけど。あくまでも、この住民協創

の考えは、皆さんやらなきゃ駄目だよというのではなく、こういうこと(懇談会)をやつて、皆さんがこういうことやりたいといって初めて始まる。皆さんが、俺たちいいやって言っていたら、私たち勝手に、C町の皆様やりましょうとは言えないんですよ。

今、著者Mが何で、皆さんがあまり乗り気ではないかもしれないのにここに来ているかという、修士論文を書くためにお願いした結果、この地域が了解してくれたから、住民協創に近い考えの所でやっているのですが、学生だから学生を手伝って下さいということやらせてもらっています。私の場合は学生ではなく、プロジェクトなので、プロジェクトとして勝手にこのC町に来て、こういう課題が出たから明日からやりますよとかは、言われても皆さん困るじゃないですか。ただ皆さんが、著者Mがやってきたこういう会に何回か出て下さって、皆さんの中でやった方がいいかなという気持ちがあるのであれば、それを私たちプロジェクトの方に伝えて下されば、じゃあ一緒にやりましょう。お金もこちらで、もしかしたら用意できる部分もあるし、ないかもしれないし。そこも相談。プロジェクトとしてこちら側も取り組ませてもらう部分もあるし、一緒にやるのであれば、考えられる部分もあるんですよ。

(F) そういう話が前からでてったのに、何でできなかったのか。ここの(Ah)の話だと前からでてったのに。

(Ah) 前の話は国の施策でもなんでもなく、自分が思ったからやっていたことで、かずちゃん(B)が、お袋さんのお守りを、勤めに行っていて、昼に帰ってきてお守りしとったわね。そういうのを見て、部落の年寄りがごろごろ集まってるやつがいるから、そういう人が(面倒を見る必要がある人を)面倒をみればいいやと思っていた。おれが一番期待したのは、国の施策で、そういうようなことを、農山間地で持ってきて、それを指導してもらえる人たちと思っていたじゃん。ただ、それがなくて、何だ話だけかって。

(B) だから、リーダーがいるってこと。先頭に立っていくという人が必要ということ。

(Ah) 先頭に立ってやろうと思ったって、みんなが言うこと聞かんだもんで。何だあのやろうって。そんなもんで、(これまで)きちゃったんだ。

(B) だけど、1人でも2人でも、話をもって、まとめる人がいないといけないんだ。

(研究員N) そういうことに一緒にやっていくとなった場合は、例えばですが、そういうもめそうな所に、私が入っていくということもあるかもしれませんね。ただまあ、やろうという気があるのであれば、私たちプロジェクトは見届けます。

(Aw) ある意味、社会資源を利用するということが全く分からないと言ってもいいくらい分からないんですよ。そういうことも突っ込んで勉強すれば、もう少し考え方が変わると思うんですよ。今使い方が分からない所もあると思うんですよ。足助病院の院長は医療の側面から取り組んでみえるんですけど、山の中の医療をどうするかと一生懸命なんです。そういう面ではありがたいなと思っているんですよ。色んなことを発想して、あすけあいカードを持っているといいなと思ったこともあるんですよ。ここも、昨年から僻地研修として来てくれる様になったんですよ。それは、とてもありがたいことだなと思っているん

ですが、中々行きたくても行けない。そちらの方は予防医療になるんですけど、予防医療に力を入れていかないと、大変なことになるよと。

(研究員 N) 今、予防医療という話もあったんですけど、例えばなんですが、高齢者の集いみたいなのをやるとすると、何月何日足助病院の院長に来てもらって、医療の話をする会と企画するとかもできるんで。

(Aw) この前、先生が見えて、話をしてもらったんだけど。あまり難しい話をしても皆さん分からないので、噛み砕いて説明して下さって、皆さん少しは分かったんじゃないかなと思うんですけど。

(研究員 N) そういう会合をやっていくという、せっかくこういう場所があるので、さっきも仰っていたように、そういうことをやるのもいいと思うんですけど。ただ、私がいいかなと思って、やることではないので。

(Aw) こういうことをやりたいんですけどと、言うのはいいですよ。

(研究員 N) 言われましたら、はい、わかりましたという感じです。

(Ah) 自治会長さん。この案を元に村の衆に、本当に、何かやるかどうかという話をさあ。いくつか書き出してもいいからさ。

(Aw) これから数年の内に、一人暮らしの方が増えるんでね。今、夫婦単位の方がほとんどなんで。

(D) さっきも言ったように、せっかくこういう機会を作ってもらって。4回も皆さんに集まってもらって色々話をしてもらったもんで。その結果を、やっぱり定例会には、こういう風な話があるけど、どうだねということ、話はしなけりやまずいと思っているけど。まあ、その中でまた色々な意見が出てくるかもしれんけど。

(Ah) それは必ず(出てくる)。それじゃあ今出てきた事が、その通りにやっていけるかということ、それから始まるもんだから。

(D) その中で分からんこととか、教えてほしいことは相談させてもらって、少しでもいい方向にもっていけたら。

(Ah) 例えば、舞踊の会をもつたって、できんことはないよね。

(D) それはいいじゃない。なんでも色々言って、やってやろうというのは。前も話たけど、そこの田んぼね、村の人が集まったときに、なんか作って、則定かなんかで売って、その後、カラオケかなんかやると言うのも、またそれも一日の楽しみになるし。

(Ah) いいじゃん。好きな人もあるし。

(Aw) まず、その辺が手始めだと思う。まだみんな動けるもんで。

(E) みんなで作業して、一杯やる。個人個人でやるんじゃないくて。

(Ah) ここに先生 (E) がいるもんで、作るもんなんかね。同じもんばっか作ってちやいかんもんで。

(Aw) NHKでよくやってるね。特殊な野菜作って。この前もなんか紹介してましたけど。



(Ah) 多少でも収入がでるとなると、また、一味違う事ができるだろうし。まるっきりボランティアじゃ、長くは続かないだろうし。あれ作るといっても、五平餅じゃあ、技術もいるし。自分達もやってるけど、2人だけだから。食べるだけなら、こんな所で肩が痛いなんて難儀してないでも、買った方が安いぐらいの話になる。

(Aw) それ言ったら、何にもできない。

(B) あのね、さっき良いこと言っていたけど、15年前くらいに作ったここ、古里の産品作り拠点になると思う。もともとそのために作ったもので、サインしとるんだ。騙してるんだ国を。

(E) 私もね、この前に漬物作ったけど。ああいうものも珍しい。あれも喜んでもらえるもんで。

(Ah) それは、自分個人でやってる人は、ボランティアでもしょうがない。ほとんどみんなに配っちゃうんだろ。

(B) だから、とにかく何でもいいで、一つでもいいからはじめるということだ。そうすると、著者M君だっただえらい喜ぶ。そのきっかけ作るために、来とるんだ。だからひとつ始めてくれりゃあ成功だ。卒業論文書けるんだ。3年先までに必ずやりますという結論ができればな、お前もう卒業だ。

(Ah) 俺もね、裏の田んぼもう、(Dへ) 返したい気になってきたんだ。ああいうところ、みんな持ち寄ってな。あそこ、日当たりもいいし。ここら辺はどえらい昔から、日当たり悪い。作物が作りにくい。

(B) だから、またここで豆腐作ったり、こんにやく作ったり、そういうことやりますということで、作ってもらったんだ、ここ(集会所)を。

(E) まだちょっと忙しい、毎日が。

(Ah) 仕事行って、帰ってきてからやればいいんだ。

(E) 夏は暗くならんと、家にあがれんだ。

(F) 結局そういうきっかけ作りに来てくれていたと思うんだけど。ここで、やろうと一人が手をあげて、リーダー的な人がいれば、一番ことがとんとん進むかもしれんけど。いずれにしても、何か一個、ここまで来たんだもんで、何か一個やろうや。

(Ah) カラオケでも。部落でなあ、60インチくらいのでっかいテレビでも買って。

(F) いっぺんにはできんから、まず一度定例会にかけてな。たとえ、ちっさなものにしても、家のものをもってきてくれる人がいればいいけど。例えば、カラオケなんかやろうとしたら、画面欲しいもんで、テレビも欲しいわな。で、設備も欲しいわな。すると、金かかるわな。それでもみんなが良いと言ってくれば、買えばいいけど。なかには、そんな余分なもの金使うなと言う人もいる。じじいが2人来て将棋でもやるかというなら、将棋の1つくらいなら、そんなたいしたことないで、これくらいならいいかって、認めてくれるかもしれんし。その程度くらいから、みんなにどうだって計らって、何か一つやりたいなって思う。

(Ah) やっちゃん (D) のところに、こんなでかい碁盤あるだろ。

(D) あるよ。使ってないけどあるよ。

(Ah) そういうものを持ってくればいいんだ。

(エ) ビジョンの実践の中心者の決定

著者 M より、高齢者が楽しんで集まれる場づくりの中心となってもらえる人の呼びかけを行った。

(著者 M) 今回の一度限りということでもよいので、懇談会に参加していない人への呼びかけや、取り組みの詳細を考える人を、誰か手を上げていただけないでしょうか。

(F) やってもいいけど、もう 3 年や 5 年、待ってくれりゃあ。おれがリーダーでやってもいいけど、ちょっとまだ早い。まだ忙しいもん。別にリーダーは一人出なくてもいいもん。例えばここにいる人間が、2 人でも 3 人でもまとまって考えようでもいいんだ。1 人だと負担が大きいかいけど、複数いれば忙しい時でも、分担できる。会長さん一人でやれとはいわんもんで。

(D) オレは除いてくれ。そういう話し合いはするけども。

(F) ここで決める決めんわ、別にしようや。

(Ah) それはもちろんいかんよ。これは村で集まって決めんと。

(F) 一回定例会にはかってさ、みんなに、こういうこと今やってるよとか、こういうこと進めてるよとかさ。会長さん一度言ってさ。

(D) さっきから言うけど、今度の 12 月の定例会の時に、これまでの経緯と、結果を話して、こうしたいと言って、一度皆さんの意見を伺わないと。そういうことはやらんとは思っているけどね。

(E) まだ、ここには 3 分の 1 の人しか集まっていないから、決めようがない。こういうことやっているのは、みんなに顔を出して、知っているわけだ。

(D) まあ、この前の定例会のときも話をしているから、ある程度は知っていると思う。中身についてどれだけ承知しているかは分からんけど。ただ、こういうことやっているのは皆さん承知している、勝手にやっているとは思っていないと思う。

(著者 M) 一度定例会にということが、必要なんですね。

(E) それはそうだね。

(Ah) カラオケなんかは、200 万も出してもらえばできるもんで。

(F) 俺は出さへん。

(Ah) お前の金じゃない。

(F) 俺の金と一緒にだあ。自由に使われるのは許さんなあ。

(Ah) 村で決めればいいじゃん。

(F) そう急がなくていいじゃん。ゆっくり行こうよ。

(Ah) そんなの言ってたら、俺死んじゃう。

以上

通し番号 1 ~ 191 完

修士論文

平成 29 年 2 月 3 日提出

47-156691 赤城 光春